

滝又の滝 (京都北山)

中川 光郎

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて31年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーが応えいたします。

スイスアルプス・ハイキングと氷河急行
ルツェルン 8日間 <関空発着>

出発日 ●7/13・20 ●8/3・24 ●9/7
¥298,000～¥366,000

<エーデルワイスとブルーボビー咲く、高山植物の宝庫>

四姑娘山フラワー・ハイキング10日間
<関空発着>

出発日 ●7/18 ●7/24 ●8/8
¥272,000～¥296,000

米本土最高峰

Mt.ホイットニー登頂8日間<関空発着>

出発日 ●7/21 ●8/4 ●9/1・15
¥494,000～¥584,000

北アルプス・双六岳～笠ヶ岳周遊4日間

出発日 ●7/28 ¥69,500 <大阪発着>

北アルプス最高峰Mt.ツバキ登頂5日間

出発日 ●7/20 ●9/14 <関空発着>
¥158,000～¥178,000

新ハイ関西企画

マッキンリー展望ホテルと
アラスカ紅葉ハイキング
7日間

9月22日(金)～9月28日(木)
¥335,000 (関空発着)

カラフルに染まる秋のアラスカ。手つかずの大自然が魅力。遇上するサケの群れやオーロラを見るチャンスもあるかも・・・ぜひご参加ください。

カナディアン・ロッキー・パノラマ
ハイキング 10日間 <関空発着>

出発日 ●7/14・21 ●8/18 ●9/1
¥498,000～¥568,000

<東北の名峰シリーズ>

岩木山、八幡平、早池峰山、秋田駒ヶ岳
登頂(前夜発)4日間 <東京発着>

出発日 ●7/18 ●9/19 ●10/17
¥98,000 (東京までの交通別料金千円可)

八甲田山、岩木山、白神岳

みちのくの山旅 5日間 <東京発着>

出発日 ●7/12 ●9/20 ●10/11
¥126,000 (東京までの交通別料金千円可)

ネパール・ヒマラヤ <特設説明会>

◆7/26(水)◆8/23(水)◆9/20(水)
18:30～20:30 [入場無料]
大阪科学技研センター405号室
(地下鉄四つ橋線本町駅下車・北へ徒歩5分)

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

アルパインツアーズ サービス株式会社

大阪支店/〒550-0004 大阪市西区本町1-10-22 (※005ビル4階)
TEL: 06-6444-3033 / FAX: 06-6444-3032
広島テレビステーション(大阪支店転送) TEL: 082-542-1660

ご請求下さい!

アルパインツアーズの総合
ツアーカタログ。
世界の山旅・辺境の旅
夏～秋号(140頁)
海外・国内のハイキン
グ・登山コース満載!



白馬雄々岳 (北アルプス)

風に追いかけられながら
 稜線を静かに這い消えてゆく
 どこへ行くのかと
 いったい誰に尋ねようか
 背後に残した薄い雪が
 いくらかそれを伝えてくれる
 東の地平に泉が湧き
 純白の衣を纏い現れる
 過ぎし日の姿の形見のように
 流れ消えゆくわずかな言葉をと
 とどめようとする光の線
 風に吹かれ衣はたなびき
 同じ営みをひたすら繰り返すと
 やがて出る扉に姿を変え
 言葉も地平線の彼方に沈む



白馬遠望 (北アルプス)

Photo essay

渡る風

題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松永 恵一



白糸の滝 (長野)

季節の



ハクサンフウロ



ムクゲ

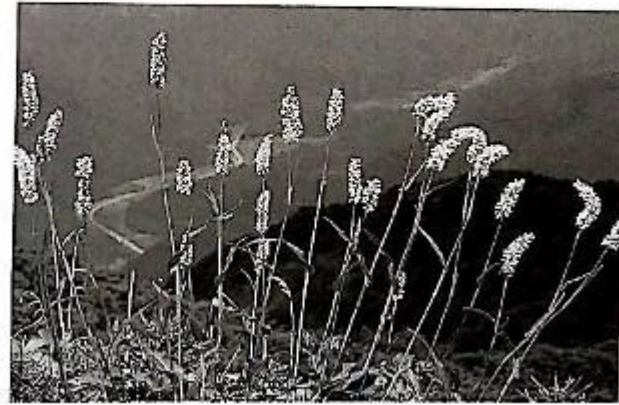


杉林

実景

盛夏

撮影 武市通治



イブキトラノオ



夏山 (伊吹山頂)



船窪小屋から立山（北アルプス）

榊原 計国



朝の雲（大台ヶ原）

三浦 弘幸



スバリ岳から針ノ木岳（北アルプス）

榊原 計国



岳の空（大台ヶ原）

三浦 弘幸

●目次

表紙：松田敏男「盛夏の北岳」(南アルプス)

●作品プロフィール ●1946年、京都の生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳作家、山岳家の調査活動開始。(京都市立総合芸術高等学校、東京キャリアリーガ、他) 京都市と親しく関係し、日本山岳会会員、一等山岳研究家

新ハイキング 5冊 関西の山 00年7・8月 盛夏 第53号

コース ガイド	紀行	写真 目録
1 長万部山(北海道)	1 伏拝から鳥帽子岳(南アルプス)	1 夏の風..... 撮影 由井 文 松永 恵一
2 丸山(白川)	2 津河津山から大和岳(北阿蘇)	2 季節の寒暑(成層)「インキョートラノオ」他..... 武市 道博
3 三嶺(西阿蘇)	3 飯沼山(山ノ越)	3 手前の寒暑(成層)「インキョートラノオ」他..... 武市 道博
4 長万部山(北海道)	4 飯沼山(山ノ越)	4 手前の寒暑(成層)「インキョートラノオ」他..... 武市 道博
5 長万部山(北海道)	5 飯沼山(山ノ越)	5 手前の寒暑(成層)「インキョートラノオ」他..... 武市 道博
6 長万部山(北海道)	6 飯沼山(山ノ越)	6 手前の寒暑(成層)「インキョートラノオ」他..... 武市 道博
7 長万部山(北海道)	7 飯沼山(山ノ越)	7 手前の寒暑(成層)「インキョートラノオ」他..... 武市 道博
8 長万部山(北海道)	8 飯沼山(山ノ越)	8 手前の寒暑(成層)「インキョートラノオ」他..... 武市 道博
9 長万部山(北海道)	9 飯沼山(山ノ越)	9 手前の寒暑(成層)「インキョートラノオ」他..... 武市 道博
10 長万部山(北海道)	10 飯沼山(山ノ越)	10 手前の寒暑(成層)「インキョートラノオ」他..... 武市 道博

今年の5月の連休は絶好の天候に恵まれ、計画通り、2人で遠征の「近畿百名山」のうち、伯耆子岳・牛嶺山・熊鷹嶺山の三山に登ってきました。

小型バスがどうにか通過できるほどの山奥にある山で、車窓から見る風景はすべて、今の日本にこんな所かと疑うような、まるで一昔前、私が子どものとき上里の村で見た光景そのものでした。奥宮野はちょうど影が濃くなり、スミレが咲き、木々が芽吹いて、やっと思が訪れたところでした。「奥宮野自然の里」の裏山にはシマウバカマが群生しており、いっせいにピンクの花を開いていました。大股では平家源人の里を見学したり、牛嶺山の下山では古い吊り橋を怖々と渡ったりと、楽しい3日間でした。

一番の思い出は、伯耆子岳から五百瀬までの小川筋道をくだったことです。山腹に沿って緩やかに下り流が緩々20分も続き、さすがに熊野古道だとその道の拓き方に感心させられました。高野山から山を越え尾根を歩いて波路野へ通った昔からの道を、今こうしてたどれるのも山歩きができたからこそです。

新ハイキング関西(表紙) 村田 龍雄

巻頭言



Burner

火力をあやつる。
信頼性とコンパクト性

容易なメンテナンス、安定した火力、燃料を温めないクワが搭載されたMSRバーナー。日帰り山行での理想的なアイテム。約まりの燃費などに威力を発揮するコンパクトバーナー。信頼性とコンパクト性が機動性と安全をサポート。

MSR/ドラゴンフライ ¥20,800→
¥18,000(ポトル別売)

独特の火力調整を実現したドラゴンフライの改良版。燃費向上と調整のしやすさで、ベースキャンプに最適。



MSR/ワイズピーライトインターナショナル
¥13,500→¥12,000

マイクローブを折り畳んで作るMSRのベストセラー。2段階の火力調整とメンテナンスも簡単なインターナショナルストーブ、ピットル別売。

Triangle/
アルコールバーナー+リジナルストーブ
¥2,900

最も使いやすいアルコールバーナー。調整のしやすさで、ベースキャンプに最適。

SNOPEAK/燐
¥3,900(ガス別売)

軽量、調整のしやすさで人気のSNOPEAK。3段階の火力調整で、登山やキャンプに最適。

MSR/ポップコーンストーブ ¥7,500→
¥6,750(ガス別売)

軽量、調整のしやすさで人気のMSR。2段階の火力調整で、登山やキャンプに最適。

T-shirts WORLD

やっぱりTシャツ。アウトドアの面白く、楽しく、機能的なTシャツが勢揃い!

patagonia GRAMICCI
Fox Fire THE NORTH FACE mont-bell

MSRキャンペーン開催中!

7/15まで期間中。
1. MSRストーブお買い上げの方に、燃料ボトルプレゼント!
2. 僕らご使用のMSRストーブをメンテナンスサービス!
お気軽に申し込まない。

レインスーツフェア開催中!

インターネットで素々お買物!
ホームページアドレス:
<http://www.odbox.co.jp>

新ハイキング 会員の方に特別割引

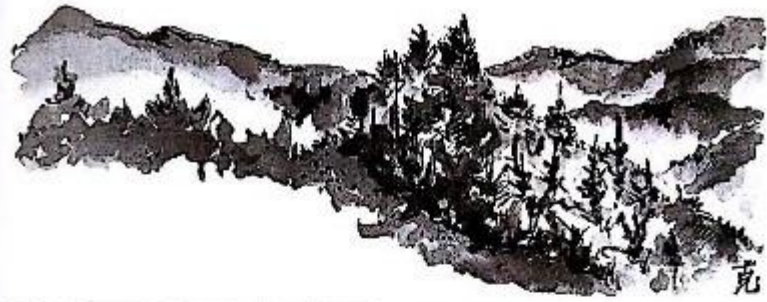
新ハイキングの会員の方には特別割引をいたします。新ハイキング会員登録お支払いの時、ご提示下さい。

大阪店
ビジネスデパート
新下町西橋筋より徒歩5分

T042-C085
大阪府中央区西本町
2-10-24
TEL06-6212-9688
FAX06-6212-9811
営業時間AM11:30~PM8:00
日曜・祝日もPM9:00まで

OD BOX
大阪府中央区西本町2-10-24
TEL06-6212-9688
FAX06-6212-9811

目録や写真も
衣食住
遊登潜
OD BOX



克

ひそやかな秘境への招待

奥田 英一郎

「山に優しく歩く人たちに」
昨秋、「新ハイキング」関西版の巻頭頁で、今西鏡司さんの「名山考」引用と、新ハイ関西代表の村田智俊さんの相反する主張を読んで少し気がなっていた。

今のご時勢では、正隅に自分の好きな山のことを口滑らせるわけにはいかない。「口を割らない」というのが、私の山との約束である」というのと、私たちの山歩きは、たくさんの案内書や雑誌によって大いに恩恵を受けているのだから、「どうか口を滑らせて大好きな山を紹介してください」というものだった。主張の異なるお二人の心の深いところに目を凝らせば、ど

ちらにも意のあるところが読めて、何もかんかんがくぐくと論じ合うことでもないと思いがらも、自分なりに一つの試みを呈したいと思う。

私が住んでいる近くには、旧跡・城跡などがたくさんあって散歩にはこと欠かない。金剛山・岩瀑山・葛城山などと、けっこう名のある山もあって休日ならずとも賑わっている。が、たいがいは決まった道を往復するだけである。地図でも読んでコースを変えようと、のどかな風景や好ましい道があつて、静かな自分だけの山が楽しめるのである。しかし、ほとんどの人は知らない道や名のない山には足を向けないようである。

金剛山には時々出かける。冬は桶水を、春はニリンソウの道へ、夏はブナの緑陰、そして晩秋には落ち葉の雑木林……と四季おりおりの変化が好きなのである。

いろいろな登り方があるのもおもしろい。粋いたビーナツを手のひらに載せてヤマガラを呼ぶ人、嬉しそうにハーモニカを吹く人、真剣な面持ちで待を吟じる人、なかに足踏で歩いている人……実にさまざまな楽しみ方があるものだと関心する。

なかでも子どもたちの夏休みの依據に欠かす出番して、印を押してもらおうのが嬉しかったように、回数を減らして登る人が大勢いる。そのうえ小・中学生の集団が押しかけるものだから、結果、山の尾根も谷も次第に荒れてゆく。植木の木の根はむき出しになって、山主さんたちは大層嘆いておられた。

山は、雨・風・雪によってそれだけでも風化が進む。そこへ名のある山には登山者が集中するものだから、最近では山頂付近の傷みの激しいところは、ロープや木柵などで保護されるようになった。大台ヶ原の日出ヶ岳が



克

随想 (山のエッセイ)

そうだし、金剛山などはメインとなる道は舗装されました。気が付くと、自然に生えていたクリンソウ・カタクリ・フタジソウの花も見られなくなり、人が植えた花だけが細々と咲いている。一人で谷筋を歩いていてひと息入れようと切株に腰をおろそうとした時に、足もとにみごとな松茸を見つけたことなど、昔がたりになってしまった。これが「今日のご時勢」というものだろうか。

しかし、狭いと言われている国土のあちこちには、まだまだ歩かれていない知られていない道や山がけっこうあるのだ。山頂付近が繁華街並みの金剛山にしても山懐は深く、私には誰にも知られないひそやかな秘境がある。登山道から少し離れた、丈の低いクマザサのなか一時にはカタクリの花がそと咲いている——とおきの所を、パートナーは、自分たちのメタ

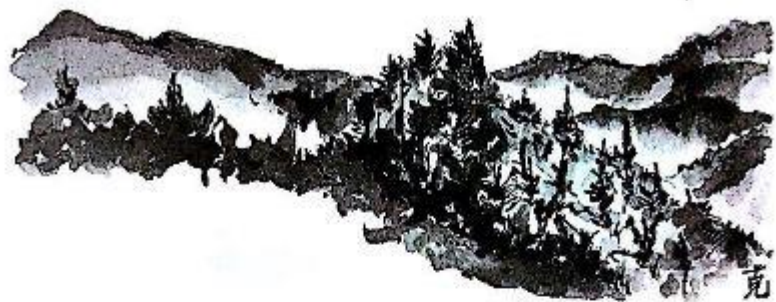
標と呼んでいる。そんなひそやかな「隠いの場」を数えたくないのは、何も自分一人が独占しようという根柢がなくて、勝手にじられ荒らされるのがいやだからである。心ない人たちによって、美しい自然がどれだけ壊されてきたかということはお互いに知り尽くしている。

だからといって、「口を割らないのが私の山との約束である」とまでは思っていない。「新ハイ」関西版によって知らない山やいい山を随分教えてもらって大いに感謝している。そこで、今日は雑言にあるお二人の主張の違いを対立的にとらえないで、山に優しく歩く人々に、自分なりの方法で「メタ標」を暗示しようかと思う。

そこは山の中のみそやかな渾原である。私はそこを元日本山岳会会長、関西支部の故植花道子さんによって知った。

図を見ていて、その渾原記号が気になって出かけられたという。その渾原に立たれて、「まるで子どもの頃の秘密の場所に来て、遊んでいるように目を輝かせた」と書いておられる。もちろんその場所は明示されてはいなかった。文面から手がかりをたぐって、やっとう万分の1の地形図を見定めたのである。あとは丹念に地図を読んで、くだんの渾原を探し当てることができた。

ヒントの一つは、そこは老木好子さんの小説の中で、しばしば舞台となるエリアである。小説を読まれていない方のためにいま一つのヒントを用意すると、そこにはかつて奥所が近くにあってと三つ折られているあたりである。5万分の1の地形図を読まれる時点で確認するために、さらに付け加えると、そこに行くにはY牧場を通らなければならぬ。ちなみに、牧場で道を訊ねると、「水書や野苧を持ち帰る人がい



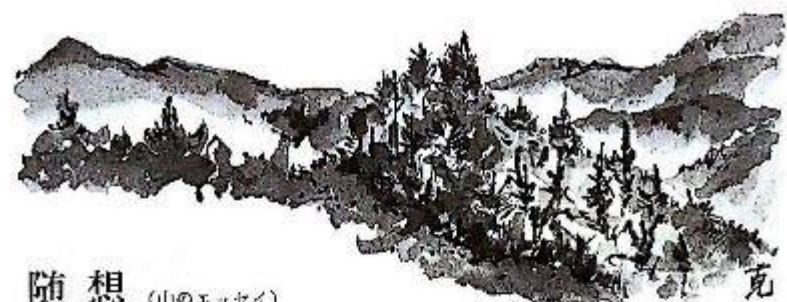
克

るので、人を入れないようにと役場の方から言われています」と返ってくる。急のため……。

柿花さんが訪ねられたのは花の季節だったようで、「白色の小さな○○ソウ、黄色の△△ラン、ピンクの××ソウなどがひっそりと咲いていて、……そこへトンボが飛んで来て□□ソウの上に止まり、しばらくしてツクシと飛んでいった。……」と述べている。

私が訪れたのは花のない季節だったので、花には出会えなかった。道に迷ってしばらく歩き廻ったあげく、やっと草地を抜けて小高くなったやぶをかき分けると、前方が明るく開けて湿原にたどり着いた。外からは全く見えない別世界がそこにあった。ちょうど安房直子さんのファンタジー『きつねの窓』の舞台にでも出てくるような山中の湿原だった。

文章から謎解きをして、地形



克

随想 (山のエッセイ)

と何ら変わりはない。

このことは金剛山だけの現象ではない。

たとえば大台ヶ原の駐車場から日出ヶ原に至る道も、コンクリート舗装と木製階段で都会化公算化している。

他にも多くの山道に多額の費用をかけて自然を破壊し、豊かな自然を求めて山へ向かう人を失望させてしまっている。

経済大国の日本は、あらゆる山道に、階段・舗装・橋・手すり・ベンチを設置し、登山リフトを建設してゆく。

このようなことが登山者に対して親切であると誤解をしている人たちがいるらしい。

反論として、山は健康で健康の人にだけ独占されるものではなく、あらゆる人に登山の楽しみを享受してもらえようように登山道を整備すべきであるという意見がある。

確かに、金剛山の階段を利用

図の中から探し当てた充足感が、もう一つの喜びとなった。

登山道の階段は 迷惑千万

平 一郎

久しぶりに金剛山へ登った。千早本道を歩くと、登山口から山頂までびっしりと丸太の階段が敷き詰められている。

かつて、ボランテニアでこの階段作りをしてる人々の様子が新聞紙上で紹介されていた。歩くだけでもしんどい山道に、階段を作る作業はさぞかし骨の折れる仕事であろうと、この人たちの努力に対しては頭の下がる思いがする。

この人たちは、階段を作り補修することは、安全に金剛山に登山するのに必要なことであると確信し、登山者に喜んでもら

えらと思うって奉仕しておられるに違いない。

ところが登山者によっては、この階段がはなはだ迷惑だと感じる人もいるに違いない。

かく言う私もそのひとりである。とにかく階段は坂道よりも疲れる。ちっとも楽しくない。これほど迷惑なものはない。

金剛山への登山者は、登山回数が多い人たちが多く、登山回数を稼ぐためには安全かつ楽に、短時間で登山できることが必要になるだろう。

だが、金剛山に登る人は、登山回数を稼ぐ人だけではない。私のように自然を楽しみ、気分転換をはかり、健康の増進のために登る人も少なくないはずである。

わざわざ山道を選んで歩くのは、舗装路や階段（これも一種の不製舗装であるが）が好きではないからである。このような所を歩くのなら都会での日常生活

すれば、より多くの人が手軽に登山できるだろう。反面10000歩を植す山に、手軽に気楽に登れることが、濃難事故につながる恐れもある。

昔、わが国では道路の舗装率が欧米諸国に比較して、非常に少ないことが問題になってきた時代があった。当時は道路舗装率が文明のパロメーターのひとつであったが、自動車道の舗装が完備した現在、山道の舗装率を向上させることに熱意をもっている人たちが存在することは、実に困ったことである。

金剛山を歩くと、わざと階段のない片隅を歩いている人がかなりいる。そして階段の横に細い自然な山道ができていて、この細い道はそのまま放置しておいてほしい。

それなのにその自然な道さえも階段を作ってしまう。階段以外の迂回路ができる、またその道に階段を作ると、

階段の好きな人は階段を利用すればよいが、階段嫌いの登山者は、どうすればいいのだろうか。

せめて山道の半分だけでも、階段の嫌いな人のために残しておくてもらえないものだろうか。



三伏峠から烏帽子岳

鷺見守康

南アルプス

南アルプス北部の甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳は、名古屋近郊からならマイカーで日帰り可能な山嵐だが、それ以外の南アルプスは奥深く、アプローチが不便なものと思っていた。

しかし、近年、中・南部の山も次第に取りつきやすくなっており、中央部の三伏峠をめざせば、日帰りでも南アルプスの縦走に立つこともできる。このことを私が知ったのは、まだ最近のことである。

三伏峠は、わが国でもっとも高所にある峠として知られている。そこからおよそ40分ほど南下した烏帽子岳は、3000mを越える北の短見岳などの陰にかくれ、あまり目立たないピークである。

「烏帽子岳」という名を耳にすれば、多くの人は北アルプス奥穂高の特徴的な縦峰を思い起こすのではないだろうか。南アルプスの烏帽子岳も標高2725mの堂々たる山岳であり、主稜線上のピークの一つなのである。

烏倉林道

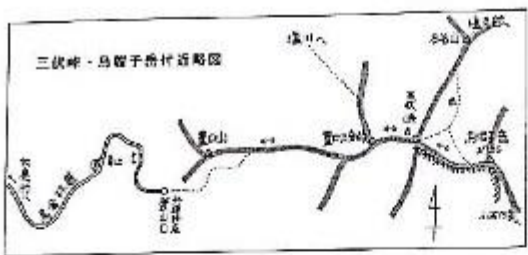
三伏峠へは、従来、塩川ルートが一般的であったが、烏倉林道が開削されてからは、時間的に短いこのルートを利用する登山者が多いという。

三伏峠からさらに烏帽子岳に足をのばすため、午前8時には車止め終点まで到達したい。逆算すれば、名古屋や岐阜を

は舗装も良く、やがて快適な山岳ドライブとなる。

途中、広い駐車場にトイレを完備した夕立津バノラマ休憩所がある。明ければ、南の方向にアルプスの稜線が望まれる。

道脇には、はみ出し駐車禁止の看板がある。大型車の通行を確保するため、この日は小型バスが乗り入れていた。待機中の運転手に訊ねると25人乗りだという。このクラスのバスなら心配なさそう



車止め終点に近づくにつれ、数ヶ所の駐車スペースが用意されて

いる。終点の駐車スペースは、すでに満車状態のため少し戻って駐めたのだが、そこにはフロントガラスに伝言メモが貼られた車が駐まっていた。(風になって読んでみると「多くの方に迷惑をかけています。車に戻ったら電話連絡を」とあり、家族のものと思われる連絡先と大鹿村役場の電話番号が記されていた。日付は8月17日。すでに5日間経過している。

身仕度を整えて出発。しばらく林道を歩く。花が多く、楽しい林道歩きだ。道沿いの岩壁に鮮やかなピンク色のピランジ(オアシソ科)の仲間を見た。タカネピランジかと考えたが、後日自然観察会の仲間に照会するとオオピランジだろうとのこと。

ゴマノハグサ科のクガイソウに似て、柄の大きな花が目立つ。昨年初めて出会った花だが、おそろしくヒメトラノオだろうと思っている。

登山口から三伏峠へ

50分ほどで登山口に到着。登り始めはジグザグの急坂だ。

山はすでに秋の気配で、林床には、キタ科のヨブスマソウ・カニコウモリ・マ



カニコウモリ (キク科) の花

午前4時すぎに出発することになる。中央自動車道で長野県に入り、松川インターから大鹿村に向かう。同村に入ると国道152号線から村道へと進み、烏倉林道を走って車止め終点に着いたのは午前7時30分であった。

国道から村道に折れる地点には、烏倉林道への案内板が設置されている。村道は細くて若干不安になるが、林道になれば

80分ほど登ると小広場になり、ここから豊口山の南側山腹を登りながら東へ進んで行く。

比較的乾燥した斜面にフジアザミが点在している。富士山の周辺に多いことから名付けられたとのことだが、わが国のキク科アザミ属のなかでもっとも大きなアザミで、初めて出会った人はたいてい驚きの声をあげる。アザミの仲間には種類が多く、はっきりとした特徴がなければ目分けが難しいが、このフジアザミは一度見れば覚えられる。

道は、やがて三伏峠の下部を過ぎ込むように進む。コメツグ・シラビソ・トウと(マンネ)などの亜高山帯針葉樹の森となり、南アルプスらしい景観が広がる。

林床には、シダのような葉のオサバグサ(テン科)、ヤブレガサとの見分けに迷うヤマタイミンガサ(キク科)が群生している。花がないのが残念だが、その代わり、ユキノシタ科のクロクモソウ・ス



タカネビランジ (ナデシコ科) の花

蝶の姿も多く、茶色の翅にオレンジ色の縞帯をもったベニヒカゲが華麗な翼を見せ、タカネマツムシソウの花では大きな目玉模様のクジャクチョウが吸蜜していた。

鳥帽子岳へ
鳥帽子岳への道は、このお花畑を抜けて行く。峻険に出ると南西斜面は日も眩むような大崩壊地だ。

ウゲ科の咲くタケカンバ(カバノキ科)の林に入り、高山のブルーベリーとも言えるクロウズグ(ツツジ科)の果実を頬張りながら歩く。

再び緩急に出ると、ガスの切れ間、背を背にして鳥帽子岳がそびえている。この急登の一步一步が高みへの歩みだ。山頂周辺は、南アルプスらしい乾性の高山植物が色とりどりの花を咲かせている。ミヤマシナヅク(キョウウ科)・タカネビランジなどが顕著な姿を見せている。タカネビランジは四国三山以来の再会で心が弾んだ。

たどり着いた山頂には全く人影がなかった。ガスで見失らしたときはないけれど、隔絶された昔のない空間に時間が静かに流れていくのが感じられる。昼食をとっていると、幾分間ガスが消え、北には塩見岳の中腹、南には前小内岳へ続く線が鮮やかに浮かび上がった。

林道に駐車した車まで戻ると、道難者のもとと思われる車は、依然としてそのまま置いてあった。きょうも何も動きはなかったのだろうか。ヘリによる捜索も成果なく終わったのだろうか。

△コースタイム▽
鳥谷林道駐車場7・30―登山口8・15―塩川ルート分岐点10・20―三伏峠小屋10・40―11・15―鳥帽子岳11・50(急登)12・35―三伏峠小屋14・00―20―登山口16・15―林道駐車場16・50
△地図▽
昭文社「『塩見・赤石・聖岳」

後日談
翌日の新聞紙上に「南荒川岳で不明の52歳男性、5日間水でしのぐ」という見出しを見つけた。

荒川岳をめざして単独で入山した埼玉県の男性で、8月14日から続いた大雨のためルートを変更して下山を試みたものの途中で道に迷い、増水した沢に流され、流つぽに落ち、左足骨折で身動きがとれなくなった。そのため大鹿村広河原の本谷沢付近にテントを張り、救助を待っていたという。食料は19日頃にはなくなり、その後は沢水だけで過ごしていたところ、捜索中のヘリコプターが発見されたとのこと。5日ぶりの救出であった。

(平成11年8月22日歩く)

山と高原地図シリーズ

定価 各780円(税込)

- *1 北沢・黒白・朝雲・河東
- *2 ニゴロ・草津山
- *3 大雪山・牛久保・横尾
- *4 十和田湖 (八景巻物)
- *5 八幡平
- *6 奥羽・奥羽
- *7 奥羽・奥羽
- *8 奥羽山
- *9 奥羽山
- *10 奥羽山
- *11 奥羽山
- *12 奥羽山
- *13 日光
- *14 奥羽山
- *15 奥羽山
- *16 奥羽山
- *17 奥羽山
- *18 奥羽山
- *19 奥羽山
- *20 奥羽山
- *21 奥羽山
- *22 奥羽山
- *23 奥羽山
- *24 奥羽山
- *25 奥羽山
- *26 奥羽山
- *27 奥羽山
- *28 奥羽山
- *29 奥羽山
- *30 奥羽山
- *31 奥羽山
- *32 奥羽山
- *33 奥羽山
- *34 奥羽山
- *35 奥羽山
- *36 奥羽山
- *37 奥羽山
- *38 奥羽山
- *39 奥羽山
- *40 奥羽山
- *41 奥羽山
- *42 奥羽山
- *43 奥羽山
- *44 奥羽山
- *45 奥羽山
- *46 奥羽山
- *47 奥羽山
- *48 奥羽山
- *49 奥羽山
- *50 奥羽山
- *51 奥羽山
- *52 奥羽山
- *53 奥羽山
- *54 奥羽山
- *55 奥羽山
- *56 奥羽山
- *57 奥羽山
- *58 奥羽山
- *59 奥羽山
- *60 奥羽山
- *61 奥羽山
- *62 奥羽山
- *63 奥羽山
- *64 奥羽山
- *65 奥羽山
- *66 奥羽山
- *67 奥羽山
- *68 奥羽山

(※内容は最新版の地図です)
昭文社の「山と高原地図」は年更替として毎年更新発行します。登山者のためなるべく最新版をご利用下さいませようお願ひ申し上げます。
※2000年最新版は「大雪山」「奥羽山」「奥羽山」「奥羽山」「奥羽山」を全版改訂し、増刊として「奥羽山」を刊行しました。

昭文社
株式会社
本社 東京都千代田区豊町3-1
電話03(3550)8111(代) 予102-8238
支社 大阪市淀川区中津6-11-23
電話06(6993)5721(代) 予532-0011
(インターネットで情報発信中)
<http://www.msp06.co.jp/>

ダックシュ・ミヤマダイモンジソウ、そして南アの特産種、セリバシオガマ(ゴマノハグサ科)が花を咲かせている。

林間には、野鳥のさえずりが響き渡っている。並高山の常緑、メボソムシクイとルノビタキに加え、口笛に似たさえずりのウツが静かに歌っている。

鳥影が動いた稜先に目をやると、至近距離にメボソムシクイの姿があった。ウグイスはそっくりで、さえずりがなければ見分けが困難だ。

突然、上空に爆音が轟いた。姿は見えないが、ヘリコプターが飛行しているよ

うだ。鳥倉林道の気になる事は、やはり遭難者のものなのだろうか。ヘリコプターは旋回しているようで、揚音は遠くになり、近くなり、まもなく消えていった。

三伏峠
コースは沢を何度も横切り、梯子のある悪場や崩壊地を越え、塩川ルートとの道を合わせる。そこから丈の低くなつた樹木のなかを蛇行して登りつめ、三伏峠に出た。

三伏峠小屋の前では十数人の登山者が休憩しているが、だれもがゆつたりとし

た感じで静かな雰囲気である。その雰囲気は溶け込むようにコースタイムをとった。

この三伏峠にはすばらしいお花畑が展開し、盛りには30種ほどの花が開くという。特に、北東に面したゆるやかな斜面には、マルバダケブキ・タカネウツリンカ(キク科)・ハクサンフウロ(フウロ科)・タカネマツムシソウ(マツムシソウ科)などが咲き乱れ、サンカヨウ(メギ科)が熟した実を付けている。

ガスさえなければ、背後には塩見岳の雄姿が望めるはずだ。

大台ヶ原の好展望尾根

三津河落山から大和岳縦走

高台

奥田 英一郎

私は日帰りでも山らしい山に登りたい時は、大峰とか大台に出かける。だが弥山から八経ヶ岳になると、マイカーで早登りしてもけっこう忙しい山歩きになる。時には日先きを変えて、電車とバスを使って台高周辺に入るのだが、多少交通費がかさむ。それでも東大台・西大台はそれぞれに趣があり、楽しい山歩きができる。

八経ヶ岳はシャクナゲやオオヤマレンゲの花が写真の題材になるが、大台ヶ原では正木ヶ原のトウモロコシの立枯れ林とか、ミヤコザサと黒刺木の根っこがモチーフによい。が、何といっても、人の多いのは気になるもの、時には富士山が見

えるという日出ヶ岳の展望や大蛇窟の大峠がある東大台がよい。そして、ブナの原生林と清らかな流水と戯れながら静かな森を徘徊する西大台にも時々出かける。

何年か前にちょっとしたきっかけがもとで、『古事記』にゆかりの井光に立寄った。三ヶ谷の領師だった西浦房太郎さんをお呼びしているうちに、『川上村誌』のことを教えてもらった。川上村といえば、上北山村と共に日本歴史、南北朝時代の伝承などが残っているところ、今も所朝の末裔といわれる人たちが暮らしている、毎年御朝拝の儀を行っているとい

三津河落山村近をゆく



う心優しい村人の里である。

興味を持ったのは、この川上村と隣接する東古野村・宮川村・上北山村・天川村・黒滝村等々の村界には壁力ある山が多いことだった。台高の駒岳・明神岳・池木窟山・馬ノ鞍峰・三津河落山(大台ヶ原山)・経ヶ峰に続いて、大峰の大貫賢岳・山上ヶ岳・大天井ヶ岳・四寸岩山・背根ヶ峰……といった山々が連なってい

て、川上村はそれらの山々にとり囲まれている。いくつかの山は登ったが、まだ知らない谷もあった。しかも交通アクセスが悪くて、意外と登る人が少ない。

静かな山歩きを楽しんでいる私たちにとっても、まだ気になる尾根や渓谷が残っているのはありがたいことで、そのなかで比較的簡単に入って、それなりに山の良さが楽しめるのが、日出ヶ原から西にのびる山裾である。その中心になるのが三津河落山で、同じ大台ヶ原にあって、東大台や西大台とは一味違う趣のある縦

走が楽しめる。

国土地理院の2万5千分の1の地形図には三津河落山と経ヶ峰との二つの山名しか記載されていないが、古書にはこの間に、巴岳・名古原岳・如來月・日本岳・大和岳といった山名が出ている。紀伊山地を南北に貫く二つの大きな背稜の一つが東の台高山脈で、西にあるのが大峰大脈である。台高の主峰である日出ヶ岳と、北部大峰の中程にある大貫賢岳を結んで東西に走る山裾があるが、三津河落山はこの自然峠道の東部にある山である。川上村から上

北山村に抜ける道が熊野街道で、その最も難所だと言われているのが、一本たたらん妖登伝説が残っている伯母峠である。

この東西に連なる尾根筋には古くから峠道があったらしく、伯母峠より西寄りの道は大貫賢岳中腹にあ

る葦の道に因んで葦の窟尾街道といわれ、東寄りの道を伯母峠道と呼んでいたらしい。北海道の名付け親として、また蝦夷地探検でよく知られた松浦武四郎も晩年この道をたどって大台に入っていた。いわば先人たちのたどった道で、私が長い間歩いてみたいと思いつながら果たしなかつた道である。

先年この山裾の北側にある黒白谷を過って源流をつめ尾根に出たが、ドライブウェイができた現在では摩道と化して歩けたものではなかった。それでも西寄りの葦の窟尾街道は、バイケイソウの群落もあり、踏み跡のやや不明瞭な所もあったが、和佐又谷を捲くように道があって、静かな樹林の山が良かった。気になる東寄りの伯母峠だが、経ヶ峰以東は気持のよい道で、電車とバスを乗り継いでも、半日三回りの行程だということなので出かけてみた。

梅雨の最中であつた。シャクナゲの花はとくに萎わっている。バイケイソウにはまだ早く、トリカブトはもっと先だし……。それでも緑濃い山があるだろうと、雨を覚悟で出かけた。ドライブウェイの途中でバスから降りてもうろう





シロヤシオ燗湯 (日出ヶ岳付近)

に、上市駅の詰所に寄って頓んでみたが、警察からも禁じられているとかで駄目だった。仕方なく、計画を変更して、遊コースをとることにして、大台駐車場終点まで入る。

気がかりだった空模様もバスが出る頃には青空がのぞいていた。だが喜んだのは甘かった。山が迫ってくる旧伯母峠峠を越えるあたりでは、大昔賢岳の峻峰も霧のなかだった。駐車場に着いた時は深

いるところで小庵に会った。じつところらを見つめている目は、不逞の進入者をとがめているように思えた。
岩洞のなかに巴岳という懸崖石があった。さっさと西行して、行ってくと、シヤクナゲの群落地が見れ、落花が褐色に汚れているのを踏んで行くと川上はだた。夜場から大台辻を経て登ってきた古い昔の日を回想する。鹿道が乱れているなかに縦走路を確かめながら、クマザサのなかを分けて急坂を登りつめた所が名古屋岳だった。西大台のナゴヤ谷を上りつめた所なのだろう。

三津河落山へは暗い樹林のなかの岩割の急坂を真下に見える鞍部をめざしてくだる。再び登りつめた所が如來月である。ここにも山名を刻んだ標石が埋められていた。意味ありげな山名だが、漆師如來



鹿の橋

い霧で、やはり大台は雨かと思いがら歩き始めた。しっとり濡れたモミヤツグの森を散策気分であつた。シオカラ谷の源流近くであちこちに白いものが目に付いた。シロヤシオの花だった。忘れていたが、シヤクナゲとバイケイソウの間にはシロヤシオがあつたのだ。

正木峠との分岐では、白い花は真つ盛りだった。淡緑の若葉に混じって純白の花弁が目には鮮やかであつた。霧は深くて新しくできた展望所からは熊野灘どころか、近くの山肌すら黒く映っているだけだった。溝状にえぐられて歩きづらかった日出ヶ岳山頂までの道は、木柵と階段に変わっていた。山頂までの道筋にもシロヤシオは咲き乱れていて、霧のなかに浮かんで見え幻想的であつた。

山頂の展望台の側で昼食をとった。気がつくくと霧雨が衣服にまつわりついて、小さな雨滴が光っていた。西北にのびる尾根のわずかな踏み跡をたどって行くと、樹林のなかに遺鐘碑があつた。早春の大台に逝った人である。8月の大台は冬だったのである。原生林の下はミヤコザサでおおわれていた。バイケイソウはもう葉をのばしていた。トリカブトの芽が出て

に關係でもあるのだろうか。嬉しいことに、おおっていた深い霧が次第に薄らいできた。コザサのなかの踏み跡もしっかりしている。

突然、前方が明るくなって青空が見え始めた。ゆるやかなスロープが現れ、そのなかに緑の山肌が見えた。北東にのびている太い尾根は大台辻へ続く合流の山稜である。コースは左の西への道である。三津河落山はもう過ぎてしまつていふ。トウヒの疎林が山頂だったのか。吉野川と北山川と宮川への分水嶺になっている所をよぎって歩く。うかつなことに、豁然と開けた風景に見とれているうちに通り過ぎたようである。それにしても前方に広がる風景は何と魅力的だろう。

前方のやや高い山境は白根岳だろう。すぐ下方にひだとなつていのは本沢川、湯か遠く橋に繞っているのは初岳から明神岳だろうか。緑意の山の重なりのかたに白い積乱雲が望まれ、その上に真つ蒼な空が見え、多形な夏のアルプスを感じ起こされる。

山稜の南は若葉の自然林、北は広闊と開ける山並のなかを縦走する。日本岳というあたりだろうか、無人測量計のある

KOBEの登山専門店

風を背中感じます

●スナックザック……汗対策のザックです。



- ウォーキングスナックタイプ
ベンチレーションサポートパットにより背中
は常に快適。バックパネル部分がワンタッチで
取りはずし可能。新装マグネットを装備、アル
ミフレーム内蔵。
日帰りから一泊山行きに最適、かつぎ良きで
定番のアタックタイプです。
- カラー：レッド×ブラック・ブルー×ブラック
グリーン×ブラック
- 容量：28ℓ ●重量：1.450g
- 素材：ナイロン500Dデュラ
- 価格：¥14,000+新ハイキング保険

一年中春夏秋冬・シーズンを気にせず山・登山・名山を訪ねます。詳細はお問い合わせ下さい。



神戸ザック
〒650-0077 兵庫県神戸市東灘区
TEL (078) 6421-5851
FAX 611-5528

ところは鹿道が入り乱れていた。縦走路を確かめている時、なにか異物が倒木の枯れ枝にぶら下がっているのが目に留まった。近寄ってみると、鹿の干からびた皮と白骨化した骸骨だった。

大和岳は至原のなかの小さな岩の頂だった。さえずるもののない展望所、歩いて来た道をふり返ると、おおらかな緑の尾根が目には儼しかつた。離れるのが惜しいような山頂に別れを告げ、最後の門頂上付近のシヤクナゲ帯では踏み跡がやや不明瞭だったが、遠方に踏み跡がややた被褥から南の草地をくだると、ドライブウェイと林道との分岐の小広い台地にたどり着いた。

駐車場発15時30分の終バスにうまく拾ってもらって優雅な縦走を終える。

(平成11年8月末歩)

▲コースタイム▼
大台駐車場(40分) 日出ヶ岳(15分) 巴岳(20分) 川上辻(15分) 名古屋岳(10分) 如來月(10分) 三津河落山(10分) 三村界(10分) 日本岳(15分) 大和岳(20分) ドライブウェー・林道分岐
△地形図V2万5千1:1000 日出ヶ岳

大谷崩れを見る

山伏岳から八紘嶺縦走

妻鹿 弘子

甲駿国境

ひとことでは言えぬ山伏岳は水の山である。安曇川の奥に山伏岳・大谷嶺・八紘嶺と連なる山々の取り付きの山で、日本三大崩れの一つ大谷崩れを見るための通過点である。私にとって山伏岳はそういう山だった。

9月の初旬、私たち4人はJR静岡駅から新田まで時間を惜しんでタクシーに乗った。登山口の林道入口まで1万7千円だった。11時には着いた。バス代よりコストは高くつくが、8時間以上も稼いだので気持ちにゆとりがある。

牛首峰への道を左に見送り、大谷川から西日影沢のコースをとる。この頃から崩れそうだった空は白く濁ってきて、展

望は期待できなくなった。沢の水は激しく次々に小沢が合流し、涼しい風を吹き上げる。苔はたっぷりと水を含み、足根は高い。なるほど日影沢だと納得する。けっこうきついで汗を拭き拭き、ようやくワナビ田に着いた。アザミだらけの狭い中洲で昼食にした。

しばらく登ると巨岩にへばりつくようにワナビ田小沢があった。その先で三本の沢がそれぞれ小さな滝を作り合流している。どの沢も水量は豊富で白くたぎりながら三本が合わる様はおもしろくて美しい。合流点には枝橋が掛けられ、イワシヤジンが咲いている。「次に来る時は昼食は絶対ここだ」と天練たっぷりに



大谷嶺にて

グチりながら支尾根に登り着く。すると反対側にもまた沢がある。支尾根の間にそれぞれの沢を抱える複雑な地形のようだ。

13時30分に蓮峰(つた)に到着。ようやく半分登って来た。ここでも反対側の谷底から西日影沢の本流の音が「こうこう」と響くが、谷が深く流れば見えない。道はいよいよ急になり、ブナ林からダ

ケカンバ、トウヒと林相も変化してくる。苦しい登りが続くが、こんな時は、必殺ネーミングの杖がある。花や草や落ち葉にまで講釈を言い、名前を付けて行く。立ち止っては観察するふりをしながら休憩する。おろよろ口耳、オレンジ草。見



たままの勝手なネーミングだが、不思議なもので名前を付けるとおろよろ口耳はやや乾いた明い所があったが日陰には一つも無かったとか、いろいろなことになりつつ、名付け相ごっこで楽しく遊んでいるうちにどうにか山頂近くの主尾根に登り着いた。

水が激しく流れている。あれよあれよと言う間にレタスがバラバラにちぎれ、3分の2も流れてしまった。山頂までわずかな距離なのにどこからこんなに豊富な水が湧くのだろうか。遅くなってから多人数のパーティが到着し、小さな小屋に20人も入ったが、どうにか寝返りが打てるぐらいにおさまった。

翌朝もどんよりとした空模様で曇り期待薄だった。「降らないでください」とワンパターンの怒めを言いながら6時15分に出発し、6時40分山伏岳山頂に立った。一面のササ原のなかに逆逆の木道が通っている。立ち枯れのトウヒが白い肌を露し、花の終わったヤナギランの葉がピンクの色を留めて群生している。絵ハ

近江の山を歩く

草川啓三著

菊文館・二〇〇〇円

夕暮れの山頂、変幻の谷、峠の廃村、緑乱の花崗、山寺の氷：湖国の四季山。珠玉の紀行文と趣きあるカラー写真で綴る、コース地図付ガイドブック。

大和まほろばの山旅

内田嘉弘著

四六判・二〇〇〇円

1奈良東北・中部の山一山の辺、大和高原、宇陀、霧生、初瀬、飛鳥、金剛、生駒。古代史探訪も併せた低山ハイキング。約60山地図、参考タイムつき完全ガイド。

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

ガキのような富士が見えるはずの場所を目を凝らすと、薄ボヤリと煙のような富士がちょっぴり姿を現わした。

目の前の大谷嶺はガスのため、もう一つ追方に欠ける。山頂に吊してある鐘でもガラランガランと鳴らしてうさめらしするしかない。だれもいない山頂に鐘の音は良い感じに響き渡った。

しつとりと呑むした道はどんどんくだりだし、新登乗越に8時15分響。ガレのなかを扇の要へ一気に入る道が分かれていた。どんな所を通るのか理いて見だが、あまりの急降下のためルートは見えない。

大谷嶺へはガレの端を通る胸突く急登が待っている。崩れの端に立てばワジアザミ・ヤマハハコ・トリカブトなどがかなり進出している。濃いガスが地表を這い登ってくるため、それ程の絶壁感もなく、イメージとはちよっと違っていた。崩れの反対側を捲く道は、トウヒの森で苔・イワシヤジン・タイモンジソウなどが多くて、奥秩父の森に似ている。

大谷嶺山頂には8時45分に着いた。「大谷嶺 2000m」の真新しい大標識が建っている。2000年登山をター

ゲットにした地元の蒸気込みが伝わってくる。その大標識の下で先行パーティ二組がラーメンなどをつくっていた。足元はミルクのようなガス、すぐ下からガレているはずなのに全く何も見えない。ガスに巻かれて落ちたパーティもあると聞く。端に行かないほうが賢明だろう。

私たちは長年頑張ってきた旧標識の下で記念写真を撮り、「さあ、もう一度くだって登り返せば八幡嶺、あとは温泉へ一直線」と早々に歩き始める。しかし、小さなアップダウンがいくつも続き、「泳ぎ制限」「横断制限」などと呼びながら通過する歩きにくい所もあり、おまけに両手でボツボツ降ってきて「もつと簡単だと思っていました。少しナメていました。ゴメンナサイ」と山に涙りながら11時20分にやっと八幡嶺に到着した。

山頂は狭く展望もない。わずかに開いた七面山方面におぼろげに富士が顔を出す。「遊理富士だあー」と叫びながら、梅ヶ島温泉をめざしてせせとくだった。植林帯に入ると道はくたかっていると三言うより落ちこちていると三言うほうがふさわしい急下降で、足元から目が離せない。安倍奥ほどの山程も急勾配で谷に切り落

ちているように見える。このくだりも全く安倍奥らしい下降と言えよう。

梅ヶ島温泉には13時15分響。古い温泉らしく、湯治場の雰囲気の色濃く残る名湯である。当然のようにビールときこのそばで締めくくった。

山伏岳は予想よりはるかにすばらしく私のメインだった大谷嶺と主客転倒してしまった。安倍奥一の人気の山というのも納得した。しかし、この山城は、2000年の山」と地元が力を入れて宣伝している。今年には相当な混雑が予想される。事故も増えているようなので、予定されている方は、それも考えに入れてください。一度登ってみる価値は十分にあり一押しは山です。

(平成10年9月5日、6日歩く)

▲コースタイム▼
西日影沢林道登山口(1時間30分) 蓮峰(1時間30分) 山伏岳(1時間30分) 新登乗越(30分) 大谷嶺(1時間30分) 八幡嶺(2時間) 梅ヶ島温泉
▲地形図▼2万5千1梅ヶ島

美しい小屋に出会えた

飯豊連峰と鳥海山

松田敏男

東北

15年前の1985年の夏は、それまで夏の恒例行事になっていた中部地方のアルス行きをとりやめて飯豊山へ行った。石転び沢(言渡)を登ればアルプス並みの満足感があるだろうと思っ、アイゼンを持ってめざしたのだが、飯豊山荘へ向かうタクシーで運転手さんから、きのう滑落事故が甚だであったと大怪我をした人がいると聞き、その頃はまた山の経験が浅かったので急ぎふ堀川尾根に切り換えたのだ。その夏は晴大続きで、堀川尾根からの石転び沢(言渡)の展望や主峰線からの広大な山並の景観、大きな雪国に地

帯やお花畑など美しい山のさまざまな景色を堪能して、思い出深い山行ができた

のだった。しかし石転び沢(言渡)を回避したことが心残りだったこと、山脈の北方の杭釜岳の美しい姿が眼に焼きついていて、次回はせせ石転び沢(言渡)を上がって杭釜岳をめざそうという思いがずっと心のなかにあった。

関西から東北への夜行バスが運行されているのを知って、94年は磐前・栗駒・虎毛・蔵王群山の各山岳に登り、98年には朝日連峰と月山に登った。二回とも前合行きの夜行バスを利用したが、今回は新潟行きにした。料金が往復で1万5000円余りと格段に安く、乗り継ぐJRも在来線なので費用をおさえられるという利点があった。今回はバスが飯豊山荘

ニッコウキスゲの群落と杭釜岳



まで入り、前回に比べて随分早く着くことができた。

前回は飯豊山荘に泊まるしかなかったが、今日はまた午前11時30分、まだまだ歩ける時間だ。夏は夕立や蒸暑があるから午後2時ぐらいには行動を終了することを基本と考えているが、時間がたっぷりあるのでテント場を探しながら沢沿いに歩を進めることができた。15年前はと

かる。朝のお花畑は夜露が光ってこれまた清々しい美しさだった。

地神北峰まで戻って丸森尾根のザレた急斜面をくだる。この尾根は花もなく変化に乏しい異い尾根だった。

飯豊山荘にくだり着き、3日前に歩いた道をもう一度上流に向かって歩いた。広葉樹林帯に散っておいたテントを見た時、我が家へ帰って来たよううれしい気持ちと安堵感が襲ってきた。Tシャツや靴下などを近くの沢で洗って3日前のように干す。茶足でテントに入って周囲の木々の緑に眼をやると言いい知れぬ清足感に浸ることができた。

翌日はJR小田駅前の郵便局からビッケルとアイゼンを自宅へ送って、酒田のビジネスホテルに泊まった。明日からの鳥海山行きの食料を買い足し、翌朝は二つ北の駅の遊佐へ行く。

遊佐駅からはタクシーしかなく、登山口までタクシーに乗った。人の多い鳥海山に登る道の中で無人小屋があって登山者の少ないのは万助道だと予想して、万助小屋に連泊し鳥海山に登るといふ計画を立てていた。

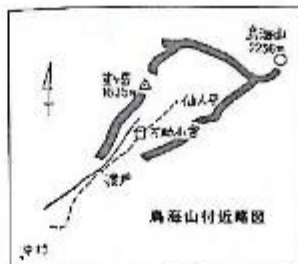


万助小舎

を廻ってトイレを探している間に姿を消してくれた。しかしトイレはないのである。それだけ人が来ないのだろうか。一般的に無人小屋のまわりにはゴミがあったり何となくきたないものだが、全くそれがない。圧巻は水場だった。小屋の奥の小さなお花畑の奥に清冽な流れがあった。幅の広い浅くてゆったりとした流れが樹林のなかにあった。すぐ上で湧き出しているのか、冷たかった。酒田より持ち上げた缶ビールを冷やした。登山者は来ない。今夜は最高の泊まりだ。このコースを遊んで本当によかったという満足感に

タクシーの運転手さんでさえも登山口が分からない。行き過ぎた合流に連絡をとるといふ事案となり、この先少し不安になった。行き過ぎた分の料金を差し引いてもらって下車した。歩き出してすぐに道はなくなった。重い荷物を担きながら周囲の地形を読む。崖を登って樹林帯をさまよう。流れに出たのでもし道が見つからなかつたらテントを振ろうと懸直り、荷物を置いて道を探した。幸いにも細い道を見つけて前進することにした。

赤布が板に付いてある所の踏み跡の奥から水の流れる音がすかすかに聞こえる。さっきの流れの上流のようだった。ポリタンクに水を入れてひと安心した。登山道に間違いないさそうだ。



小さな尾根道になって道も広くなり、道端には大きなヤマユリが点々と咲いている所を

浸りながら暮れゆく小屋の余情を楽しんだ。

次の日はあいにく霧だった。さのう見えていた鳥海山の支尾根が見えない。まよあける所まで行ってみようという気持ちで出発する。小屋からかなり上がった樹林帯で用を足した。いつものように使った紙はライターで灰にして、きたない跡が残るのを極力なくす。

個人平まで登ったが、その先は道が不明瞭なうえ、霧のなかに突入していて視界が狭かったため、次回にまた来ようとの断念した。鳥海山の感動は晴れた日に爆発的に味わいたかった。小屋までたった1時間のコースだから、強い風の吹いている霧の草原の写真を撮ったりしながらくだった。

二泊目の小屋には東京の大学生4人パーティがやって来た。次の日の下山中にもヤマユリの道を過ぎてもうすぐ下界という所で4も5人のパーティにすれ違った。真夏でも1日にパーティずつぐらいの入山の道になっているようだ。私が間違った登山口はよく知っている人でないとなかなかむずかしい分岐だった。私がまっすぐに進んだ広い道の左側に細い道が分

進む。その先左側から谷が近づいてきてテント場になりそうな広場があった。しかしその流れを見に行くところ、緩やかな地形が突如10層近い大きな岩の壁になっていて、流れははるか下の方なのだ。水面は暗くて不気味だった。

しばらく進むと川程の広い明るい所に出た。分岐の標識があり、渡戸という地点であることが判り、万助道であることがはっきりした。緊張が和らぎ、流れに手を投して、コーヒータをたてた。

その先、道が不明瞭な所もあったが、次第にはっきりとした尾根道になり、所どころに赤布もあって安心して進めた。流れを渡ると待望の万助小屋に着いた。

何と懐かしい気分がさせてくれる風情の良い小屋だろう。古いが非常に手入れの行き届いた気持ちのよい小屋だった。いろいろな生活道具がきちんと並べてあり、登山者ノートがあった。庄内地方の高校生が定期的に整備しているようだ。真面目な高校生たちが小屋を守る伝統をしっかりと受け継いでいる様子が手にとるように分かる。指導されている先生の熱意も伝わってきた。この小屋の主のよう大きな蛇が人口にいたが、小屋の周囲

かれていた。何の標識もなかった。

遊佐駅までの長い道のりを歩かねばならなかったが、半分程来た所で地元の人の子に拾ってもらって駅に着くことができた。

一つ北の吹浦までJRに乗り、タクシーでアポン温泉温泉へ行って汗を流した。温泉を出た頃には、鳥海山が何もささきることなく全容を現していた。緑の大きな裾をひいたその頂上部に全く異質な灰色のゴツゴツした溶岩の突起を乗せていた。新潟へ向かうJRの車窓から、その姿が小さく小さくなるまで見送り続けた。(平成11年7月24日、31日歩く)

▲コースタイム▼

(飯豊連峰) 飯豊山荘(1時間30分) 温泉(8時間) 門内小屋(5時間) 万助小舎(10時間) 湯身平上流(1時間) 飯豊山荘

(鳥海山) 一ノ板付(5時間30分) 万助小舎(5時間) 仙人平往復(5時間) 中村と遊佐駅の間地点
△地形図▽昭文社「飯豊山」「鳥海山」

『新篇武蔵風土記稿』(その3)

浅野孝一

『新篇武蔵風土記稿』の中で私が利用するのは秩父・多摩周辺の山地である。その中で私になじみの深い山々について説明をしてみる。その範囲は西多摩・比企・高麗・秩父各郡に属する山々である。

この山城で有名な登山者によく登られている山は雲取山である。『新篇武蔵風土記稿』巻之二百六十五、秩父郡之二十に「山名の起りは雲採・白石・妙法ヶ嶽の三つは最も高く聳えたる峰なればとて、即ちこの山を称して三峰山とよべり」と記しているが雲取山も一緒に山にしてい

る。

である。雲取山については、風土記稿多摩郡之巻二十七に「大雲取山 村の西甲斐国戸波山村と秩父郡大田川村の堺にあり、この辺なべて山なるが、其間にこの山ありてそはだちたり、名の由来しらず、たゞ雲をも手に取ばかりの山なればとてかく号せり。」と記されている。

武蔵の低山としては1000mに満たない笠山がある。東方の平地より眺めると武蔵丘陵の東端に位置し、山体が笠に似ているので笠山と号はれている。風土記稿は「笠山 村の南白石村境に跨れり、形を以て名付けり、登ること一里」とある。

滝川をはさんで東・西御荷鉢山が見える。また山頂近くまで車道が造られているので登山する人が多く、山頂付近の自然が荒らされてしまったのは残念なことである。

城岸山より奥に入った所に両神山がある。この山について秩父郡之十六の記述には「両神山 伊勢崎・伊弉別之二神を祭れば、この名あり、一に八日見山とも書せり、土人の伝へに往古日本武蔵東夷征伐の時、この郡中にかゝり、此山を見たまひて通行せしめたまふこと、八日に及べるとし故に、名づくると云」と記している。

しかし、この山名の由来に疑問を感じた小野陣太郎は、その著書『山の楳ひ出上巻の二三の山名について』の中で、両神山に関する各村の記述を引用して「私の考ふる所にして誤がないならば、両神山は市神山若しくは竜頭であつて、龍頭には少しも関係なきのみならず、龍神を祭つたといふのが古く且正しく、山名も八日見山と唱へる方が原始の称号に近いと思はれるのである。」と書いていて、隣村の薄村説をとっている。

山名にはそれぞれ理由があるのである。

正しく判断してゐる必要がある。小森は『東京市史稿』の編纂に長い期間従事していたので地名・山名については常に正しい判断をしていた。

『新篇武蔵風土記稿』の編纂者も地名等について調査を行つてゐた。例へば現在秩父市の項に延喜式神名帳に御神社が記載されている。

この神社について風土記足立郡之八岸村の項には「神社は「延喜式」神名帳に足立郡御神社と載る所なりと云、されど祭神等すべて伝ふる処詳ならず、按に「武蔵風土記」にも足立郡大洞郷、或は大洞郷神社、……されど此風土記は後人の擬言なる由三はれば、正しとも言がたし」等調査の痕跡を記している。

他にも秩父郡の宝登山大穴馬場に対し、明治期に古かれた「宝登山神社誌」は「この風土記稿は地域別に担当者が異り、当秩父郡は原胤廣の編集になるものであるが、目下確かめた類案のものもなく、専ら提出された古文書の種類等側で一定の節にかけて整理したものである」と内容について議論を述べているが、これは見当違いの見方であると私は考えている。

八丁子千人同心であり、風土記編纂の

上にあり、秩父に羽黒山麓現、小南東向」と記されてある。天気の悪い時とか向降りには社殿により込んで登念などをする。山頂からの展望は余りよくないが、春になると山頂の北斜面にイワウチワの花が咲き、山麓から山頂へ向かつての雑木林には、カタクリやアズマイチゲの花を見る事ができる。それ等の花畑景を見るために幾度か登頂したことがあった。

また、関東にあつては、早山重忠と平将門の伝説が数多く残っている。その伝説が城峰山にある。それは風土記稿巻之二百五十九秩父郡之十四に書かれている。「城峰山 村の北にあり、登ること一里許、此山石間村・矢納村・日野沢村三郡に跨れり、城跡の事は石間村の条に載す」とある。この山には平将門に関する伝説が伝えられているが、風土記稿秩父郡之十五には「登ること凡一里余此山土人城止と唱へ、将門の弟御三郎将平の城跡なりと云」と記されている。いつの間にか将平が将門に誤り伝えられてしまつてゐる。

山頂には一等三角点があり、そのそばに展望用として鉄塔が建てられている。その上に登ると関東野の眺がよく、神

一人であつた浅野研左衛門の『家部日記』に「文政六年癸未の秋、原新七郎胤祿及び植田十兵衛孟純、八木莊衛門忠誠と浅野殿等、箱根所より分行し秩父郡の四十余村の事蹟を捜索す。」等の記録が残っている。宝登山神社の言い分は通らないと思う。

『新篇武蔵風土記稿』が完成したのは、文政十一年(1828)。さきに補訂を加えて、天保元年(1830)に幕府に進献されたのであつた。

この風土記が活字本として出版されたのは、明治十七年(1884)である。埼玉出身の貴族院議員国学者、考古学者であつた根岸武香(1809~1886)の努力によるところが大きかつた。この事実を知る人は少ないのであつて付記した。

根岸の蔵書類は「白山文庫」として国会図書館に収蔵されている。

(この項終わり)

*次号は『新篇相模国風土記稿』について紹介する。

互いの山頂から指呼する

ウペベサンケ山からユニ石狩岳へ

いしからだけ

北海道

藤宗正彦

ウペベサンケ山頂上



帯広の街は深い霧に包まれて明けた。朝霧はきょうの晴天を約束していた。太陽が顔を出すと濃い霧はたちまち消えて、すがすがしく青空が広がるなかを、駅東口から歩いて5分の7番バスタッテから「糠平温泉」行きの一歩の十勝バスに乗った。十勝大橋を渡って帯広郊外に出ると、いかにも北海道らしい広大な風景が展開した。上士幌の田舎町を抜けると、ツバの白い花の咲く畑やトウモロコシ畑が一面に広がり、サイロのある牧畜場などを見ながら1時間40分近く走り、「糠平営業所前」バス停に着いた。

ここには「糠平温泉」というバス停はなく、10分も歩けば町の端から端まで行

ける小さな集落で、その入口に「糠平営業所前」バス停があり、町の出口に「スキー場」という終点のバス停があるという、初めての者には、何やら訳の分からない位置関係になっていた。

終点まで乗せてもらって下車。バス停の前がちょうと十勝三股方面と然別方面との分岐になっていて、十勝三段方面に少し歩くと左に入る林道があり、入口に糠平神社があった。脇に谷川も流れており、ウペベサンケ山入口と示す地図にピッタリであった。しかし、念のためにと思い、道路を隔てた上士幌営林署に飛び込んで訊ねてみた。

応対に出た職員が一人が横柄に「ああ、

めて行った。そのうち林道の道形があやふやとなり、それ以上先に進めなくなつた。やむなく撤退して、もう一度確かめのために営林署に行った。

こんど応対に出た職員は「いいい地図を持って来て、」「一本林道を間違えましたナ」と言う。「冗談じゃない。お宅の職員がその林道でよいと教えてくれたんです」と口まで出かかってそれを飲み込み、教えられた林道の入口に行ってみた。そこには「ウペベサンケ山登山口」と書かれた大きな道標が建っているではないか。最初の営林署の職員もそのことをひと



こと言っても、くれればいいものを、と慮立たしく思ったが、すべては後のまつりであった。

時間が半端になって行動のしようがないの

で、この夜は糠平神社のお堂の中に寝かせてもらった。

翌日は夜明けと共に出発した。林道に入っすぐの望を頼りて糠平川を渡る。昨日の林道よりずっと整備されており、車でも容易に走ることのできる道である。ここでは登山口までトコトコ歩いて行く者なんてめずらしいはずである。現にきょう山中で2人の単独者に出会ったが、1人は甲斐で、1人はマウンテンバイクで登山口までアプローチしていた。こちらが「歩いて来た」と言うと、「根性ありますね」と感心されたほどであった。

さて、歩き始めて10分ばかりの所で「山頂まで10分」の標記があった。赤いガイドレールの水溜橋で再び川を渡り、右岸道を奥へと進んで行く。いつしか糠平川の源流部を行くようになると山坂の奥米がひどくなり、手や首筋に吸血針の攻撃を仕掛けてくる。百匹ほどをたたき殺した頃、やっと登山口に着いた。

りっぱな周辺案内図が掲げられてあり、ヒグマに対する注意事項が四ヶ条記されていた。本格的な山道に取りついてすぐ最終の水場があり、コップも置かれていた。が、いざ水を飲もうとすると蚊

やアブが雲霞のごとく群れたかつて、ほうほうの体で逃げ出さざるを得なかった。

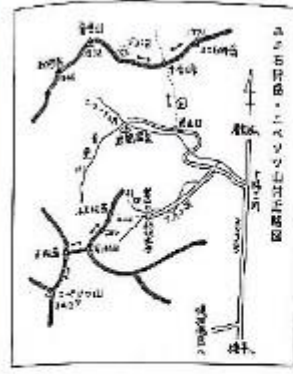
ひと登りで台地上の樹林帯に入る。十勝地方山岳遭難防止対策協議会と上士幌営林署の設置した道標を二回は確認すると、道は急登となって手稜上の一面に出た。前方に、なるほど富士山の形をした糠平富士と呼ばれるピークが聳って行く。いったんくたつて急坂を登り返して行くと、その頂上に着いた。狭いピーク上には山名板など一切なく、細い図根標石が埋まっているだけであった。

ここから前方に頭をもたげているウペベサンケの頂上までの尾根歩きは、まさに原歌の出るプロムテードコースである。ハイマツに混じってヒメシヤクナゲが咲いている。道標の立つ首野温泉分岐を過ぎると、ヨツバシオガマ・ウナギキタの群れるお花畑もある。ハイマツの下に咲くイワブクロに和まされながら、最後の急坂をひと頑張りすれば待望の山頂であった。

展望は絶景である。目の前に岩峰のニベツ山。その背後に残雪を原に散りばめた大雪の峰々、東方の眼下に糠平湖が光っている。ふり返ると稜走して来た肥

根が一望される。昭文社の登山地図には三所空写は記載されていないが、コンクリートの合座の中に、りっぱな一等三角点標石が鎮座している。簡素な山名標柱一本とトタン造りのミニ祠が一つまつられてある。実に最高の気分を味わせてくれる山頂である。

往路を引き返し、糠豆温泉に戻った。一日一便の十勝二階行きの連絡バスに乗る。バスと言っても運営しているのが上士高タクシード、ワンボックスカーの集合タクシーである。たったひとりの乗客の私に、気さくなその運転手はいろいろと話しかけてきた。そのうちこの車が帰途、ニベソツ山の登山口杉沢合座まで下山者を運ぶに行くのだということが判明



した。バス停から長い林道歩道を覚悟していたのだが、そこまで進んでもうここにして、ついでに下山道の足の手配までをまとめてしまった。

杉沢合座は想像していたよりずっとせせこましい所で、テントを張る場所を見つめるにも往生する始末であった。とりあえず奥まった一画にテントを張り終えたのは、もう夕闇の迫る時刻であった。

翌日はテントに荷物を置き、サブゼツク一つの身軽さで出発した。十八沢に架かる板の仮橋を渡って山に取りつくくと、急登が始まり500mほど登ると、「ニベソツへも」の道標が木の幹に打ち付けられていた。樹林帯をひたすら登り続けて、トラロープの張られた大岩を乗り越す。このあたりから岩間温泉に向かう分岐があるはずだと注意して歩いたが、その痕跡すら発見できなかった。前方に見えるピークは天狗岳だろうか。ハイマツのトンネルをくぐったりして開けた斜面の広場に出た。右手には石狩産銅が姿を現し、ひと思つくのによい場所である。ここにはしっかりとした道標もあった。石がゴロゴロした鉄線路が少し続い

て、それが緩むと天狗の裾を捲いて、岩場のペンキ印を目印にひと登りすると、突然前方に西洋の山城のようなニベソツが目に飛び込んできた。思わぬカメラを取り出す。また、ここは朝日温泉への分岐らしく、古い道標が立っていたが、どこを探しても朝日への踏み跡は見つからない。廃道化したのであろうか。

ここからいったんくだって登り返し、右手に大雪山を望みながらピークの右側をからむ道を進む。ハクサンイチゲに彩られた急斜面のお花畑に足を止めたりするうちに最後の急登が始まり、右の屋根へのトラバース道を越えて、潮り込んだその先が頂であった。

ガスが濃く湧き始め、楽しみにしていた視界が開きされた気味になった。地下足袋、背負子姿の地元らしい年配者が一人先着していた。訊くと、掛広の人だという。心底山が好きらしく、今まで登って来た山の名前を挙げてくれたが、その中には自分が今まで聞いたことのない山名もあった。この老人といろいろ話をしているうちに一瞬ガスが切れて、糠豆湖からウベベナンケ山が見えた。こちらから見るウベベは平凡極まりない姿であっ

た。むき出しの二等三角点標石を潮で濡らし、山頂付近に生息している愛らしいナキウサギともしばらくたわむれて、昼まではここに居るといふ老人と別れて往路を下りた。

夜半から降り始めた雨は朝方にはやみ予約しておいたタクシーで石狩登山口まで進んでもらった。草深い山道を歩き始めてはどなく「石狩岳へ10・5」の道標が木の幹に打ち付けられていた。山裾を縫うこの水平道は、時折林道のように幅広いになったりするが、それも「ユニ



ニベソツ山頂
石狩岳
山頂をからみながら高度を上げて行く。沢の流れる水場に着いた。ひと息

ついて飲んだ水のなんとうまかったことか。ここから急登となり、ダケカンバの林を抜け灌木帯を登りきると、十石峠に飛び出した。峠に立った途端雨が降り始め、風も出てきた。が、目の前にはユニ石狩岳が丸々とそびえて手招きしている。

雨衣を着込みチャックを峠にデポして、いったん鞍部までくだり樹林帯を抜けると、ハイマツのなかの急登となり、やがて吹きさらしのザレ場の急登が続く。本州のよりひと廻り小さなコマクサがボンボンと咲いていて、心を和ませる。この山だけを登りに来る地元の人もいるようや、夫婦連れと単独の男性に出会った。

- 山頂には山名標柱が倒れたまま置かれ、「朝高川」という記念碑があった。晴れていれば眺めもすばらしい所である。積なぐりの雨に追いつけられないように山頂を後にして、十石峠に戻った。
- 雨はいよいよ本降りとなって気分も減入ってしまったが、予定通り十勝岳までの積道をめざして、きょうのチント出のブヨ沼に向かった(以後、雨に降り込められて、ブヨ沼で二日間停所、あえなく無念の
- 薄道と相成った。
(平成11年7月21日〜25日歩く)
- △登りタイム
ウベベナンケ山林登山口 5・35―登山口 6・50―主峰上 7・53―柳平富士 8・58―40―菅野温泉分岐 8・57―59―ウベベナンケ山 9・50―10・15―登山口 12・21―24―糠平温泉 12・54―16・35―杉沢合座 17・30(池)―8・峠―糠平温泉分岐 8・30―ニベソツ山 9・55―10・55―杉沢合座 14・34(池)―8・57―10・55―石狩登山口 8・37―41―水場 9・57―10・06―十石 11・20―30―ユニ石狩岳 12・04―12―十石 12・31―ブヨ沼 13・26(池)―9・28―十石 10・10―24―登山口 12・06
- △費用▽
菅広根 糠平温泉 バス 1270円
柳平温泉 十勝三股
十勝三股 集合タクシー 460円
十勝三股 杉沢合座
タクシード 3000円
杉沢合座 石狩登山口
タクシード 6000円
△地形図▽昭文社「大雪山・十勝岳」

窪田空穂の足跡を歩く

上高地より槍ヶ岳

木村 太郎

北アルプス

槍沢を登り来て槍ヶ岳を望む



われわれ龍崎の山仲間5人は、前夜新御堂筋線の桃山台駅に集結した。リーダーの前山さんの運転する四輪駆動車で、吹田から松本を経由して早朝に沢渡に着いた。駐車場でタクシーに乗り換えて上高地へと向かう。釜トンネルを抜けると、日常から夢の世界へ入り込むようで登山気分が高揚してくる。しかし空穂の時代

槍ヶ岳はこの夏、わが山仲間へ笑顔を見せてはくれなかった。一夜を過ごした槍ヶ岳山荘の外は、朝から細い雨と深い霧に包まれていた。視界360度と言われる槍ヶ岳からの眺めは、限りなくゼロに等しかった。御来光を拝むという希望を断ち、頂上の風景は時間だけが支配していた。
天渡る風によるめき槍ヶ岳
そのいただきの嶽にすぎる
(空穂「槍ヶ岳の回想」より)

は最初に槍ヶ岳をめざした。今からおよそ九十年前、その日の槍ヶ岳の尖峰には人を寄せつけない強風が吹き荒れていた。歌敵一万首を突撃する文学の一精進を築きあげた空穂が、その情熱を振り向けた槍ヶ岳は、烈風が荒れ狂い頂上への登攀を果たさせなかったのである。
日本人登山家として槍ヶ岳に初登頂した小島烏水らに遅れること十余年、空穂の槍ヶ岳行は大正二年になされた。その後大正十一年の二度目の槍ヶ岳行で、空穂は念願の登頂を果している。空穂のこの時の槍ヶ岳への旅は、『日本アルプス』(大正五年刊)と『日本アルプス縦走記』(大正十二年刊)と題した、山岳紀行文と

に到着した。まだ泊まるには早いと、空穂一行は先をめざして歩いた。われわれも行動食を口にして元気になる。目標は彼方でありと声をかけ合って、槍沢ロッヂ前の広場を後にした。
先行ける友は今しも岩登る
千尺ある谷にゆるめく岩登る
(空穂「槍ヶ岳の回想」より)

は、上高地に入ることさえ険しくて遠い道程であった。空穂が初めて槍ヶ岳へ歩いた時は、島々から難路の徳木峠を越えて、上高地明神に出て、槍沢を過るねばならなかった。
徳本の峰に攀ぎ登りふり仰ぎ
正目に見たる徳高所はも
(空穂「徳木峠を過ゆ」より)

梓川沿いの道が拓けるまでのことで、槍をめざした岳人が通った道を空穂も歩いてきた。細いながら一筋の道がついていると思っていたのは、空穂の空想でしかなかった。その道は踏み跡もなく、槍沢の渓流に沿って河原を徒渉した。河原がつかないと岩溪をはいあがり、雪溪を

過ぎるとハイマツと岩盤とが行く手をふさぐ峻険な道を登行した。
現在の槍への道は、烏水・空穂のほかの先駆者の意志をうけて、だれもが気楽に歩ける。槍・穂高へあるいは奥・常念へ行く人、また山々を登り終えて帰る人がいる。北アルプスへの限りなき憧れをいだきつつ、ここ上高地に人々は集まる。すべからなく上高地を背景にして、槍・穂高への旅の一步は始まり、また旅の日誌は閉じられるのである。
白樺の林の中に聚れて
歩み来る人のなつかしきかな
(空穂「上高地溪谷に入る」より)

カラマツ林を通り、ケンショウヤナギの道をたどり、パーティの内輪話をまじえての足運びは軽快なものだった。明神、徳沢、横尾、と予定の小休止を入れて、予想より早い時間に槍沢ロッヂに着いた。上高地を6時間に出発して10時30分到着である。この調子なら計画通りに、夕刻の16時頃までには槍ヶ岳山荘に入れそうである。

ある目的に対し、時間の許す範囲でより前へ、より上へを望むのは当然のことだった。空穂の場合は赤沢小屋には15時



私がお頭を歩き、すぐ後にはアルプスは初めての新田さんが続く。山のスケッチを趣味とする梅津さんと、この夏富士山を足下にした坂本さんは中間にいる。しんがりには学生時代ワンダーフォーゲルで遊んだ前田さんがいるので安心だった。ところが5人の快調だった足並みは、槍沢小屋跡を通り過ぎしばらくしてペースタウンした。体調が良くなかったのか、梅津さんの足が止まりはじめた。
東鎌尾根が正面に見え、槍沢が遠くにのびている展望の開けた道を、ゆっくりと大世に接近していく。登山道の傾斜がゆるすとともに、小休止を頻繁にとらざるをえない。梅津さんと私はこの8月初めに、今度の山行にそなえて3人だけで立山三山を採集してきたばかりだ。思いがけない山友の体調不良が気がかりでなら

なっている。



槍ヶ岳の頂上

水俣乗越への分岐に近いU字谷のあたりで、前田さんが決断した。全員では槍ヶ岳山荘到着が遅れそうなので、私に新田さんを連れて先行しろという指示を出した。後から追い続くのでメンバーのチェックインと、夕食と翌朝の弁当の予約をしてくれと言った。グループ登山では全員が同時行動が原則なのだが、一時の別行動

も行程上やむをえない。仲間と別れて新田さんと私は道を急いだ。

地表から大空に向けて弧を描くような大群を過ぎると、水河の名取と言われているモレーンに出会う。お花畑をめぐる余裕はなく、水河公園への分岐を左に分け突き進む。待望のモレーン上に立ち、それまで斜面と仰向きしてきた前傾姿勢を解除する。透き通ったブルーの空を見上げ、堂々と浮き上がった槍ヶ岳へ感動の挨拶をおくる。

白雲の羅くが上にはあらはれて
雞尾根つづく槍の穂の方に

(空穂「槍ヶ岳の尾根」より)

高山特有の岩壁地形を登りつめて行く。槍ヶ岳を別山した裾、崖上人ゆかりの坊主の岩窟がある。さらに進んで殺生ヒュッチの道からの急登に入っ、一気に足が鈍った。寂しいかな中年の体躯にバチがひろがり、喘ぎ喘ぎ休め休めに、やっとのことで槍の肩に立つことができた。槍ヶ岳山荘の扉を開いて時計を見ると16時10分を指していた。

台湾からのツアー客が入って小屋は混み合っている。日没までは時間があり、槍の穂先へ登りに行く客もいる。だが私のように、楽しい感じを私には与えなかった」と。つまり空穂は、槍の穂に立つことがすべてではなく、槍の穂を見上げて進むそのプロセスが槍ヶ岳の楽しさなのだと言いたかったのだらう。

われわれには槍ヶ岳でいるいるな出来事が起きたが、私は槍のてっぺんを征服して十分に楽しめた。そして下山後には、エピソードに白智温泉へという交しみが残されている。

雨は小粒だったが降りやみそうにない。そろそろ槍の舞台をおおりて、山友のもとへ急ぐ。

(平成11年8月23日、24日歩く)

▲コースタイム▼

- (第一日)上高地(50分) 明神(50分) 湖沢(1時間) 橋尾(1時間30分) 槍沢ロッヂ(2時間) 天狗原分岐(3時間) 槍ヶ岳山荘
- (第二日) 槍ヶ岳山荘(25分) 槍ヶ岳(25分) 槍ヶ岳山荘(20分) 殺生ヒュッチ(2時間20分) 槍沢ロッヂ(4時間30分) 上高地
- ▲地形彩図▼5万1:1槍ヶ岳・上高地

たち2人は、与えられた5人用の居場所ので疲れた体を横にしていた。とりあえず17時まで待機して、それから後続を迎えに行こうとしていると、フロントからの放送で呼び出された。

登山者が、私あてのメスを運んで来てくれた。手帳の切れ端に、後の3人は殺生ヒュッチに宿泊すると書かれていた。メンバー揃っての山小屋での酒宴はできなくなった。2日目大キレットを通過して北穂高小屋、3日目湖沢を通過して、地の目録も見直さねばならない。殺生ヒュッチに彼らが落ち着く頃合いを見計って、あすの打ち合わせの電話を入れようと思った。

翌朝目覚めると外は雨、日の出時刻は過ぎていたのに小屋の前には霧の山があった。雨具を着こんで山荘の入口で仲間を待っていると、前田さんと坂本さんが到着した。すぐに前田さんと相談、8日目からの計画を白紙にして、この日下山することになった。

低山登山〜本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの会員様で更に割引します。



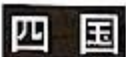
▲とスキーのヨネミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06(6772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスグ

鶴林寺から大龍寺

杉本 高



10月の連休3日目、焼山寺縁えに続いて、きょうは四国20番札所鶴林寺から21番札所大龍寺まで歩くことにする。

JR徳島駅前のバスターミナルから、徳島バスの勝浦線に乗り、約1時間で生名バス停に到着する。バス停付近には食料品店や民宿などがあり、飲食物はここで準備しておかないと鶴林寺まで入手できない。

バス停のすぐ横にはイチチョウの太木があり、バス道と迂路みちの分岐には「別格本山四国第20番霊場鶴林寺」と彫られた大きな石碑が建っている。

谷川の流れに沿って舗装された道を進むと、民家の間を抜けミカン畑のなかを

通って、標高を上げていく。少し汗ばんで来た頃、後をふり返ると、勝浦川の流れに沿って集落が点在し、その向こうには中津峠がどっしりと落ち着いた姿を見せている。

この一帯は、徳島県産みかん発祥の地で、勝浦町内には県立の果樹試験場もある。道端で売っているみかんも甘くておいしい。

ミカン畑のなかを標高みちの横線に従って進んでいくと、やがて晴天の日でも舗装が濡れている所へ出る。あたりはミカン畑から杉の植林帯に変わり、道の左側に「十五丁」と刻まれた丁石が置かれ、かたわらに小さな祠がまつられている。

じ、そして寺の名前に由来する鶴の像が出迎えてくれる。

樹齢数百年の杉木立ちのなかを歩いていくと、コンクリート造りの窟坊と大きな大師堂が見えてくる。本堂は大師堂の手前の石段の上であり、これから進んでいく大龍寺の山が、山ひだの向こうに見える。

本堂で作法通りに納経し、本堂の前に置かれた鶴の銅像を眺める。本堂の左手奥の石段を登ると鶴林寺山のピークへ出られるとあとで知った。残念ながらもまだピークを踏んでいない。

大師堂でも同様に納経し、納経所で朱印をいただいた後に休憩する。足もとには那賀川の流れが見え隠れしており、昔の人々には厳しい空場だったことが何となく理解できる。

その昔、徳島刑務所を脱獄した受刑者が鶴林寺をのさして山を登り始めたが、道の険し



鶴林寺から大龍寺付近地図

さに立ち往生し、逃亡をまきかためて刑務所に戻ったという話も残されている。

一服の後、大龍寺へ向けて出発する。窟坊の横から山道に入り、一気にくだってゆく。杉林のなかをくぐる軽快な道で、気持ちよく歩いていく。

やがて車道の上に出て、工事で付け替えられた道をいったん車道におりる。50分くらい車道を進むと右手にコンクリート製の階段が現れ、ここをくぐることになる。今まで心地よい山道だっただけに、このコンクリートむき出しの工作物はいただけない。

少し進むと今度は砂防ダムが現れ、従来の道が消えてダムの傍き道をくぐる。ダムの下で登って来るグループに出会うが、ハイキングとは異なる服装なので事情を制くと、マイカーで来て道に迷い、歩いて登るところだと言う。山道を1時間位歩かねばならず、ハイヒールやサンダルで登れる道ではないことを伝え、車道への正しい道順を案内しながら車の所までいっしょに歩いた。

「道路みちは一四国のみち」として、行政によって道標が整備されているため、ドライブコースと間違えて立ち往生する



鶴林寺に三門

水呑大師である。同の左側の平石の下から、岩清水が湧いている。弘法大師の杖突き水と呼ばれ、歩き道路の喉を潤している。ここで小休止する。

水呑大師で舗装は途切れ、石段と木の段が付けられた山道へと変わる。地元の婦人会の人たちだろうか、登山道を清掃しておられ、気持ちのよい道を歩くこと

新ハイキング選書

藤井 寿夫 著

——紀行と案内——

最新刊 中央線の山を歩く

山を識れば識るほど山歩きが楽しい。
地形図片手に中央沿線再発見の山107コース。

●A5判
288頁
定価1680円
（税別）

●全国の各書店でのご注文は送料別

発行所 新ハイキング社
東京都北区荒川17-9-13
TEL/FAX 03-3315-8170

車を時々見る。

読者の皆さんも、マイカーで四国巡拝される時は、「四国のみち」の標識は歩くためのものと思ってください。必ずしも歩く時の最短コースではないのが不満だが……。

八幡神社の前でマイカーの人たちと別れて、神社に参拝する。鳥居の横には休憩所のあるまやが設けられトイレも利用できる。もう少し進んだ那賀川のほとりに新しい休憩所が設けられている。そうなので、昼食はそこまで待つことにする。やがて集落の中に入り、民家の庭先のような所や家と家の間を通り抜け、県道に出る。この県道を右に進むと、新しく建設された大井休憩所が左手に見えてくる。ここで昼食にする。

納経寺を出たあたりから宏の流れが気になっただが、正午を過ぎてはつきりと天気は下り坂になってきた。昼食もそこそこに出発する。

神社のようなコンクリート造りの礼拝所が見え、その向こうの橋で那賀川を渡るのだが、思ったよりも距離がある。橋と県道の交差点に飲料水の自動販売機があり、ここから大師寺までほとんど人家もないので、飲物を持参する。コンクリート製の水井橋で那賀川を渡る。剣山を水源とするこの川は、岩々と美しく静かに流れている。

橋を渡ったところで右に県道が分かれ、少し直進すると、谷川の手前で右手の簡易舗装の道に入る。この道はゆるやかな登りになっており、常に橋を谷川が流れ、

木々の緑とせせらぎのなかを歩く。やがて、川の左岸から右岸へと橋で渡ると若杉休憩所のあるまやが見えてくる。休憩所でザックをおろし、裏手の川の水で顔を洗う。冷たい水が汗ばんだ肌心地よい。休憩所を過ぎると左手に丁石が置かれ、大龍寺が近くなったことを教えてくれる。

やがて、右手に祠が見え、少し進むと右側の山へ取りつく。舗装路から山道になり、杉の植林地や伐採地のなかをどんどん登って行く。時々崩壊している所を通るが、特に危険はない。

雨雲は刻一刻と濃くなり、大龍寺に着くのが早いか、雨が降るのが早いかという状況になる。

少し疲れた頃、大龍寺の鐘の音が聞こえ始めた。かなり登っているのだが、寺は山の向こう側にあるため、その姿が見えずやきもささせられる。やがて、山道もなだらかになり、小さなピークをいくつか越え、駐車場から来る舗装された参道に出た。参道を10分位進むと山門がたたずんでおり、その向こうに、木坊がどっしりと建っている。この庭には龍



大龍寺本堂

の天井面が描かれており、一見の価値がある。

本坊にある納経所の前のベンチで、ザックをおろしたと同時に雨がパラつき始めた。あわててザックカバーと折りたたみ傘を取り出し、本坊の玄関横にザックを置かせてもらう。

大龍寺は、弘法大師が若い頃修行された地であるため、徳島の他の霊場よりも境内が広く、建物も立派である。本堂・大師堂とも石段を登った所に建てられており、本堂から見る景色は良いのだが、残念ながら雨で眺望がまなかった。

お参りを済ませ、納経所へ戻ると、受付の若いお坊さんが、女性の参拝客と汗をかきながら話をしている。話を聞いてみると、お姿殿（本堂の姿を印刷したお札を納めるホルダー、お姿は湯桶、桶屋に納経していただいた際にいただく）に朱印を押してほしいとのことである。納経のいわれやお姿のいわれについてお坊さんに代って説明し、納得してもらった。お坊さんに感謝されるやら、女性に感心されるやらで、妙な体験をした。

雨も徐々に強くなり、これから先は舗装道路ばかりで、歩いておもしろい道で

もない。ロープウェイでおりにことにし、駅へ向かう。

ロープウェイの窓からは、絶壁と杉の森林、そして那賀川の清流を眺めることができ、一日の山歩きの終わりにふさわしい気分になった。

ロープウェイの山麓駅からは徒歩約20分で徳島バスの和食東バス停に着く。30分余り待つバスで徳島駅へ戻った。（平成11年10月10日歩く）

▲参考タイム▼

JR徳島駅（バス）生名8・45―水呑大
師10・10―15―徳林寺11・00―35―大井
休憩所12・20―50―若杉休憩所13・25―
35―大龍寺14・30（ロープウェイ）山麓
駅（徒歩約分）和食東（バス）徳島駅
△地形図V5万―阿波富岡
△問い合わせ▼

徳林寺 088854(2) 3020
大龍寺 088446(2) 2021
徳島バス 0886(22) 1811
大龍寺ロープウェイ 08846(2) 3110

夏山シーズンいよいよ到来!

北海道のおすすめツアー

北海道の屋根 大雪山縦走と十勝岳縦走
 ◆出発日 ①7/19(水) ②7/26(水) ③8/2(水)
 ◆旅行代金 ¥139,000 [3泊4日]

道東の3名山 羅臼岳・斜里岳・雄阿寒岳
 ◆出発日 ①7/14(金) ②7/21(金) ③8/4(金)
 ◆旅行代金 ¥152,000 [3泊4日]

憧れの山 トムラウシと十勝岳
 ◆出発日 9/7(木) [3泊4日]
 ◆旅行代金 ¥137,000

北海道の名山 ニベロツ山・石狩岳・天塩岳
 ◆出発日 9/7(木) [3泊4日]
 ◆旅行代金 ¥138,000

おすすめ! ゆったりプラン

ゆったり 荒川三山～赤石岳縦走
 ◆出発日 7/27(木) [4泊5日] ◆旅行代金 ¥104,000

ゆったり 大朝日連峰縦走
 ◆出発日 8/24(水) [3泊4日] ◆旅行代金 ¥95,000

ゆったり 表銀座縦走 燕岳～槍ヶ岳
 ◆出発日 8/2 [5泊6日] ◆旅行代金 ¥98,000

ポーター付き 楽々プラン

コッフェル、ガスなどの共同装備と個人装備の貸渡はスタッフが運びます。重い荷物が持てない方も!

大雪山 旭岳～トムラウシ縦走
 ◆出発日 8/17(水) [4泊5日] ◆旅行代金 ¥238,000

北海道 日高山脈 幌尻岳
 ◆出発日 8/14(水) [3泊4日] ◆旅行代金 ¥218,000

憧れの海外の山へ

オーバーロードホルンとファウルホルン
 プライツホルン(4184m)登頂 10日間
 ◆出発日 8/22(火) ◆旅行代金 ¥468,000

隠板順一氏と歩く 南フランスの山旅と
 陽光のプロヴァンス地方 9日間
 ◆出発日 8/28(火) ◆旅行代金 ¥488,000

お問い合わせ・お申し込みは・・・ 運輸大臣登録旅行業1366号 (株)日本旅行業協会 ボンド保証会員

アミューストラベル(株) ☎06-6456-3366

〒130-0001 大塚府大板市北區梅田1-1-3大塚駅前第3ビル7F FAX 06-6456-3377

アルプスのおすすめツアー

日本第2位の高峰 北岳 登頂
 ◆出発日 7/28(金) [2泊3日] ◆旅行代金 ¥58,000

高山植物の美しい 大雪渓～白馬岳
 ◆出発日 7/29(土) [2泊3日] ◆旅行代金 ¥48,000

初心者におすすめ コマクサ咲く燕岳
 ◆出発日 7/30(日) [2泊3日] ◆旅行代金 ¥58,000

白馬岳～雪倉岳～朝日岳縦走
 ◆出発日 8/4(金) [3泊4日] ◆旅行代金 ¥72,000

針ノ木岳～蓮華岳～爺ヶ岳縦走
 ◆出発日 8/11(金) [3泊4日] ◆旅行代金 ¥67,000

夜行日帰りで行く 焼岳～上高地
 ◆出発日 8/12(土) [夜行日帰り] ◆旅行代金 ¥15,800

中央アルプス 木曾駒ヶ岳～空木岳縦走
 ◆出発日 8/12(土) [2泊3日] ◆旅行代金 ¥65,000

槍・穂高の展望台 空ヶ岳登頂
 ◆出発日 8/18(金) [2泊3日] ◆旅行代金 ¥54,000

槍・穂高の大パノラマ 蝶ヶ岳～常念岳縦走
 ◆出発日 8/18(金) [2泊3日] ◆旅行代金 ¥59,000

充実感あふれる 新穂高温泉～槍ヶ岳縦走
 ◆出発日 8/19(土) [3泊4日] ◆旅行代金 ¥68,000

南アルプスのへそ 槍見岳登頂
 ◆出発日 8/25(金) [2泊3日] ◆旅行代金 ¥60,000

後立山連峰の主峰 鹿島槍ヶ岳～爺ヶ岳
 ◆出発日 8/25(金) [2泊3日] ◆旅行代金 ¥62,000

不帰のキレット通過 白馬岳～五竜岳縦走
 ◆出発日 8/26(土) [3泊4日] ◆旅行代金 ¥89,000

ロングコース 表銀座縦走 燕岳～槍ヶ岳
 ◆出発日 8/7(木) [4泊5日] ◆旅行代金 ¥67,000

高山植物咲き乱れる
 大姑娘山(5025m)登頂 11日間
 ◆出発日 8/1(土) ◆旅行代金 ¥378,000

アメリカンロッキーマウンテン
 国立公園登頂&ハイキング 8日間
 ◆出発日 9/11(月) ◆旅行代金 ¥388,000

アラスカ デナリ国立公園
 紅葉ハイキングとオーロラの旅 9日間
 ◆出発日 9/3(日) ◆旅行代金 ¥458,000

はそれ程急だとも思えない。
 これからたどる尾根は内山山系と呼ばれていて、京都府下右数のブナ林が残っている所である。通常6000以上の地にか生育しないブナが4000以上の地だけのこの地に林となつてあるのは学術的に貴重な存在と言われている。京都府の自然二百選にも選ばれている。尾根にある道はよく整備されている。目の前に現れるブナの木は根が一つでそこから何本も骨を出して、空のオリーブを見ているような気になる。霧でも出てくれば夢幻の世界に迷い込んでしまったようなムードになるのは間違いない。「これが秋だ。たつと良かったのに……」と思いつつ尾根を歩いた。
 小さなピークを二つ越え、左に30分も登ると高山だ。高山は標高7023あり、丹後半島の最高峰である。北方が開けていて木々の集落が手が届きそうに見える。この明るい山頂で昼食とした。どうしたわけか元気のなかった3人も、お腹に詰め込むものを詰め込むと、口だけは元に戻った様子でや々と安心。昼食時間をいつもより短くして、慌しく出発する。何と後があるのだから……

柳平の尾根は四ツ目のピークを北に向かうと読んでいたが、一つ手前で尾根に入り込んでしまった。踏み跡がなくなり尾根がぐだつていくのですぐ気がついて軌道修正。一つの山行に一度は必ず間違いはあるようだが、これも御愛敬。「柳平まで7000」の標識が立っていたが、歩いてみると柳平まではそれ以上あるように感じる尾根道だった。
 主尾根から90度左に曲がり、ゆるい斜面をくだり登るとブナの林のササのなかに三角点(6799)は立っていた。あたりの景観は全くなく、山頂というより広いブナの林に迷い込んだと言ったほうがよいような平坦な、だた広い山頂だった。三角点のあるこの場所は平凡と言えろが、ここに至る尾根道は幽玄を絵に描いたと言っても過言でない風景だった。三角点標石は真北を向いていて、頭を黄色に塗られてる。大きさも一辺15センチ。

立っていたのだが、尾根にあった木とは違い、樹齡何百年も経っているのだろうか、それは堂々と大きく立っていた。3人が見に行つてくる間、全く興味がなかったのか、破れていたので、1名だけは尾根に寄り込んで助こうとはしなかった。ブナの大木を見た後、様々な姿に驚かしている奇木を羨しみながら、登って来た道を内山まで戻った。
 稲路、他の丹後半島の三角点も訪ねるつもりだったが、時間がなく断念。破れた寺の北にある丹後半島縦貫林道から10分程で行くことのできる「娘ヶ岳三角点」だけは何とか踏むことができた。
 朝の予感不幸にも的中し、丹後半島の三角点を出るだけ多く訪ねるといってもろろは大幅に狂つてしまい、この日の山行を終えた。
 (平成9年7月5日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 内山 (25分) 味土野越 (25分) 高尾山 (15分) 味土野越 (25分) ブナハウス内山 (15分) 駒倉越 (20分) 高山 (40分) 柳平 (1時間) ブナハウス内山
- ▲地形図▼ 2万5千目置

連載

比良を歩く ⑱

三舞谷道からワサビ峠・中峠・南比良峠

秦 康 夫

今回は三舞谷道から、ワサビ峠・中峠・南比良峠と比良の二つの峠を訪ね、深谷道をつくって丁度比良駅に出ようという少々欲張った山行である。

出町柳駅からの京都バスを葛川橋ノ木で降り、総勢12名が9時10分、石楠花山建物の林道を登り始めた。2、3分後林道は右寺に突き当たるが、その手前に左の杉林へ入って行く山道がある。入り口の木には「三舞谷道」と彫られた木板が掛かっており、その下に置かれた木の皮にある薄い文字は「武奈ヶ岳登山道」と読める。

杉林のなかの細い道はお寺の屋根を見下ろしながら右上にくんぐん登り、すぐ

左に曲がる。始めからなかなかの急登だ。左の三舞谷に近づいたり離れたたり、ジグザグの登りが続く。

歩き始めてから約30分、やっと杉林を抜けて自然林に入り、山腹を登りトラス道となった。一気に斜面を横切り左の三舞谷に近づいて行く。所どころ路肩の崩れた危なっかしい道をストックでバランスをとりながら慎重にくぐり、新音も涼しげな谷におり立った。三舞谷が二股に分かれる少し上流のあたりである。ここで休憩。ひんやりとした谷風が汗ばんだ肌心地よい。

対岸へよじ登って大きな岩の楕を通り、いま渡ってきた右股と、それより少し流

けにいたる所にケモノ道が走っており、道を捨てるに苦勞する。

おおむね右上の方向をめざしてジグザグに広い斜面を登りつめると峠も跡もやや明瞭になり、右下に溪流を見下ろす谷沿いのユリ道になった。流の音も聞こえる。道は途切れながらも徐々に谷に近づき、小さな滝の少し上におりてきた。さきほど渡った三舞谷右股の上流である。

対岸に渡って休憩した。

ここから谷の左岸沿いになる。登り口のハンゴは朽ち果れて橋木は全部なくなっているが、鉄のクサリは健在だ。クサリと木の根をつかんでやっとよじ登った。

左の谷には小流が多く、流れは急である。同時に、谷に沿って登る道もかなり急勾配になる。道はあったりなかったり、時おり現れるテープを頼りに進むが、何度も立ち往生した。そのたびに全員で手分けしてのルート探しとなるが、鉄の力はあてがたいもので、必ずだけれが道らしきものを見つけてくれる。

谷筋からはかなり離れ、支谷の頭を2、3ヶ所横切って、やっと見覚えのある場所に着いた。石垣を組んだ炭焼き窯の跡がある。谷をへだてて見える大きなガレ場はユオウハゲのようだ。

ここからは右東に向かって二つほど支谷を越え、三舞谷右股の本流に出合った。頭頭に近いので水はなく、石のゴ



三舞谷から

ワサビ峠・中峠・南比良峠付近地図

小川新道のブナ林



れ細い左股の間を東に向かうと、道は間もなく右寄り杉林のなかに入って行く。始めは傾斜のゆるい歩きやすい道だ。はるか右下には、二股になって落ちる大きな滝も見える。

杉林が終わってまばらな自然林になるあたりから登りが急になってきた。登山路も踏み跡程度の不鮮明なもので、おま

ロゴロした荒れ谷である。幅も狭く支谷と変わらない。数10分、この溝状のなかを登り右上にはい上ると、細いながらも鮮明な道が現れた。東方向に向かって

しばらくは雑木帯のなかを進む。しだいにクマザサが多くなり、そのうち、いやにササの背丈が高くなったな、と思っただら、いつの間にかネマガリダケの群落に入っていた。下に向かって地を這うように密生している。急な登りなので完全に頭上をおおわれ、まるでササのトンネルの中を突き進んで行くようだ。

やわらかそうな竹の子が目につく。親竹はネマガリダケの名そのままに、斜面の下向きに張元から曲がっているが、竹の子はまだ雪の冬を越しているのだから、親竹と交差するように向かってまっすぐのびている。おいしそうだが採っている余裕はない。太くて強靱なササを分け分けるのに、腕がだるくなるほどの悪戯聞が続いた。

やっとネマガリダケ地帯を脱出すると丈の低いクマザサに灌木が混じるようになり、12時10分、ワサビ峠に到着。歩き始めてからちょうど3時間かかったこと

になる。

小頭後、中時への橋渡に従い東の道に入る。路上質の滑りやすい道だ。アジサイ街道の名の通り、流れ咲く青いガクアジサイを眺めながら、10分ほどで口ノ深谷の源流地帯に出た。流れを渡り河原で大休止。セミシグレを眺めながらゆっくりに飲食をとった。

午後、ゆるやかな登りで中時を右に折れ、尾根道の小川新道を南に向かう。ほどなく「シャクシコバの頭」に着いた。標高は1121m。きょうは谷道歩きと締めくりなので本日唯一のピークだが、四面木立に囲まれて展望は全くない。一服もせずにそのまま出発。

やや急なくだりを過ぎると尾根は平坦になる。ここからの稜線歩きは快適だった。林立するブナのなかに、クスギヤコナラの混じる自然林。都会では35度の暑さというのに、ここは涼しい緑の風が心地よく頬をなでる別天地である。このまま通り過ぎてしまうのはもったいない。少し休憩することにした。ブナ林の写真撮る人、ツルを採集する人、図鑑で花を調べる人、山でしか味わうことのできない、くつろぎのひとときである。

ゆるやかな尾根歩きは、杉の大木帯を

過ぎると突如岩場の急降下に一変した。午前中の登りもきつかったが、このくだりも相当なものだ。邪魔なストックをザックに収納し、木の根や岩角など、頼れるものは全部活用してやっとなりだりおりのた。次は花崗岩の崩れた砂地の急坂が続く。途中、中央に石版の組み込まれた立派なケルンの建っている所で一服。「左上シャクシコバの頭 右下大橋小屋」の案内標識もある。

ここから少しくだると左手に、異様な形の岩が目についた。雨宿りのできそうな庇付きの大きな岩だ。「月見岩」というのが登山地図にあるが、このことか。道は砂地で滑りやすいうえに、かなりの急傾斜である。無造作にかかとから足を踏み出すとズルッと滑ってしまう。少し前かがみになり、重心を前に移して歩くほうが安定するようだ。この姿勢で、靴の中で足の指を立ててエッジを効かせ、靴底を押しえつけて歩くとかなり滑りにくくなる。靴の裏と地面との摩擦係数を最大にしようということである。そろりそろりと慎重に歩を進んで、ようやく傾地獄のような危険地帯を抜け出す

すと、こんどは石のゴロゴロした谷筋の

要路となり、間もなく右に捲き道が現れた。これでやれやれ、左廻りに杉林のなかをくだり、牛コバから来る奥ノ深谷道の登山路に出た。シャクシコバの頭からは370mほどのくだりだが、急坂の連続で、なかなか気の抜けない小川新道である。

ここから数分で大橋小屋。小屋横から対岸に渡ろうとしたが、ここにあったはずの木の橋や、取りつき点の滑りやすい岩に付けられていた足場など、流失してしまったのか跡形もない。岩壁に苦労して徒渉し、渡った所の広場で休憩した。「比良の銘水」との表示があり、岩の間からこんこんと水が湧き出ている。冷たくておいしい水だ。「スリパチの水」とも書いてあるので、水の出てる岩の形が楕円に似ているのかな、と思ったがそうではなく、この上にある標跡山から湧み出してくる水だと気が付いたのはしばらくして後のことだった。

左に八雲ヶ原方面への道を分けて、右へ谷沿いの道を南比良峠に向かう。だんだん道は悪くなり、かつ不鮮明になってくるが、テープ標識が随所にあるのである

から車道に出てJR比良駅には17時40分頃着いた。

きょうは、三つの峠を訪ねたうえ、谷道歩きから尾根歩き・徒渉・ネマガリタケのやぶ漕ぎ、それに岩場の急降下とロープくだり、自然公園のようなブナ林、比良の魅力を凝縮した何でもある一日だった。

締め活りは京都駅前の居酒屋で、特に反省することのない反省会。充実した山行の後では、ビールもまた格別である。

(京都北山グループ例会・平成11年8月1日歩く)

▲コースタイム▼

萬川梅ノ木(40分) 三舞谷出合・右岸へ徒渉地点(30分) 三舞谷出合・左岸へ徒渉地点(1時間30分) ワサビ峠(10分) 口の深谷出合(15分) 中時(16分) シャクシコバの頭(30分) ケルン(20分) 大橋小屋(40分) 南比良峠(1時間) 深谷出合・府立医大小屋(1時間10分) JR比良駅

△地形図V2万5千II北小松・比良山 昭文社「比良山系」



奥ノ深谷の清瀬

りがたい。水溜小屋という古い山小屋の横を過ぎ、道は急坂を離れて左の山に入っていく。「西側からササが被さる溝状の道を抜け出すと縦走路に出た。左へと、3分で南比良峠。きょう三つ目の峠である。

あいにくの空模様で、あたり一面には半透明のガスの霧がかかり、琵琶湖はおろか、目の前にはあるはずの堂満所も姿を

見せない。ガスのなかにぼや々と浮かぶムシカリの白い花だけがわれわれを歓迎してくる。

幻想的ではあるが展望ゼロの南比良峠を後にして、早々に深谷道の長いきりかかると。第一の崩壊箇所を右に大きく高橋くあたりから急にガスが薄くなってきた。稜線のあたりは依然ガスのなかだが、下界は晴天である。近江舞子の小松沼がはっきり視野に入り、琵琶湖の湖面には陽も射している。まるで下には別世界があるようだ。

第二の崩壊箇所の縁をおそるおそる通り過ぎると間もなく、ロープ伝いの急降下が始まった。木に巻き付けられた太いロープを頼りに、始めはソロソロ、コワゴワ、足元ズルズルという調子だが、3、4本のロープを通過するうちにコップが分かってくる。14本ほど張られたロープを、後半はスムーズにおりてきた。軍手をはめてはいるが、手の平が摩擦で熱くなるほどの長さだった。

草を分けて京都府立医大の山小屋におり立ち、坂道を二つ縫って、三つ目の崩壊の所で最後の休憩。あとは深谷の板橋を二度、三度と渡り返し、長い林道歩き

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第20回)

秋田・会津・谷川岳・北海道の山旅

坂井久光

平成元年8月10日早朝、出勤前の西口氏に彼の車で十二湖を案内してもらい、名水を飲んで帰った。西口氏と別れて二ツ井駅に行った。翌近くて書店を営む秋田アルペンクラブ会員の登山家品山

正剛氏を訪ねた。彼の四輪駆動車で、米代川支流の種柳川沿いの県道を北上して、鹽黒川支流の長場内川沿いを林道終点まで送ってもらった。午後には迎えに来てもらうよう頼んで、長場内岳に向かった。東側下の流れには、長場内四十八滝があり、日程が許せば観光したい名勝である。一昨年間進えた焼山分岐の薪里川支流の船毛川源流、一ノ又沢の鞍部に着いた。南側は伐採されていて一部植林中であっ

た。ササの尾根道を登りきって、長場内岳(945m)登った。ガスのため眺望無し。山頂でしばらく休んで往路を戻る。

途中、北側の谷間に熊がいるので見ていると、私に気付いて逃げていった。鞍部で休んでいると宮林署の人が2人来た。熊を見たと言うと、このあたりには多くいてめずらしくないと話してくれた。

林道終点で待つというとき山民の車が来た。車中で今までの経過を話したり、秋田岳界のことを伺ったりして二ツ井駅まで送ってもらい別れた。角館に行き駅前の旅館で泊まった。

11日、タクシーで奥水溪谷の登山口ま

で行き、東前岳から小杉山経由で、和賀岳(440m)に登った。道も良く、和賀

早朝の猛雷雨のため、林道に落雷があり、運転手と2人で岩石を谷に落とすのに苦労した。ガスで道型はきかなかつたが、山頂



12日、那山駅で乗り換え、磐梯西線で会津若松に出て、会津鉄道で田島に行き、バスで木賊温泉に行つて泊まった。民宿は総造りで美しく木の香りも良かった。

13日、ヒッチして松枝坂(松枝坂)行き、快速な登山道会津駒ヶ岳(2133m)に登頂した。山頂一帯は広い湖原で、登山客が多く山小屋もある。ガスのため眺望は不良。お盆で松枝坂の民宿は満員で、下山後は七人の実川荘で泊まった。

14日、主人の車で御池小屋まで送ってもらい、御山湖行きバスに乗り、遊覧船で銀山ダムへ。2時間待って浦佐行きバスで浦佐駅へ出た。湯沢温泉駅へ行き、駅近くの旅館で泊まった。この日は土曜まで入るつもりだったが、山荘は満員だった。

15日、始発で土樽駅に行き、茂倉新道を登る。急坂につぐ急坂で、矢場ノ頭ま



秋山にて(左ガイド松田氏、右田中三郎氏)

ではひどく疲れた。ミズナラ・ブナ・ゴヨウマツ・ヒバの樹林帯を抜けると草原帯となり、傾斜もゆるやかになる。登山口近くでヤマウツリ(ラン科)が咲いていた。草原ではハクサンフクロシモツケノウ・サワギボウシなど咲き誇っていた。茂倉小屋を経て茂倉岳(1978m)等三角点(へ。そこからいっただんぐだつてコルに出て、登ると一ノ倉岳(1974m)に着いた。やがて、雨が降り出したので車をさして急坂をロボの耳へくだった。そして谷川富士(1963m)に登頂した。避難小屋前で昼食休憩。天神平へくんだり、ケーブルで土合口へ、バスで水上温泉に行き、電車で東京に出て、夜行で久しぶりに帰京した。

9月下旬、「1等三角点研究会」会員で、「JAC」(会田クラブ)会員の当時78歳の田中三郎氏(日本百名山完登、1等三角点(名山完登)のお陰を受け、知床半島の硫黄山・佐藤岳・赤松山の三山を登って来た。

9月27日の夕方、北海道大学の北楽館で待ち合せた。25日、舞鶴港からフェリーで出発。小樽には27日早朝上陸し、札幌に行った。夕刻田中氏が来られるま

で、札幌にいた大学同窓の森田氏と久しぶりに会って付近の料亭で昼食をご馳走になった。その後大通公園を散策し、宿に帰ると田中氏が来ておられた。やがて道通会会長佐々木氏が迎えに来られ、すすきの料亭「鶴」へ行った。橋本札幌会長とも会い、ハマナス団体の成功を祝して乾杯した。今回の山行や昨夏・今夏の旅を話し、今後の道内の山脈に御助力を願った。

28日、田中氏が以前から連絡していた北海道アルパインガイドの社員松田氏が、4WDの8人乗ライトバンで迎えに来て8時出発した。高速道路で深川まで行き、神居古潭で休憩した。上川のドライブインで昼食後、温泉駅を通り石北峠を越え、北見市から斜里町を経て、宇登呂を通って岩尾川の小林小屋に行き一泊した。地の証ホテルは閉鎖しており、寝の窓岩から出る露天風呂(テラス)を持って行ったが、原森林の入浴はスリルもあっていい湯加減であった。

29日、雨だったが車で硫黄山登山口へ行き、雨の上がるのを待って出発した。ここは有名な露天風呂のあるカムイワツカの滝の下流であり、夏は観光客で賑わ

所である。始めは良い道だったので、道端のシメジや茸を探ったりして飯前登山に着いた。ここからしばらくは廣葉の積層帯や巨岩の悲路となり、その先はハイマツが茂り、田中氏にはきつい道が続いた。谷川にくだつてひと休みしてから沢登りで小滝を二、三高飛び、谷のつめからはガキ塚の急傾斜になった。コケモモ・シラタマノキ・ブルーベリーがたくさん突っていた。最後の岩場を登りきると礫黄山頂上で少しもどろろの大きな一等三角点が顕著していた。雨上がりのため展望はきかなくなったが、幅広い頂上は雲が迫り寒かった。岩陰で小憩後、往路を下山した。駐車場に近づくと太田が出た。カミイワカカの湯滝を見下ろし、茸を探りて下山した。駐車場には五、六台の車が駐車していて入浴客が大勢いた。車で斜里町に行き、食堂で夕食後、峠道の保養センターで入浴して泊まった。

30日、7時頃出発。清里町から札幌に走り、野上峠を越え洞爺湖を見下ろす川湯温泉への分岐を右折、湖の北岸を通って、東麓谷村への峠に駐車して、藻岩山(999m)へ登った。快晴で藻岩山・羅臼岳・斜里岳・洞爺湖を望み、眼下に洞爺湖や小島を見る。南に産阿婆岳・雄阿婆岳・サマヌスプリ・忍村丸山等が眺められ、真に茶畑のひとときを過ごした。往路下山後、野上峠から川湯温泉に走り、弟下町で右折、阿婆前峠を通り足寄町から上十勝町で右折し、然別湖の分岐を右折して鹿追町の秘湯菅野温泉に夕刻到着して泊まった。冬湯でクロレラの湯・小町の湯・大浴場・流の湯などに変化に富んだ温泉であった。山奥なのに駐車場はほとんど満員だった。

10月1日、然別川の右保林道(ユウハンベツ川沿い)を4、5km走り、海原に駐車。林道は荒れており走行困難で、以後河原を歩いて右の小谷をつめた。破瑛に出て標竿からの登路と合し、昭和63年8月1日に登りて登ったウベサンケ山(988m)へ再登した。

北には、その後平成7年7月に登った2等三角点のニベツ山や音更山・タマネツリを始め、大雪山群が見え、東に宮登平山、南方に巨萬の山々、眼下に標竿湖が俯瞰できた。大展望に時の経つのも忘れてカメラのシャッターを切った。下山の際、大勢の登山客とすれ違ったが、田中氏が78歳だと聞いて皆びっくりして

いた。露天風呂で汗を流し、土産蕎麦を買って出発した。上十勝の分岐で右折、十勝川沿いにくだつて峠を渡って新得町の狩勝ホテルで泊まった。

2日、佐幌スキー場に行き、佐幌岳(1059m)に登頂した。560度の大展望で、一回ゆっくり展望を楽しむ小憩後下山した。スキー場はリフトや立派な施設が完備していた。狩勝峠を越え、日高の平取町を経由し、トマム休養村を通り前所レストランで休憩した。千歳空港では、田中氏より夕食に焼肉をご馳走になり、東京へ帰る田中氏を見送ってから解放した。その夜はJRで札幌に出て泊まった。

3日、中央バスで深川の田中利一氏を訪問した。四休の成功を祝し、その後のことなどを語り、再会を期した。バスで札幌経由小樽に行き、道庁巡視員の上口氏を訪れ、強く言われたので一泊お世話になった。その後のことなどを話しながらの楽しい一夜を過ごした。

翌4日、フェリーのりばまで送ってもらい、新日本海フェリーで6日夕刻舞鶴に着き京都へ帰った。(次号へつづく)

※作中の本名を回復した1等三角点の山を本で。

下市街道からの高野道

下市街道から高野道
 下市町・西吉野村の根ヶ岳と藻原岳

コースとタイム 近畿市市日原(バス停)の標高は15分(1)交野津原(2)交野津原(3)交野津原(4)交野津原(5)交野津原(6)交野津原(7)交野津原(8)交野津原(9)交野津原(10)交野津原(11)交野津原(12)交野津原(13)交野津原(14)交野津原(15)交野津原(16)交野津原(17)交野津原(18)交野津原(19)交野津原(20)交野津原(21)交野津原(22)交野津原(23)交野津原(24)交野津原(25)交野津原(26)交野津原(27)交野津原(28)交野津原(29)交野津原(30)交野津原(31)交野津原(32)交野津原(33)交野津原(34)交野津原(35)交野津原(36)交野津原(37)交野津原(38)交野津原(39)交野津原(40)交野津原(41)交野津原(42)交野津原(43)交野津原(44)交野津原(45)交野津原(46)交野津原(47)交野津原(48)交野津原(49)交野津原(50)交野津原(51)交野津原(52)交野津原(53)交野津原(54)交野津原(55)交野津原(56)交野津原(57)交野津原(58)交野津原(59)交野津原(60)交野津原(61)交野津原(62)交野津原(63)交野津原(64)交野津原(65)交野津原(66)交野津原(67)交野津原(68)交野津原(69)交野津原(70)交野津原(71)交野津原(72)交野津原(73)交野津原(74)交野津原(75)交野津原(76)交野津原(77)交野津原(78)交野津原(79)交野津原(80)交野津原(81)交野津原(82)交野津原(83)交野津原(84)交野津原(85)交野津原(86)交野津原(87)交野津原(88)交野津原(89)交野津原(90)交野津原(91)交野津原(92)交野津原(93)交野津原(94)交野津原(95)交野津原(96)交野津原(97)交野津原(98)交野津原(99)交野津原(100)交野津原(101)交野津原(102)交野津原(103)交野津原(104)交野津原(105)交野津原(106)交野津原(107)交野津原(108)交野津原(109)交野津原(110)交野津原(111)交野津原(112)交野津原(113)交野津原(114)交野津原(115)交野津原(116)交野津原(117)交野津原(118)交野津原(119)交野津原(120)交野津原(121)交野津原(122)交野津原(123)交野津原(124)交野津原(125)交野津原(126)交野津原(127)交野津原(128)交野津原(129)交野津原(130)交野津原(131)交野津原(132)交野津原(133)交野津原(134)交野津原(135)交野津原(136)交野津原(137)交野津原(138)交野津原(139)交野津原(140)交野津原(141)交野津原(142)交野津原(143)交野津原(144)交野津原(145)交野津原(146)交野津原(147)交野津原(148)交野津原(149)交野津原(150)交野津原(151)交野津原(152)交野津原(153)交野津原(154)交野津原(155)交野津原(156)交野津原(157)交野津原(158)交野津原(159)交野津原(160)交野津原(161)交野津原(162)交野津原(163)交野津原(164)交野津原(165)交野津原(166)交野津原(167)交野津原(168)交野津原(169)交野津原(170)交野津原(171)交野津原(172)交野津原(173)交野津原(174)交野津原(175)交野津原(176)交野津原(177)交野津原(178)交野津原(179)交野津原(180)交野津原(181)交野津原(182)交野津原(183)交野津原(184)交野津原(185)交野津原(186)交野津原(187)交野津原(188)交野津原(189)交野津原(190)交野津原(191)交野津原(192)交野津原(193)交野津原(194)交野津原(195)交野津原(196)交野津原(197)交野津原(198)交野津原(199)交野津原(200)交野津原(201)交野津原(202)交野津原(203)交野津原(204)交野津原(205)交野津原(206)交野津原(207)交野津原(208)交野津原(209)交野津原(210)交野津原(211)交野津原(212)交野津原(213)交野津原(214)交野津原(215)交野津原(216)交野津原(217)交野津原(218)交野津原(219)交野津原(220)交野津原(221)交野津原(222)交野津原(223)交野津原(224)交野津原(225)交野津原(226)交野津原(227)交野津原(228)交野津原(229)交野津原(230)交野津原(231)交野津原(232)交野津原(233)交野津原(234)交野津原(235)交野津原(236)交野津原(237)交野津原(238)交野津原(239)交野津原(240)交野津原(241)交野津原(242)交野津原(243)交野津原(244)交野津原(245)交野津原(246)交野津原(247)交野津原(248)交野津原(249)交野津原(250)交野津原(251)交野津原(252)交野津原(253)交野津原(254)交野津原(255)交野津原(256)交野津原(257)交野津原(258)交野津原(259)交野津原(260)交野津原(261)交野津原(262)交野津原(263)交野津原(264)交野津原(265)交野津原(266)交野津原(267)交野津原(268)交野津原(269)交野津原(270)交野津原(271)交野津原(272)交野津原(273)交野津原(274)交野津原(275)交野津原(276)交野津原(277)交野津原(278)交野津原(279)交野津原(280)交野津原(281)交野津原(282)交野津原(283)交野津原(284)交野津原(285)交野津原(286)交野津原(287)交野津原(288)交野津原(289)交野津原(290)交野津原(291)交野津原(292)交野津原(293)交野津原(294)交野津原(295)交野津原(296)交野津原(297)交野津原(298)交野津原(299)交野津原(300)交野津原(301)交野津原(302)交野津原(303)交野津原(304)交野津原(305)交野津原(306)交野津原(307)交野津原(308)交野津原(309)交野津原(310)交野津原(311)交野津原(312)交野津原(313)交野津原(314)交野津原(315)交野津原(316)交野津原(317)交野津原(318)交野津原(319)交野津原(320)交野津原(321)交野津原(322)交野津原(323)交野津原(324)交野津原(325)交野津原(326)交野津原(327)交野津原(328)交野津原(329)交野津原(330)交野津原(331)交野津原(332)交野津原(333)交野津原(334)交野津原(335)交野津原(336)交野津原(337)交野津原(338)交野津原(339)交野津原(340)交野津原(341)交野津原(342)交野津原(343)交野津原(344)交野津原(345)交野津原(346)交野津原(347)交野津原(348)交野津原(349)交野津原(350)交野津原(351)交野津原(352)交野津原(353)交野津原(354)交野津原(355)交野津原(356)交野津原(357)交野津原(358)交野津原(359)交野津原(360)交野津原(361)交野津原(362)交野津原(363)交野津原(364)交野津原(365)交野津原(366)交野津原(367)交野津原(368)交野津原(369)交野津原(370)交野津原(371)交野津原(372)交野津原(373)交野津原(374)交野津原(375)交野津原(376)交野津原(377)交野津原(378)交野津原(379)交野津原(380)交野津原(381)交野津原(382)交野津原(383)交野津原(384)交野津原(385)交野津原(386)交野津原(387)交野津原(388)交野津原(389)交野津原(390)交野津原(391)交野津原(392)交野津原(393)交野津原(394)交野津原(395)交野津原(396)交野津原(397)交野津原(398)交野津原(399)交野津原(400)交野津原(401)交野津原(402)交野津原(403)交野津原(404)交野津原(405)交野津原(406)交野津原(407)交野津原(408)交野津原(409)交野津原(410)交野津原(411)交野津原(412)交野津原(413)交野津原(414)交野津原(415)交野津原(416)交野津原(417)交野津原(418)交野津原(419)交野津原(420)交野津原(421)交野津原(422)交野津原(423)交野津原(424)交野津原(425)交野津原(426)交野津原(427)交野津原(428)交野津原(429)交野津原(430)交野津原(431)交野津原(432)交野津原(433)交野津原(434)交野津原(435)交野津原(436)交野津原(437)交野津原(438)交野津原(439)交野津原(440)交野津原(441)交野津原(442)交野津原(443)交野津原(444)交野津原(445)交野津原(446)交野津原(447)交野津原(448)交野津原(449)交野津原(450)交野津原(451)交野津原(452)交野津原(453)交野津原(454)交野津原(455)交野津原(456)交野津原(457)交野津原(458)交野津原(459)交野津原(460)交野津原(461)交野津原(462)交野津原(463)交野津原(464)交野津原(465)交野津原(466)交野津原(467)交野津原(468)交野津原(469)交野津原(470)交野津原(471)交野津原(472)交野津原(473)交野津原(474)交野津原(475)交野津原(476)交野津原(477)交野津原(478)交野津原(479)交野津原(480)交野津原(481)交野津原(482)交野津原(483)交野津原(484)交野津原(485)交野津原(486)交野津原(487)交野津原(488)交野津原(489)交野津原(490)交野津原(491)交野津原(492)交野津原(493)交野津原(494)交野津原(495)交野津原(496)交野津原(497)交野津原(498)交野津原(499)交野津原(500)交野津原(501)交野津原(502)交野津原(503)交野津原(504)交野津原(505)交野津原(506)交野津原(507)交野津原(508)交野津原(509)交野津原(510)交野津原(511)交野津原(512)交野津原(513)交野津原(514)交野津原(515)交野津原(516)交野津原(517)交野津原(518)交野津原(519)交野津原(520)交野津原(521)交野津原(522)交野津原(523)交野津原(524)交野津原(525)交野津原(526)交野津原(527)交野津原(528)交野津原(529)交野津原(530)交野津原(531)交野津原(532)交野津原(533)交野津原(534)交野津原(535)交野津原(536)交野津原(537)交野津原(538)交野津原(539)交野津原(540)交野津原(541)交野津原(542)交野津原(543)交野津原(544)交野津原(545)交野津原(546)交野津原(547)交野津原(548)交野津原(549)交野津原(550)交野津原(551)交野津原(552)交野津原(553)交野津原(554)交野津原(555)交野津原(556)交野津原(557)交野津原(558)交野津原(559)交野津原(560)交野津原(561)交野津原(562)交野津原(563)交野津原(564)交野津原(565)交野津原(566)交野津原(567)交野津原(568)交野津原(569)交野津原(570)交野津原(571)交野津原(572)交野津原(573)交野津原(574)交野津原(575)交野津原(576)交野津原(577)交野津原(578)交野津原(579)交野津原(580)交野津原(581)交野津原(582)交野津原(583)交野津原(584)交野津原(585)交野津原(586)交野津原(587)交野津原(588)交野津原(589)交野津原(590)交野津原(591)交野津原(592)交野津原(593)交野津原(594)交野津原(595)交野津原(596)交野津原(597)交野津原(598)交野津原(599)交野津原(600)交野津原(601)交野津原(602)交野津原(603)交野津原(604)交野津原(605)交野津原(606)交野津原(607)交野津原(608)交野津原(609)交野津原(610)交野津原(611)交野津原(612)交野津原(613)交野津原(614)交野津原(615)交野津原(616)交野津原(617)交野津原(618)交野津原(619)交野津原(620)交野津原(621)交野津原(622)交野津原(623)交野津原(624)交野津原(625)交野津原(626)交野津原(627)交野津原(628)交野津原(629)交野津原(630)交野津原(631)交野津原(632)交野津原(633)交野津原(634)交野津原(635)交野津原(636)交野津原(637)交野津原(638)交野津原(639)交野津原(640)交野津原(641)交野津原(642)交野津原(643)交野津原(644)交野津原(645)交野津原(646)交野津原(647)交野津原(648)交野津原(649)交野津原(650)交野津原(651)交野津原(652)交野津原(653)交野津原(654)交野津原(655)交野津原(656)交野津原(657)交野津原(658)交野津原(659)交野津原(660)交野津原(661)交野津原(662)交野津原(663)交野津原(664)交野津原(665)交野津原(666)交野津原(667)交野津原(668)交野津原(669)交野津原(670)交野津原(671)交野津原(672)交野津原(673)交野津原(674)交野津原(675)交野津原(676)交野津原(677)交野津原(678)交野津原(679)交野津原(680)交野津原(681)交野津原(682)交野津原(683)交野津原(684)交野津原(685)交野津原(686)交野津原(687)交野津原(688)交野津原(689)交野津原(690)交野津原(691)交野津原(692)交野津原(693)交野津原(694)交野津原(695)交野津原(696)交野津原(697)交野津原(698)交野津原(699)交野津原(700)交野津原(701)交野津原(702)交野津原(703)交野津原(704)交野津原(705)交野津原(706)交野津原(707)交野津原(708)交野津原(709)交野津原(710)交野津原(711)交野津原(712)交野津原(713)交野津原(714)交野津原(715)交野津原(716)交野津原(717)交野津原(718)交野津原(719)交野津原(720)交野津原(721)交野津原(722)交野津原(723)交野津原(724)交野津原(725)交野津原(726)交野津原(727)交野津原(728)交野津原(729)交野津原(730)交野津原(731)交野津原(732)交野津原(733)交野津原(734)交野津原(735)交野津原(736)交野津原(737)交野津原(738)交野津原(739)交野津原(740)交野津原(741)交野津原(742)交野津原(743)交野津原(744)交野津原(745)交野津原(746)交野津原(747)交野津原(748)交野津原(749)交野津原(750)交野津原(751)交野津原(752)交野津原(753)交野津原(754)交野津原(755)交野津原(756)交野津原(757)交野津原(758)交野津原(759)交野津原(760)交野津原(761)交野津原(762)交野津原(763)交野津原(764)交野津原(765)交野津原(766)交野津原(767)交野津原(768)交野津原(769)交野津原(770)交野津原(771)交野津原(772)交野津原(773)交野津原(774)交野津原(775)交野津原(776)交野津原(777)交野津原(778)交野津原(779)交野津原(780)交野津原(781)交野津原(782)交野津原(783)交野津原(784)交野津原(785)交野津原(786)交野津原(787)交野津原(788)交野津原(789)交野津原(790)交野津原(791)交野津原(792)交野津原(793)交野津原(794)交野津原(795)交野津原(796)交野津原(797)交野津原(798)交野津原(799)交野津原(800)交野津原(801)交野津原(802)交野津原(803)交野津原(804)交野津原(805)交野津原(806)交野津原(807)交野津原(808)交野津原(809)交野津原(810)交野津原(811)交野津原(812)交野津原(813)交野津原(814)交野津原(815)交野津原(816)交野津原(817)交野津原(818)交野津原(819)交野津原(820)交野津原(821)交野津原(822)交野津原(823)交野津原(824)交野津原(825)交野津原(826)交野津原(827)交野津原(828)交野津原(829)交野津原(830)交野津原(831)交野津原(832)交野津原(833)交野津原(834)交野津原(835)交野津原(836)交野津原(837)交野津原(838)交野津原(839)交野津原(840)交野津原(841)交野津原(842)交野津原(843)交野津原(844)交野津原(845)交野津原(846)交野津原(847)交野津原(848)交野津原(849)交野津原(850)交野津原(851)交野津原(852)交野津原(853)交野津原(854)交野津原(855)交野津原(856)交野津原(857)交野津原(858)交野津原(859)交野津原(860)交野津原(861)交野津原(862)交野津原(863)交野津原(864)交野津原(865)交野津原(866)交野津原(867)交野津原(868)交野津原(869)交野津原(870)交野津原(871)交野津原(872)交野津原(873)交野津原(874)交野津原(875)交野津原(876)交野津原(877)交野津原(878)交野津原(879)交野津原(880)交野津原(881)交野津原(882)交野津原(883)交野津原(884)交野津原(885)交野津原(886)交野津原(887)交野津原(888)交野津原(889)交野津原(890)交野津原(891)交野津原(892)交野津原(893)交野津原(894)交野津原(895)交野津原(896)交野津原(897)交野津原(898)交野津原(899)交野津原(900)交野津原(901)交野津原(902)交野津原(903)交野津原(904)交野津原(905)交野津原(906)交野津原(907)交野津原(908)交野津原(909)交野津原(910)交野津原(911)交野津原(912)交野津原(913)交野津原(914)交野津原(915)交野津原(916)交野津原(917)交野津原(918)交野津原(919)交野津原(920)交野津原(921)交野津原(922)交野津原(923)交野津原(924)交野津原(925)交野津原(926)交野津原(927)交野津原(928)交野津原(929)交野津原(930)交野津原(931)交野津原(932)交野津原(933)交野津原(934)交野津原(935)交野津原(936)交野津原(937)交野津原(938)交野津原(939)交野津原(940)交野津原(941)交野津原(942)交野津原(943)交野津原(944)交野津原(945)交野津原(946)交野津原(947)交野津原(948)交野津原(949)交野津原(950)交野津原(951)交野津原(952)交野津原(953)交野津原(954)交野津原(955)交野津原(956)交野津原(957)交野津原(958)交野津原(959)交野津原(960)交野津原(961)交野津原(962)交野津原(963)交野津原(964)交野津原(965)交野津原(966)交野津原(967)交野津原(968)交野津原(969)交野津原(970)交野津原(971)交野津原(972)交野津原(973)交野津原(974)交野津原(975)交野津原(976)交野津原(977)交野津原(978)交野津原(979)交野津原(980)交野津原(981)交野津原(982)交野津原(983)交野津原(984)交野津原(985)交野津原(986)交野津原(987)交野津原(988)交野津原(989)交野津原(990)交野津原(991)交野津原(992)交野津原(993)交野津原(994)交野津原(995)交野津原(996)交野津原(997)交野津原(998)交野津原(999)交野津原(1000)交野津原(1001)交野津原(1002)交野津原(1003)交野津原(1004)交野津原(1005)交野津原(1006)交野津原(1007)交野津原(1008)交野津原(1009)交野津原(1010)交野津原(1011)交野津原(1012)交野津原(1013)交野津原(1014)交野津原(1015)交野津原(1016)交野津原(1017)交野津原(1018)交野津原(1019)交野津原(1020)交野津原(1021)交野津原(1022)交野津原(1023)交野津原(1024)交野津原(1025)交野津原(1026)交野津原(1027)交野津原(1028)交野津原(1029)交野津原(1030)交野津原(1031)交野津原(1032)交野津原(1033)交野津原(1034)交野津原(1035)交野津原(1036)交野津原(1037)交野津原(1038)交野津原(1039)交野津原(1040)交野津原(1041)交野津原(1042)交野津原(1043)交野津原(1044)交野津原(1045)交野津原(1046)交野津原(1047)交野津原(1048)交野津原(1049)交野津原(1050)交野津原(1051)交野津原(1052)交野津原(1053)交野津原(1054)交野津原(1055)交野津原(1056)交野津原(1057)交野津原(1058)交野津原(1059)交野津原(1060)交野津原(1061)交野津原(1062)交野津原(1063)交野津原(1064)交野津原(1065)交野津原(1066)交野津原(1067)交野津原(1068)交野津原(1069)交野津原(1070)交野津原(1071)交野津原(1072)交野津原(1073)交野津原(1074)交野津原(1075)交野津原(1076)交野津原(1077)交野津原(1078)交野津原(1079)交野津原(1080)交野津原(1081)交野津原(1082)交野津原(1083)交野津原(1084)交野津原(1085)交野津原(1086)交野津原(1087)交野津原(1088)交野津原(1089)交野津原(1090)交野津原(1091)交野津原(1092)交野津原(1093)交野津原(1094)交野津原(1095)交野津原(1096)交野津原(1097)交野津原(1098)交野津原(1099)交野津原(1100)交野津原(1101)交野津原(1102)交野津原(1103)交野津原(1104)交野津原(1105)交野津原(1106)交野津原(1107)交野津原(1108)交野津原(1109)交野津原(1110)交野津原(1111)交野津原(1112)交野津原(1113)交野津原(1114)交野津原(1115)交野津原(1116)交野津原(1117)交野津原(1118)交野津原(1119)交野津原(1120)交野津原(1121)交野津原(1122)交野津原(1123)交野津原(1124)交野津原(1125)交野津原(1126)交野津原(1127)交野津原(1128)交野津原(1129)交野津原(1130)交野津原(1131)交野津原(1132)交野津原(1133)交野津原(1134)交野津原(1135)交野津原(1136)交野津原(1137)交野津原(1138)交野津原(1139)交野津原(1140)交野津原(1141)交野津原(1142)交野津原(1143)交野津原(1144)交野津原(1145)交野津原(1146)交野津原(1147)交野津原(1148)交野津原(1149)交野津原(1150)交野津原(1151)交野津原(1152)交野津原(1153)交野津原(1154)交野津原(1155)交野津原(1156)交野津原(1157)交野津原(1158)交野津原(1159)交野津原(1160)交野津原(1161)交野津原(1162)交野津原(1163)交野津原(1164)交野津原(1165)交野津原(1166)交野津原(1167)交野津原(1168)交野津原(1169)交野津原(1170)交野津原(1171)交野津原(1172)交野津原(1173)交野津原(1174)交野津原(1175)交野津原(1176)交野津原(1177)交野津原(1178)交野津原(1179)交野津原(1180)交野津原(1181)交野津原(1182)交野津原(1183)交野津原(1184)交野津原(1185)交野津原(1186)交野津原(1187)交野津原(1188)交野津原(1189)交野津原(1190)交野津原(1191)交野津原(1192)交野津原(1193)交野津原(1194)交野津原(1195)交野津原(1196)交野津原(1197)交野津原(1198)交野津原(1199)交野津原(1200)交野津原(1201)交野津原(1202)交野津原(1203)交野津原(1204)交野津原(1205)交野津原(1206)交野津原(1207)交野津原(1208)交野津原(1209)交野津原(1210)交野津原(1211)交野津原(1212)交野津原(1213)交野津原(1214)交野津原(1215)交野津原(1216)交野津原(1217)

に比定され水波能弁神と替田別命(心神天志)を祭祀する。

明治時代の神社明細帳等には「天保二年(1831)十一月十一日創立、天保元年(1850)八月当山下の鎮守八幡大明神を相殿にまつり、文治年間(1150-1184)に焼失」と記載する。「文徳実録」には天安二年(888)に従五位下の当社が官社となり従四位下に昇進、「三代実録」には貞観六年(864)に正四位下、同八年に従三位に昇進と記載している。

神社の詳細は不明だが、水波能弁神社はイザナミノ神より生れた水・肥料・耕地などを守る神で、「大和志」によると中世には神社境内に神宮寺の真言宗金山

寺が存在したとある。明治に廃寺となり仏像等は現原村大塔家の極楽寺等へ移され、大塔家の元興寺には金山寺跡の梵鐘、西切の淨教寺に阿彌陀如来像が残る。

当社の例祭は近里から8月と11月に兄弟・弟坐の宮坐で継承していたが、現在は旧橋原村の奥垣内・大塔家・中村・下村・西坊の五集落で10月15日に行う。大塔家は言野で散れた大塔宮が真野道を高野山へ送れる際、当地野土の家に滞在したという伝承地名である。波比売神社と境内社の伊勢神社に二斉に参拝をして橋原岳をくだり榛ノ木峠へ戻る。

③ 榛ノ木峠から電王辻(下市町原)の県道の開通までは健儀だった榛ノ木峠



④ 銀峰山(古吉野村平野)

海拔400m前後の尾根付近をたどる地図上の高野道は、南西へほぼ一直線だ。尾根の西斜面に点在する農家と果樹園への道が分岐し、数十戸あるはずの平沼田の集落には十数戸しか目につかず、大字内の旧称平大慈院と他の三寺や、八王子神社・八坂神社や新宮・厳島神社などの社も見えない。

干柿数万個と果樹栽培の盛んな旧白根

村部郡の大字であるが、コンニャク畑など特産品の畑は山陰に隠れて見えない。

7号台風に荒れた杉櫛の植林地を目のあたりに見て尾根道をたどると、波宝神社へ1・300mの案内板があり、夜中・十日市への分岐点に朱塗の鳥居がある。

鳥居から海拔612mの銀峰山頂までは勾配のきつい広い車道の参道を200m、時間をかけて登りきると、台風に荒れた山頂に波宝神社が嵐に耐えて鎮座する。

式内社に比定された旧郷社で県指定文化財の本殿は寛文十二年(1675)の棟札がある。祭神は原長帯日荒命と住吉の三神で貞観八年(868)に正四位下を受けている。当社の創始は不明だが、南北朝の古文書に「古田郷十ヶ村氏祖」と称され、「大和志」には「古田莊十二村其頂祭祀」とあるので、古代の古田庄の鎮守として勧請し創設されたと考えられる。

近世では古田大明神・銀峰山大明神ともいわれ、舟末には有林川宮が神社八幡神社に神像を寄進し折座所としている。明治に廃寺となった梵宮寺の存在を示す石灯籠には元禄六年(1693)銘と

寺が存在したとある。明治に廃寺となり仏像等は現原村大塔家の極楽寺等へ移され、大塔家の元興寺には金山寺跡の梵鐘、西切の淨教寺に阿彌陀如来像が残る。

当社の例祭は近里から8月と11月に兄弟・弟坐の宮坐で継承していたが、現在は旧橋原村の奥垣内・大塔家・中村・下村・西坊の五集落で10月15日に行う。大塔家は言野で散れた大塔宮が真野道を高野山へ送れる際、当地野土の家に滞在したという伝承地名である。波比売神社と境内社の伊勢神社に二斉に参拝をして橋原岳をくだり榛ノ木峠へ戻る。

⑤ 電王山(古吉野村夜中)

波宝神社から眺めた電王山は二つの峰を見守るが、519mの三角点は北の峰、夜中の岳祭りの電王社は南峰の高野道から150mの自然石の階段上にある。



台風に荒れた杉櫛のなかに雨乞いの神は1m以上の小祠を新築して三社を並べ、谷中がなまなまの夜中の閑寂された傾斜地形の山村の信仰を伝えている。

電王神社登山口から東南へは鹿嶋の大字へ通じ高野道は西南へ向かい、傾斜地に果樹園が点在する夜中の明治末建立の道標「右湯塩大日川 左ふげん道」に従い、

西へ向かい30分も歩くと湯塩の簡易水道調整所と地蔵堂がある。

⑥ 湯塩・向加名生(古吉野の大字)

丘陵傾斜地に散在する湯塩の下手に大和新四国二十九番の玉泉院延命寺がある。湯塩南部の熊野神社下の豊道から山道を抜けて鎮国寺の旧地へ出る。鎮国寺は向加名生の集落内へ熊野山不動院として新築されているが、旧村社の存巨神社は重文指定の一間社春日造の本殿を残す。元文元年(1736)の造営文書には向加名生・屋敷瀬・江山・滝の氏子373人が銀二匁ずつ出して再建したとある。

⑦ 大日川(野々生郷の町内)

春日神社から向加名生へ下り、丹生川を渡ると大日川バス停である。奈良交通バスは数少ないが、買名生梅林下を通り五条駅まで20分で結ぶので帰路に利用する。

帯川を伴子に受えた大字大日川は丹生川と大日川の斜面に散在する集落で、バスの間隔待ちに水波女命を祭る丹生神社へ参詣する。当社は買名生郷の和田・神野・北留木・老野も氏子であった。

榎尾山から滝畑へ

松永恵一

金剛生駒紀泉国定公園

平成8年10月、豊かな自然・歴史・文化を有する和泉葛城山系（河内長野市西郡・東南市福河地区）が金剛生駒国定公園に編入され、名称も「金剛生駒紀泉国定公園」に変更された。

和泉葛城山系は、大正12年に国の天然記念物に指定された和泉葛城山のブナ林を始め、環状の特定植物群落にも選ばれた牛滝山や大鳴山の自然林、三重の滝等、豊かな森と水系から成り立っている。また、歴史をゆめた牛滝山大威徳寺や大嶋温泉などがあり、関西国際空港や淡路島、紀ノ川、和歌山平野、遠くは大台・大峰の山々の大連が望めるなどの優れた眺望を有している。

榎尾山旅福寺仁王門



用される。

標高は東から西にかけて低くなり、断面によって三つのグループに大別される。東は岩崩山（698m）・三国山（865m）・葛城山（858m）に代表される山々。中央は高城山（669m）・天狗岳（612m）・三峰山（577m）などを含む山々。西は四石山（384m）や飯盛山（385m）などの山々である。

和泉山脈

大阪府と和歌山県の境界を東西約50kmにわたって連なる山脈。南北の幅は約10km。東端は奈良県境に連なる金剛山地と紀伊峠を接し、西端の仁倉峠で大阪湾と紀伊水道をつなぐ友ヶ島水道に没する。

山脈の北側は緩斜面で和泉丘陵へ連なり、大阪平野へと移行する。一方、中央構造線に沿う南側は急斜面の断崖となり、紀伊山地との境を流れる紀ノ川の河谷に落ちこむ。気候も南北で異なり、北は夏季に雨の少ない瀬戸内気候、南は温暖多雨のためミカンなどが栽培されている。地質はおもに砂岩、頁岩、泥岩からなる和泉層群で、「和泉頁石」と呼ばれる砂岩は庭石や灯籠などの石材として利用される。

榎尾山仙院院施福寺

西国三十三所観音霊場の第四番札所。天台宗。本尊は十一面千手眼観世音菩薩。毎年5月15日に開帳される秘仏。本堂内陣中央に弥勒菩薩坐像、その両側に文殊菩薩と三手観音立像とが安置されている。欽明天皇の勅願により行階が開創したと伝え、役小角が法華経を書写し葛城の秘所に埋納された際、その巻尾を安置したので「巻尾山」と呼ぶという。

「御遺告」は、延暦十二年（793）空海二十歳のとき、勸修にもなわねたこの地を訪れ、剃髮得度し、沙弥十戒、七十威儀を授けられ、名を救海と称するようになったと伝える。延暦年中には自ら千手大悲の像を彫刻して安置し、求聞持の法を修めたという伝承も残る。故に、本山には、捨身観、隠水等があり、昔、弘法大師の遺跡であると伝える。最盛期には八百余坊を誇ったが、天正九年（1581）織田信長の兵火にかかり、もの豊臣秀吉により再興された。寛永年間（1624-44）に真言宗から転宗した。二百十段の石段を登りつめる本堂・求聞持堂・大日堂・愛染堂のほか空海の刺紫堂がある。

「日本書紀」に依わる説話

「中巻第13」に榎尾山の吉祥院のことと思われる節がある。和泉の国和泉の郡の血海の山寺に、吉祥天女の土型の像（愛染）があった。聖武天皇の御代に、信濃の国の優婆塞がその山寺にやって来て住んだ。優婆塞はこの天女の像に色目を使い、愛欲の心を募らせ、ひたすら恋い慕って、一日六度のお勤めごとにお願ひして、「天女のような顔のきれいな女を私に与えてください」と祈った。

この優婆塞、ある夜天女の像と枕を交わした夢を見た。明るる日天女の像をよく見ると、鏡の腰のあたりに不浄のものが染みついて汚れていた。優婆塞はそれを見て恥じ入って、「わたしは天女さまに似た女が欲しいと願っておりましたのに、どうして妻れ多くも天女御自身がわたしと交わられたのですか」と申し上げた。しかし妻探取ずかしくてこのことはだれにも言わなかった。ところが、弟子がひそかにこのことを聞き知った。後日、その弟子が師となる優婆塞に礼を尽くさないで、師は叱って追い出した。弟子は追われて里に出て師の悪口を言い、吉

祥天女との情事をあばき立てた。里人はこのことを聞き、行って真偽のほどを確かめた。なるほどその像を見ると、淫水で汚れていた。優婆塞は事を隠しきれずに、詳しくわけを話した。これでよく分かる。深く信仰すると、神仏に通じないことはないということが、これは不思議なことである。聖徳太子、「淫欲の盛んな人は給に描いた女にも愛欲を起す」と述べておられるのは、このことをいっているのである。

優婆塞（山寺の修行者）が夢の中で吉祥天女と目してしまったという話。吉祥天女は、インド神話から仏教界にはいつてきた女神で、福徳を授ける神で、美人で名高い。深く願えば、女神さえも男の欲望を満足させてくれるのである。「中巻第37」もこの寺の話伝える。聖武天皇の御代、聖観音菩薩の木像を安置して尊んで供養していた。ある時失火して仏殿を焼いた。その菩薩の像は焼ける仏像より、二丈（約12m）ばかり外に出て無事であった。仏は物質界のものではなく、また人間の精神の顕現でもない。だから目に見えないが、その威光は不滅不変であると説く。



横尾山無頭寺本堂

コース概観

西国礼所の横尾山無頭寺は、空海(弘法大師)が修行したという山麓の古寺で、仏像・画幅・教典など多くの寺宝を有している。無頭寺を中心として四所八峰のそびえるさまは蓮華八葉にたとえられる。参拝後、岩湧山を正面に連山の雄大な眺めを楽しま、ダイヤモンド・トレールで龍洞ダムへお入り。四季を通じて自然を満喫できるファミリーコース。



横尾山から滝畑付近地図

真言密教を広める拠点としたのは、その後809年のことであった。山上西方にある巖岩は、岩登り教室で名を知られる。休日には登ったり橋を下降の練習をしているのに出会う。眺めの良い所なので立ち寄ってみる。ダイヤモンド・トレールに入り滝畑へ向かう。横尾山を起点に岩湧山・金剛山・萬城山を経て二上山の屯鶴峰に至る延長45kmのハイキングコース。町石がとぎれながら滝畑へと続く。山上から南の山際をくだるとすぐに松原越の分岐。滝尾山から西国三番礼所和歌山県の粉河寺に通じる古の西国源流の道は、今は往來する人もなくひっそりと佇んでいる。花川法皇が粉河からし越、越えの松

原路の難路に踏み迷われたとき、馬のいななきが聞こえ、その馬に導かれて横尾山に無事登られた。その馬は無頭寺の馬頭観音の化身であったといわれる。本堂の裏にまつられ、御詠歌に詠われた。深山路や松原松原わけ行けば、洞の屋敷に駒ぞいさめる。左へ急坂をくだり小さな橋を渡ると道分。丸太の階段を登りきると番屋峠。さらさらのくたて登るとゴテ峠。滝畑ダムの湖面が近づいてくる。足根を越えて右手に折れると急な下り坂。さらに石段をくだると滝畑の西ノ河の集落に出る。ダイヤモンド・トレールは岩湧山へと向かう。左折してダム湖へ向かう。ダム湖は南北に相対し、雨の日などは迫りくる山並に霞がかかり、幻想的な雰囲気になる。橋を渡る滝畑ダムのバス停はすぐ。

時間に余裕のある時は、溪流を通り横尾山奥の院の光滝寺に向かう。出合橋を渡る右手に光滝寺の遺構が現れる。ここあたりから滝畑四十八滝の名で知られる無数の滝を懸ける渓谷美が楽しめる。

南海本線東大津駅前か、JR和泉府中駅前、または京北高速鉄道の和泉中央駅前から横尾山行きの南海バスに乗る。横尾山バス停下車。途中通過してきた仏並は、福平の昔、木曾義仲が源義経を助けた宇治川の合戦で、源義経と先陣争いで有名な佐々木高綱が、その功によって拝領した地。頼朝から与えられた名馬イケツキが馬塚に眠る。バスを降りると、すぐ右手に弁財天をまつる行場。落差200mほどの滝原流が懸かり、細く白い糸を引いている。町石と石地蔵がまつられた桜や楓の並木が緩くゆるい坂道を登り、仁王門をくぐる。自然石を組んだ長い石段道となる。青むした石段の横には小川が流れ、山の冷気がどこか神秘的な世界へ誘う。少し行くと雲行き屋根の中庭、弘法大師御製所願、急な石段道にさらにひと汗流すと本堂に着く。西国四番の礼所は、墨田秀雄が再建した堂々とした建物。境内からは岩湧山を正面に、南葛城山など和泉の山々が眺められる。もっとも坂を下ろし、登りの疲れをとろう。本堂の右に護摩堂、裏に不動堂と大師

堂、左に駒堂がある。駒堂脇の石段を数段登ると左手に「横尾山経家跡」と刻まれた墓石が建つ。この地が横尾山の縁起に記された経家の跡、石段を登りつめると横尾明神社がある。石段の右側の小路を300mほど余り行くと雲行き屋根のお堂は虚空蔵菩薩をおまつりする。虚空蔵菩薩は虚空のように廣大無辺の福德・智慧を成して、衆生の諸難を成就させるといふ菩薩。この菩薩を本尊とする虚空蔵求聞持法という修法は、虚空蔵求聞持の真言を百万回唱えれば、あらゆる教法を記憶できるという教えで、平安期以後広く行われた。横尾山は弘法大師ゆかりの地。延暦二三年(804)、遣唐大使藤原葛野麻呂の一行にしがたい唐に渡った西海は、長安の都で、インド人仏教僧侶にサンスクリットなどを学び、諸寺を訪問して師を探し、不空三蔵の弟子の曹、竜寺の恵果和尚から密教を授けられた。仏教のみならずあらゆる中国文化に接した空海は、多くの密教の経論・仏具・曼荼羅などをもって、大同元年(806)に帰国した。始め筑紫の朝世善寺に滞在したのち、この地にやってきました。京都の高雄山神護寺に住し、

光滝寺は破壊不動堂・本堂・庫裏が山あいにはかなな佇まいを見せる。茶席に用いられる光滝炭は、不動明王が炭焼きの翁となつて注進に伝えたとする。滝畑ダムバス停から河内長野駅前に出るバスは、3月申分からは滝畑ダム湖視のみ運行。それ以外の日々は滝畑ダム湖を渡しながら約1時間も関西サイクルスポーツセンター前バス停まで歩くことになる。

- ▲コースタイム▼
- 南海東大津駅(バス1時間05分) 横尾山バス停(30分) 龍洞寺(20分) 退分(10分) 番屋峠(20分) ゴテ峠(25分) 西ノ河(30分) 光滝寺(40分) 滝畑ダムバス停(バス42分) 南海河内長野駅
 - ▲地形図▼ 2万5千11岩湧山・内畑
 - ▲費用▼
 - 南海河内長野駅 430円
 - 東大津駅 横尾山バス停 680円
 - 滝畑ダムバス停 530円
 - 河内長野駅 南海河内長野駅 540円
 - ▲問い合わせ▼
 - 南海総合サービスセンター
 - 06(6643) 1005

石生の分水界から一周する

向山

初級コース(★)

慶佐次 盛一

兵庫丹波の向山はやぶ山で有名な山だが、氷上山が登山道を整備して一変した。やぶ山派には拍子抜けだろうが、道標も完備され、初心者でも安心して歩けるようになった。今回は日本一低い石生の分水界から向山連山を一周するコースを紹介しよう。

私は初夏に登ったが、ヒカゲツツジが咲く4月頃か、秋の紅葉シーズンがベターだと思う。道標が完備されているから初級向きとしたが、コース全体はアップダウンの連続でやや健脚向きである。

JR福知山駅石生駅で下車、国道を南下する。すぐに欄干を水流で飾った分水界の手前に着く。ここは日本一低い分水

界で知られ、標高は1.00mほどとされる。ここに流れる川の水が瀬戸内海と日本海に分かれる。昔は、水分は身別れに粟がり糺が悪いからと、糺乳の行列はこの橋を渡って遊んだそうだ。

橋の手前を左折して高谷川沿いの道を進む。左に大和屋という旅館がある。この旅館に降る雨も瀬戸内海と日本海に流れるそうだ。大駐車場もあるから、マイカー利用ならここに駐車するとよい。向山の山並を正面に見上げながら、桜並木の道をしばらく歩くと、川の流れが瀬戸内海と日本海に分かれる様子がよく理解できる施設が設けられている。あたりは水分公園として整備され、以前とはずいぶん変わってしまった。右に日本一低い分水界を渡る机部神社がある。立ち寄って山行の無事を祈りたいものだ。

さらに林道を歩き、ゲートの扉を開けて進むと、左の休憩所の前に分水界展望所への道標があり、右折して植林のなかの道を歩く。道は次第に左寄りになり、最後はジグザグを描いて分水界展望所に着く。眼下に分水界を見下ろし、石戸山・高見城山・白山・篠ヶ峰・乳浪山・竜ヶ岳などが見渡せる。

水分公園から向山を見上げる



向山への道標から傾斜のゆるい緩歩歩きになるが、次第に傾斜が増してこのコース一番の急登となる。篠原の近くはロープまで張られている。これをこなせば珠石山(557m)に到着する。道標には昔の採石跡とあった。ここから緩歩歩きになる。漣水山への分岐の道標もある。いったんくたがって登り返したところが銚子釜(562m)である。付近に小さな

露岩が群れるところがあり、この露岩を紐の子に見立てた山名だろう。

鞍馬を進むと岩稜の展望所もあり、胸のすくような展望に思わず足が止まる。このあたりからヒカゲツツジの木が多くなる。よく踏まれた稜線のアップダウンをこなして、向山連山の最高峰である標高591mの五ノ山に着く。「これより15分で三角点」とある。寝ながら展望はなく、先へ進む。

やがて傾斜は大きくゆるみ、気持ちのいい雑木の美林となり、しせんとヒッチも上がる。向山平展望所を過ぎれば、間



もなく向山の三角点に着く。

向山の標高もあり、北北東向きの3等三角点が埋まっている。向山は石生奥山・八幡山とも呼ばれる。北東側の展望がよく、足下に異井城址を見下ろし、二岳山・烏ヶ岳・粟ヶ城、はるか遠くに大江山が望め、弥曲山のピラミッドや赤岩山も見える。

三角点でゆっくり憩い、先へ進む。くだりにかかると、尻事なヒカゲツツジの原生林となり、ツツジが展望所がある。粟鹿山が望め、三國岳や千ヶ峰も望めるというすばらしい展望所だ。ヒカゲツツジの花の咲く頃は、登山者の心をとらえて離さないことだろう。

ゆるいくだりを続けていると、深板北峯(563m)を経て主稜線の鞍部にくだり高く、左へくだる道は、私が初登の時に使った道だがそのまま鞍場を進む。もうヒカゲツツジの木は見られない。少し登ると私の台展望所があるが、山頂からの展望とあまり変わらない。さらに登ると四ノ山に着く。雑木に包まれた山で展望は得られず、くだりを続け機部展望所を経て三ノ山に登り返す。ここからはくたがり一方の道になる。岩

展望所を経てどこまでも美しい雑木林が続く。そろそろ足の疲れを覚える頃だが、雑木林が疲れをいやしてくれる。

二ノ山には滝山古墳がある。ここからもゆるい傾斜のくだりが続き、吉沢除けのフェンスの扉を開けて芝生の丘にくた

る。丘の芝生を左へくだると観音堂の登山口に出る。観音堂には水道もあるから、汗を流して元の道を戻ればよいだろう。

▲コースタイム▼

JR石生駅(15分) 机部神社(25分) 分水界展望所(40分) 珠石山(25分) 銚子釜(20分) 五ノ山(15分) 向山(25分) 四ノ山(10分) 三ノ山(30分) 二ノ山(20分) 観音堂(10分) JR石生駅(徒歩) 八幡形区V2方5千100m



コメツツジを訪ねて

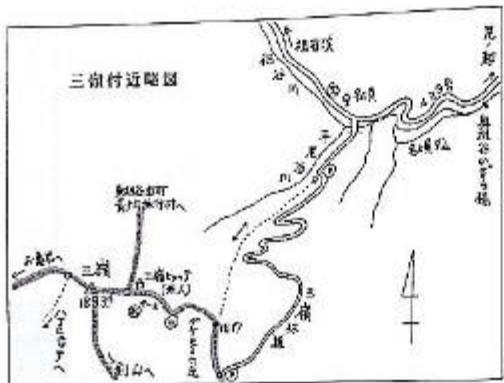
三嶺

中級コース(★★★)
篠山 誠峰

標高1893計で、徳島・高知県境に位置する三嶺は、剣山系では剣山・次郎峯について徳島県第3位の高峰である。しかし、剣山や石鎚山と比べてロープウェイや登高リフト・営業小屋なども無く、まだまだひと気の少ない山域である。昨今の登山ブームでも、都会から多くの人々が押し寄せることなく、静寂が保たれているように何となくうれしい。

平成10年3月21日の明石海峡ブリッジウォークに参加し、舞子から淡路島岩屋まで歩いて往復して、橋の大きさに驚いた。

今回は車での初渡りを兼ねて、山上の楽園にコメツツジを訪ねる三嶺山行になった。



た。

車で阪神間を早朝に出発し、山頂を往復し、山麓に宿泊することもできるが、山頂にある二階建ての無人小屋に泊まる計画にして、ゆったりと流れる時間を楽しむのもよいだろう。水場も比較的近い。

明石海峡大橋、さらに大鳴門橋を渡り、鳴門を経て、徳島自動車道を進む。美馬インターで降りて赤い鉄橋を渡り、貞光から国道438号線で見ノ越をめざす。国道とはいえかなり狭く、集落を通過するときなどは注意して徐行したい。各所で工事待機や迂回などがあっても焦らず、休憩するなどゆったりと構えてほしい。

途中、四国ではめずらしいスキー場などを見て、広くなった分岐に出る。民宿や土産物店が立ち並び見ノ越をやり過ごし、今度は国道439号線を下っていく。

名前の集落で川を渡り林道に入る。やがて右にイノシシ牧場を見てさらに平尾谷沿いの道を進むと、小さい平坦な広場に着く。林道はさらに上部にのび、奥にもう一つ駐車場があるが、早めに駐車して登山を開始する。

ブナやヒノキの森のみずみずしい林のなかを急登していくと、水路のような派

三嶺山頂



なぶつか。なおもジグザグ登高を繰り返すと稜線に出る。ここからはダケモミのみごとな純林が続く。樹木がドウダンツツジのような低木になり、ガレ場と巨岩が現れると水場に着く。冷たい湧き水は疲れた身体にありがたい。この水のうまさは、水場を彩るイブキトラノオ・シシウド等とともに、登る者の心をひきつけてやまないだろう。

最後の急登をがんばって山頂の一端に飛び出す。池と無入のヒュッテがあり、一帯は賑々しいのササとコメツツジの大群落が広がっている。国の天然記念物にも指定されているが、山頂一帯にこれほどの群落はめずらしい。花は7月上旬から下旬にかけてが見頃だろう。

頂上へは遊歩道のような道を行けばわずかです。遊るものはなく、大層

望が持っている。偏路は元の道を引き返し、約2時間で登山口に着く。

駐車地点から車で国道に戻り、見ノ越をめざす。心配していた通り天候は思わしくなく。空地にテントを張り、明日の天気次第で剣山をやることに決め、シュラフにもぐり込んだ。

案の定、明け方からどしゃ降りになった。海雨の真ん中に来たのだからとあきらめて撤退を決定し、雨のなかテントをたたむ。

下山途中の大瀬湖湖畔に滞在型宿泊施設が真新しくオープンしているので、立ち寄り時間をつぶす。

このあたりは平家落人伝説やかずら橋、手打ちそばなど観光スポットが多いので、しばらく滞在するのもいいかもしれない。

まだまだ時間が余っているので、一文字村にある公園の温泉保養センター「松戸荘」に立ち寄った。貞光川の清流に臨み、自然に恵まれていた。無色透明の天然炭酸水温泉の湯につかり、山行の疲れを流した。

(平成10年6月20〜21日昼)

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (40人乗り)
 - ・大型 (35人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0871 東大阪市満池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(8745) 3911・FAX 06(8745) 3993
夜間・電話 06(8242) 2371・FAX 06(8242) 2372

△コースタイム▽
平民谷林道駐車地点(3時間) 三嶺(2時間) 平民谷林道
△地形図▽2万5千11剣山・京上
△交通▽
バス路線からが奥深く、マイカー利用の入山が便利。
△問い合わせ先▽
ラ・フォーレつるぎ山(宿泊可)
0882(87)5555
0883(67)2826
温泉保養センター 岩戸荘

石徹のやぶ山

丸山

上級コース(★★★) 内田 嘉弘

ゴールデンウィークの後半は荒島岳と決めていた。前半をどこにするか決めかねていたところ、妻が石徹の丸山に行きたいと言いだした。

この山は猛烈なやぶ山で積雪期でないと思えないという。今年の積雪状況がつかめていないので、現地へ行ってみたいと思えるかどうか見当がつかない。

自宅を朝8時に出て、福井経由で石徹白に着いたのは13時を少し回っていた。

北方を眺めると岩肌を剥き出しにしたハーフトームの三ノ峰が望め、それから下って少し尖ったのが銚子ヶ峰、その横に真っ白な別山が顔を出している。目的の丸山はここからは見え、登れるかと

うかは分からなかった。銚子ヶ峰には雪が残っている、おそらく丸山へ続く稜線にも雪が残っているだろう。

石徹白川沿いの林道に入るが、倉谷から少し先が道路決壊の修復工事中で車は入れない。愛車倉谷合手前に置く。出発が14時になってしまった。避難小屋へ夕刻までに登れるかどうか自信がなかったのと、遊難小屋が満員であることも予想してテントを持参することにした。

眼下に雪解け水がゴウゴウと音を立てて流れる石徹白川、山肌が雪崩で濡られ直下の林道にはそれと共に落ちてきた岩石が散乱している。

白山登山道入口は「いとしろ大杉」への登り口で駐車場と車庫とトイレもある。

420段の階段を登ると尾根の台地に出た。いとしろ大杉(樹高25m)、(樹齢)約千八百年、幹まわり18m、白山を囲った泰澄大師の杖がこの大スギになったと案内板。大杉のまわりにはゼンソウがたぐくさん見られる。熊清水飲料水が沢筋にある。いよいよこれからが山頂、芽吹きが始まりかけの薄茶色の木々の間にタムシバの白い花びらが目を引く。足

元にはシヨウ

ジョウバカマ、コシジオウレンの花が見られる。

登山道に残雪を踏み締めるようになる。前方に願守山が顔を出す。1-1-9 5ヶ地点まで登ると東側は

扇形形の初河山、その左奥に平らな丸山が望めるが、あまり白いものが見られない。西にはよも太郎山と野伏ヶ岳が見えた。雪解け水が登山道を流っている。

おたけり坂の急登が終わると小白山・斑刀山も望めるようになり、ゆるい稜線をたどると神楽ノ宮遊難小屋であった。だれもいなかっただので小屋泊まりにする。

今回目標にしている丸山は約1720mの峰が邪魔をして見えないが、1669m峰と芦倉山は望める。遊難小屋の西



丸山(左のピーク)より望む銚子ヶ峰

側の家からは願守山・よも太郎山・日岸山・野伏ヶ岳・斑刀山・小白山が連なっている。よも太郎山と日岸山以外はすべて登頂済だ。

小屋の備え付けのノートを繰ると尾根の古開拓者が平成10年4月5日に銚子ヶ峰と丸山に登ったと記してあった。彼は中国とモンゴルの山へ一緒に行った仲間だ。仲間の名前が載っているのは嬉しいものだ。彼も回復して登っていることがこれで分かる。

翌朝、雪が積まっていたのでアイゼンを着け、先に銚子ヶ峰へ。ここからは雪の尾根登りだ。丸山への分岐点を過ぎると、まだ雪をべったりと付けた三角形の別山とごっしりとした三ノ峰が迫ってきた。厚層石へは少し急な登りだ。これを



丸山村近辺図

過ぎるとゆるやかな雪面の登りで銚子ヶ峰に着いた。

快晴無風展望良好。北方に続く稜線は一ノ峰から三ノ峰・別山へ連なっており、北西には雪を壁に付けている銚子ヶ岳・赤鬼山・大長山、西は願守山から小白山に続く石徹白の山々が望め、鎌刀山の右肩には三角錐の遊難小屋も顔を出している。東から南の方はこれから登る丸山と、大日ヶ岳・芦倉山・思沙門岳と360度の展望だ。

丸山はこちら側から眺めると、稜線沿いになんとか雪に繋がりが、最後の登りで二筋の雪面が山頂へのびていて頂上稜線手前で切れている。その二筋の雪面の右の雪面がルートのような。しかし、山頂部分の稜線のやぶが問題だが、北東側は雪がべったりと付いていて、それが山頂まで続いていると予想できた。銚子ヶ峰で45分も展望を楽しんでしまった。

丸山への分岐点に降り、北側の雪面をくだり東への稜線を行く。北面はブナ林で雪は積まわっていて気持ちよい。雪面を鳥の影が滑って行く、見上げるとトビが悠然と羽を揺らしていた。約1720mの峰へは登らずに北側斜面のブナ林をトラ

パスして1637mのコブに抜ける。

銚子ヶ峰からルートを見定めた二筋の雪面は目の前にあった。1700mから急登になる。稜線際の右の雪面をササにつかまりながらぐいぐい登る。雪が途切れ、少しだけやぶを漕いで抜けると北東面は雪がべったりと付いて、ゆるい雪面が山頂まで続いていた。

最高点(1768m)には9時30分に着いた。丸山と君かれた木片がシラビソの木に打ち付けてある。こちらの山頂からは、銚子ヶ峰から望めなかった小白山が別山の横に望め、三方峠山・猿ヶ馬場山も少し見え、南には熊野白山・屏風山も確認できた。

ウグイスが鳴き春山の気分を満喫した。(平成10年5月2日歩く)

参考タイム

倉谷合手前駐車場14:00-白山登山道入口14:50-神楽ノ宮遊難小屋17:00(計)6:00-銚子ヶ峰6:45-7:30-丸山分岐8:00-丸山9:30

△地形図▽2万5千1:10000 昭文社「白山」

道南の名山

長万部岳

中級コース(★★★)
金谷 昭

長万部はアイヌ語でオ・シヤマンベ「川尻のヒラメやカレイのいる所」と「川尻が横になって居る」の二説があり、前者は山の楕円にヒラメやカレイの形をした残雪の時期が、それらの時期にあたるという伝承にちなんだ語源となっている。

ここに紹介する長万部岳は、地元の長万部町を始め、北海道ではよく知られていて、「北海道百名山」の一つである。すでに登ったことのある道南の名山・狩場山の山頂から東方を望むと、石をいからせた双耳峰の長万部岳は一際りりしくてりっぱな山であった。

北海道山行で残った予備の一日を使い、



てしまった道の両側は、北限のブナを始めとする原生樹林帯が続き、歩いていても気持ちがいい。

鉱山跡で原生林が一時途切れ、付近の展望が広がった。ベンチもあり、ひと息入れるのによい所であった。

山頂の東面が望めたが、頂上はガスのなかだった。頂上直下の急峻な雪崩斜面の草付きは雨できれいに洗われていた。この斜面の残雪が長万部の語源となったヒラメやカレイの形になるのであるろうか。

鉱山跡からは本格的な登山道となり、ブナと白樺の混合林となった。相変わらず案内板は高い所に付けられている。

主稜線に近づくにつれ、ブナにかわって白樺が多くなる。やがて急登となり、848峰の南手前のコルに達した(地図では同時を経由することになっている)。左へ傾きに折れて主稜線を行く。

冬の季節風により、主稜線の左(北)側は雪崩斜面の急な草付きとなり、反対側は灌木帯だった。急なガラ場を過ぎると双耳峰の北峰に達する。山頂はさらに奥の南峰だが、北峰のほうが開けた灌木が近く見晴らしは良さそうである。



長万部岳山頂

宿の話では、最近の北海道の夏は晴天が長続きしないとのことであった。

車で登山口まで行く。途中の大峯温泉(閉鎖中)を過ぎると、アスファルト舗装道が狭い林道に変わった。両側から灌木が道を塞ぐようにのびていたが、何とか走れた。林道分岐を過ぎると、熊のイラストを描いた距離計の案内板が所どころ出てくる。さらに市を走りせると、危なっかしい木の橋があった。対岸には更新しい橋が付けたいので、少し不安だったが思いきって渡る。間もなく避難小屋「ラサキヤ」があり、登山口の林道終点に着いた。

この小屋は当地の多雪を考慮してか、高床式の鉄骨造である。冬季用で、この時期は閉鎖されていて使用できない。

登山道には案内板が積雪を考慮してか高い所に付けられていた。道もよく手入れ

登りつめた長万部岳西峰(972m)は広場になっていて、町が建てた立派な山名板と三等三角点標石があった。

小雨とガスのため残念ながら展望がきかない。宿の話では、山頂からは狩場山を始めとする道南の山々、内浦湾とその向こうに日高の山が見えると言っていた。

しばらく山頂でガスの途切れのを待ったが、その気配はなく、小雨のなか往路を引き返した。登山者にも心配していた熊にも出会わない静かな山行だった。

宿では「熊に出会わず」と冗談まじりにおどしをかけられていたが、どうも木質で心配していたらしく、玄関の戸を開けると女将の顔に安堵の白い歯がこぼれた。(平成11年7月23日歩く)

▲コースタイム▼

- 林道終点登山口(45分) 鉱山跡(1時間30分) 長万部岳(1時間15分) 鉱山跡(35分) 登山口
- ▲地形図▼2万5千1:二股温泉・太田山(札幌市) ▲宿泊▼
- 二股温泉 01377(2) 4383
- 1泊2食 5820円(税共)

南北朝・戦国時代の砦跡

行市山

初級コース(★) 柴田 昭彦

行市山は滋賀県伊香郡余呉町と福井県敦賀市美浜生地区との県境に根に位置する。享保19年(1734)完成の『近江輿地志略』には「行市山(山名)東野行一が城山なるゆゑ名附く、今は行市の文字に作る」とある。

『余呉町誌』(通史編上巻、平成3年)によると、南北朝時代に東野周助守行(1318-1384)が伊香郡で二万員を領し東野西方の山腹に砦を築いて本拠としていたという。今この山を行市山と呼ぶ。なお、東野氏が浅井氏の配下となつたのは16世紀頃のことである。

小説や解説にはこれに従つたものが目立つ。高柳氏は、勝家と藤政以外の地味は明瞭さを欠くことが多く、砦の位置も想定であり必ずしも正確ではない、と注意している。

余呉町役場では「余呉の庄と駿ヶ岳合戦」(余呉町教育委員会、昭和61年)と「余呉の庄と駿ヶ岳の合戦」(余呉町観光協会、平成元年)が入手できる。その中で、大池山が出てくる。現地(公市・新宮)の案内板(毛受兄弟史跡保存会)には小谷山も見られる。これらの地図や解説に示された砦の配置や山名、武将名はやはり一致していない。

筆者は余呉町役場で片岡地区の「小字図」を閲覧して、行市山東麓にある「坂谷・林谷・大池」の切・中の谷・別所」の位置を知ることができた(角川地名大辞典の小字図によると市ノ切の中には小谷がある)。その中で、坂谷の場所と各種資料にある坂谷山砦の位置の諸説の分布との関係を調べると、坂谷を頭んでいる砦すべてに対して、坂谷山と呼ぶケースが生じていることが分かった。他の谷に関しても同様であり、これが坂谷山や中谷山の位置の混乱の原因と考えよう。

と対立することとなった。いわゆる越ヶ岳の合戦である。天正11年(1583)3月中旬から勝家は本格的な陣地の構築にとりかかり、内中尾山砦に本陣を置き、南西にのびる尾根伝いに交通路を開き、その最端峰である行市山に勝家の甥の佐久間玄蕃盛政、その弟の保田久右衛門安政・柴田三左衛門勝政が陣を置いた。

行市山から東へ、新宮ならびに小谷方面へのびる尾根伝いにも陣地が築かれ、別所山・中谷山・坂谷山(とったにやま・坂谷山)・林谷山などに前田又左衛門利家・藤四郎利長父子、徳山五兵衛秀現(前名)、金森五郎八長近、原彦次郎長頼(原親、藤原)、不破彦三勝光、伴舞五左衛門家康ら諸将が配置されたという。敗者の勝家方の文書がなく、これらの陣地の実際の位置や諸將の配置については明確ではない。

角川日本地名大辞典は「近江輿地志略」に見える行市山付近の山名をすべて収録しているが、標高は不正確である(たとえば別所山は368mほどなく444mのはず)。

高柳光寿『戦国戦記 越ヶ岳の戦い』(春秋社、昭和33年)は、勝家方の砦の位置を調査し、近江の坂谷・飛行、平成22年)には伊香郡と東浅井郡の砦が収録されていて、行市山城砦についても詳し。

今回、この分布調査を基礎資料とし、余呉町の前掲資料も加味して、略図にアルファベットで砦の位置を示し、筆者が妥当と考えた名称を示してみた。「余呉ハイキングガイド」(余呉町役場)には五つのコースが載っていて、そのひとつが「別所山・行市山遊歩道」で、「滋賀県の山」と「近江百山」で紹介されているルートである。ここでは、林道を利用したコースを案内するとともに、砦の位置についても異説を含めて紹介しよう。

JR北陸本線木ノ本駅前、北側の案内所で「越ヶ岳戦跡誌」(資料)が入手できる。JRバス(中河内・新宮行き)に乗り、今市バス停で降りる。東へ向かい、北回街道を少し南下して右手にコース格納庫を見たら左側の店の手前の道に入る。右前方に今市橋が見えるが、分岐で左をとるとすぐに今市公園で、ここに狐塚という柴田勝家の陣地跡を示す案内板が

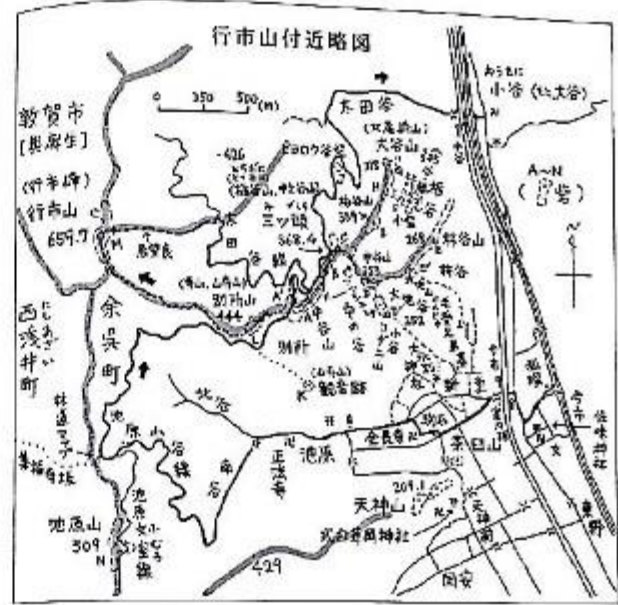
狐塚付近より見た行市山



置などについては、明治年間には陸軍参謀本部が編纂した『日本戦史柳瀬之役』に依拠しているようである。その現代訳は『日本の戦史』(徳間書店、昭和40年)に収録されている。「越ヶ岳戦跡誌」(木之本観光協会)や「越ヶ岳の戦い」(学研、1989年)はこの系列のもので、他にも

ある。ここから行市山の山体が一望できる。バス停まで戻る。史跡案内板がある。池原橋を渡り、すぐ左手の道をたどり、久沢山全長寺に出る。16世紀頃に寺が建立された時、湖池築堤のため中の谷北方の駒が谷北端から運ばれたが、毎夜「帰りたい」と馬の泣き声がかえったという駒がある。左手南方の小さい丘を茶臼山(景山、丈山)といい、東野氏の行市山砦に砲撃で信号を送る砦であったらしい。勝家に仕えた毛受兄弟が馬印を立てた陣所とも伝えられる。寺の本堂は江戸中期の上棟で景文化財である。勝家の身

日本山岳協会の山岳経済共済のご案内
①共済内容 3千円(1年分、年額1000円)
②山行に発生する火災・盗難 300万円
③山行に発生する怪死・急病 300万円
④山行に発生する人身傷害 1億円
⑤山行に発生する山崩れ・土石流による人身傷害 1億円
⑥山行に発生する山崩れ・土石流による財産損害 1億円
⑦山行に発生する山崩れ・土石流による山崩れ・土石流による人身傷害 1億円
⑧山行に発生する山崩れ・土石流による山崩れ・土石流による人身傷害 1億円
⑨山行に発生する山崩れ・土石流による山崩れ・土石流による人身傷害 1億円
⑩山行に発生する山崩れ・土石流による山崩れ・土石流による人身傷害 1億円
新ハイキング情報グループ 特別共済 あり
03-3848-1123



代わりとなり、この地で戦死した毛受兄弟の首領所ともなっている。観音堂には明治42年、別所山にあった万福寺の本尊馬頭観音が移されている。

寺の右手から市道に出て、池原の集落

に向かう。途中、右手に万福寺への元参道を示す歌碑(昭和41年建立)がある。左手に正法寺の祠を見て、次の分岐でまっすぐ南谷へ進む。すぐ偏装は切れて地蔵となるが、またコンクリート舗装となり、あとは砂利道が続く。林道池原小谷線をたどる。途中で林道池原文室線を左に分岐している。そのまま右に進むと左手に林道マツプがある。その後には盛政がくだった集福寺坂があるが、峠は消えている。尾根云いに池原山から南方へ岩跡が点在しているが大部分はやぶのなかである。北へ続く林道は東側の展望がよく、のんびりと

歩ける。やがて山火事注意の看板が目に入る。ここが別所山への元参道が林道と交わる地点のようだ。そのまま少し歩くと右手に赤テープの目印があり、すぐ左手に行市山登り口の案内がある。

登り口付近はV字をなす岩の上端にあり、右手の下山口という表示に従ってやや荒れた旧道をたどると、尾根筋のA岩を伝うことができるが、やぶがちで歩きにくい。途中で左にユーステープする小道があり、林道分岐付近に出られる。登り口から北に向かう林道のあたりはA岩の一部である。A岩は東側が中の谷に面しており中谷山嶺とも呼ばれるが、C Dの岩に対して同名で呼ばれることがある。

登り口から山道に入ると、ほどなく余呉町指定(平成9年)史跡、別所山跡跡の案内板の立つ広場に出る。鎌倉時代に天台宗の別所山万福寺があったが、織田信長の仏難に会い、寺は戦火により消失し下に降ろされたという。前田父子が岩を築いた場所、茂山(文章と川並の場)に父子が移動したあとは津細家嘉が塔を守ったという。ここを傍に寺山・山寺山ともいい、南東の観音跡を山寺山嶺とも

いうことがあるようだ。

林道開削によってできた斜面すれすれの道を経て、尾根通しに登ると行市山の山頂に至る。掘削があり、城跡の名残をとどめる。クマザサの山頂を許し、東へ急坂をくだる。雑木のなから急に展望が開ける。春にはチヨロロが多い。やがて林道太田谷線に出る。



三ツ頭から見下ろした全長寺(中央茶臼山、その右が天神山)

長嶺の岩とす。一方、その北東側には栃谷(徳谷、朽木谷、朽木谷)が広がっており、C Dの岩をすべりて栃谷山と呼ぶことが

あり、徳山赤現と金鶏長近の岩ともいう。三ツ頭は展望がよく、趣のよさにあふれている。北東にのびる尾根に道はないが、拍谷山、大谷山の岩がある。D特は栃谷の谷間にあり、大谷山と林谷山の信号連絡の経路と推定されている。大谷山岩は初期に不被勝光が建した所と伝えられる。のちに林谷山に移ったようである。拍谷山は徳山が線を置いたらしい。

三ツ頭から南東にくぐると草木が茂り、夏季は次第などで歩行がつかない道である。陰に入ると歩きやすい道となり、D岩に出る。ここも中谷山と呼ばれていることがある。道標があり、道なりにくぐるとやぶとなりD岩に出る。ここは小谷山(コタニ山)とも呼ばれる(不慮の岩?)。やぶが燃き歩きづらすが折雲に出られる。また道標から東へ脱走を越えてくぐるとハイキングコースで、分岐点Dに出る。ここは北東に続くD岩(林谷山)の南端部にあるが、独立した岩として、南側の大池谷に由来して大池山(不慮の岩?)とも称する。分岐から北東へ尾根伝いにいくと林谷山で毛受兄弟の戦死の地という。ここは、もと原が陣したが、のちに不敵が入ったようである。分岐からくぐると

と毛受兄弟の墓があり、筆者が初めてここを訪れた時にはちやうど余呉町長が求客を案内しておられる最中であつた。史跡案内図があるが、その岩の位置と武標はここで紹介したものとは異なっている。

日当たりのよい斜面はやぶがあり、三ツ頭からくぐると歩きにくいので林道に引き返し、ヒヨロロ谷特のそばを通り、太田谷から旧道に出てすぐ右手の小谷バス停から木ノ本駅前に向かう。今は小谷だが、古くは大谷と書いたことで読み方が納得できる。ヒヨロロとは多分、兵糧で、地元の古老が太田谷あたりにあったと伝える兵糧谷の兵站場所ではないだろうか。D岩もそのひとつと推測されている(総覧に中世版部分参照)。

(平成11年5月9日・8月4日歩く)

▲コースタイム▼
今市バス停(10分) 嵐塚(20分) 全長寺(55分) 集福寺(35分) 登り口(1時間) 行市山(30分) 林道出合(40分) 三ツ頭(50分) 小谷バス停
▲地形図▼ 万葉集 木之本

修行していろいろな断崖絶壁が結構。

孝吹き始めた木々で山肌は色艶を増し、春の到来を歌っているよう。健脚コースを歩けなくなったら、この遊具谷を私のホームグラウンドにしよう。

(小田妙子)

4月16日、水上郡山南町の石金山へ山深大駅支店のYさんと取材に出かけた。登路は石金山東端のイタリ山からだ。以前のイタリ山から石金山への登路は、猛やぶに悩まされたものだが、地元の純自然愛好会の努力でやぶが刈り払われ、「播丹ふれあいトレッキングコース」が今年の3月に開通している。

石金山の山頂は、遠るものがい第一級の展望台に変貌した。さっと教えて登山以上の山が回

定できた。地形図の道は廃道で、少し戻った小新屋への道標から小新屋観音へくだった。

山南町観光協会の肝入りで、岩屋城趾(蛇尾)の登山道も整備され、三組尾への登山道の整備も検討されている。

山南町は漢方薬の里で、5月13日には薬草温泉(入浴料500円)もオープンした。観光協会では、山と温泉をセットにして、部会からの登山客を誘致したいとの意向。漢方薬の里で、一日のんびりと山と温泉を楽しんでほしいものだ。

(藤佐次盛一)

4月22日、3日の伊吹北尾根と舟伏山山行は、天候にも恵まれ充実したフワワー・トレッキングとなりました。

北尾根には、この時期としてはめずらしく多量の残雪があつて、植木たちの春の動きはまだ鈍く、昨春のような躍動感に満ちた花たちの揃い踏みには、もう少し時間を要するようでした。少し時間を要するようでした。葉を展開して開花への準備を始めており、まもなく、北尾根は

きらめくような花の尾根になるのでしよう。

舟伏山は、ニリンソウやハクサンハタチオの季節にはやや同は不足してしまいが、スミレ類やキクザキイチゲ・イワサクラなどの満開の表情は、大変すばらしいものでした。

個人的には、今回、北尾根で初めてキバナノアマナに出会い、舟伏では、イワサクラの生きる岩場を新たにみつけるなど、大きな収穫もありました。また、北尾根で赤褐色の美しいジムグリ(ヘビ)に二回も遭遇できたことも嬉しい出来事でした。

(警員守康)

今、兵庫県では里山復活運動を進めているそう。戦後物の豊かさのみを求め、身近な里山の放棄してきたつけが、今われわれにしなければとして身に振りかかっている。それは、里山の崩壊による土砂の流出や土砂崩れによる災害である。そして、それが環境悪化の原因にもなっている。県は「心豊かでくつろげる森」

をめぐし、各地で里山の森林整備を始め、一部完成したものは開放している。

里山歩きを続けている私にとって、荒廃した里道に出会った時の苦勞は計り知れない。しかし、梢越しに日が差しこむ山中は、周囲に目が行きわたる、森の動植物に出会うのが楽しかった。

このような豊かな森へ、子どもたちも呼び込む手立を考えなくてはならない。学校にない、テレビゲームに勝つことを……。それには「勉強しなさい」の親も例外へ連れ出さなくてはならない。これが初老の独り言にならないことを祈る。

(深澤潤 樹)

新ハイに入念する前は、花を見て名前も知らず、可愛とかきれいだとかだけ見送って来た。鹿村八丁ではキンリコウソウが多く咲いていた。またの名をユウレイダケという。花を見て道草をしながら一人取り残された。鹿村で見たお墓の仏たちに囲まれているような気がし、今にも白い手がのびてきそうに恐ろしくって世の所に走った。

ある山でセンブリの花が多く咲いていた。山で疲れた時にセンブリの葉を口に含むとよいと聞き、口に入れてみると舌くで疲れがふつふつ、すぐにアメ玉をほうりこんだ。

家に帰り、図鑑を見ると「干回振り出しでも苦みがありこの和名がついた。胃腸薬として又近年育毛剤としてもみなおされできた」とか。そろそろおつむが気になりだした方はおためしあれ。良薬は苦して効くかも……。

4月の峰床山では、落葉樹はまだ冬木立で、陽の印竹のヤドリキが幾つも幾つも付いており、それが風にユラユラゆれていて、まるでメルヘンの森のなかを歩いているようだった。

(相井和子)

壱井・遊野原の黒河越から三國山に立ち寄り、赤坂山へ向かっている時、前を歩いている男が汗手に重たそうなハンマーを持っていたのを見た。この男が三角点標石の頭をカチ割って持ち去るハンマー男かと思ひ、追いついたときに「あんながハンマー男か」とつい声

を荒げてしまった。すると「そうだ」と言う。

そのあとよく話し合ってみると、この先の明王ノ尾に鉱石を採りに行くのだと言う。そんなことをしてもよいのかと言うと、だれもが採りに行っていて今ではあまり良いものがないと言っていた。

私もかなり頭に血がのぼっていたので相手の出方次第では、その場で喧嘩になっていたかもしれない。そして男のハンマーで私の頭はカチ割られていたかもしれない。今日はそうならなくて良かったと帰路の温泉のなかで思いめぐらした。

(山形 明)

昨秋、腰推権問板ヘルニアの抜出手術を受けた。腰背神経痛は解消したが、腰痛は残っている。手術をしたらすべて解決とはいかない。腰背神経には歩くのがよいので、せつせつとウーキングの好さな山を歩きたい。リハビリを兼ねた里山低山ハイイクが一番と、湖東の山を歩いてみた。

四葉嶺りや才波嶺のハイイク
上野地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき道りと緑の道、日鏡道
温泉旅館 けやき山荘
〒390-1500
長野県安曇野市安曇野村松林
0263-83-2555

さわやか温泉
湯田中温泉(標高)
日野屋旅館
〒388-0400 長野県、
高井郡山ノ内町湯田中温泉
0269-33-3578

標高2000m以上の温泉
湯の丸高峠自然休養林
ハイキングにXCSキー
高峠温泉
〒384-0000
長野県小市町高峠温泉
0262-25-0000

ハイキングに、スキーに
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 湯の湯温泉車
02669-34-2421
東京本社・東京駅前区新栄3
1-2015(新栄第二ビル)
湯スキーサービス
03-3334-1021

塩の道 千面街道
百八十七(観音寺)
ホテル
白馬プランシェ
〒399-0900
長野県北安曇郡三居村いわたけ
0261-72-4452

八ヶ岳南麓北麓の中心地
59年秋新築完成全館個室
木の香が漂う新約豪華温泉旅館
オーレン小屋
1泊2食付き 6000円
4月末日まで
〒399-0213 小市町
0266-6172 小市町
0266-6172 小市町

北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー
Jバス野原北八ヶ岳登山口まで
送迎します
磐梯高原
プチホテル カナール
〒399-0301
長野市北山野原磐梯高原九草6
3の1
0266-67-2200

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿のへん
高梨山・信州登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒398-1400 戸隠温泉
0266-254-2081

初日は十二坊山へ。山頂下まで車入り、ピークを踏む。春霞のなか、微かに周辺の山が眺望できた。

翌朝は岩戸山、箕作山から太郎坊山へ巡り、午後は鎌山から安土城址へと歩いた。桜はまだ惜なのに、溢れんばかりの人々で賑わっていた。

最終日は鏡山へ。道は整備され、公道化して丸太階段になっている。この階段道の下りが一番楽しかった。

翌々日まで筋肉痛が続いたが、春の近江路を堪能した3日間だった。(葉澤洋二)

朝日新聞大津支局編「京阪神から行ける遊覧の山」(かもがわ出版、2000年)は、筆者が本誌で紹介したかぶと山(徳島)、田中山(徳島)をガイドしてあります。田中山は97年秋に山火事があったためにはげ山になったという情報を知ることができました。この本で、ちよつと残念なことは、三上山のガイド地図では「刺撃山」という誤った山名が採用されていて、統一がとれていないことです。角川

日本地名大辞典に堂々と間違っているのやむを得ないとは思いますが、なほ、田中山のガイドで「奥今山」とあるのは誤りです。

内田嘉弘「大和まほろばの旅」(ナカニシヤ出版、2000年)では、私が本誌で紹介したことのある栢山(反音三敷野(35号))と匡見岳(51号)がガイドされています。内田氏のガイドはコンパクトにまとめてあるので、実際に歩く場合には、本誌のガイドの併用をおすすめしたいと思えます。

それにしても、2月には国見山(国見岳)、4月には相模振山(田中山)と、本誌に掲載したガイドが連続して、ほぼ同時期に発売されたガイドブックに紹介されていたことには驚かされました。

背景としては、以前はほとんど見向きもされなかったような山々の魅力を知り、訪れる人が増えてきているのでしよう。私も今後、そういふ里山の魅力をガイドを通じて伝えていきたいと考えています。(葉田明彦)

舟伏山・伊吹山・雲仙山・御池岳・藤原岳、いずれも花が多いことでは知られ、舟伏山・御池岳を除く他の三山は「花の百名山」に選定されている。

時期は違いますが、それぞれの山では、昨年より0種、110種、70種、90種、90種の花や結実を確認しました。

上記の五山はいずれも全山石灰岩の山々で急峻条件も似かよっている。小生毛から2時間以内に行け、山の花見をするには恵まれている。

本誌5号にて菅見さん紹介の野谷井司山からは、昨年7月24日に三方岩屋へ歩いた。83種の花と結実とで140種もの膨大な植物が確認できた。この山は少し遠いが、今年もぜひ歩きたい山の一つになりました。(山田明彦)

山行短歌
2月17日 六甲赤子谷、岩原山道無くしはばむ根堤高越けは
地表くすれ落ち岩空雲む

2月21日 六甲焼石原、大平山山は流れ海は泣く構める世界の
まきは電影われは道化師

3月5日 比良堂橋
尻セドで雪の斜面を滑り落ちつ
きみの面影とびちる雪片

3月7日 比良武家ヶ岳
運かなる頂上へのデイスカンス
連帯は白き山の何処かに

3月14日 北神口谷上、丹生山
山三つ四つつえ笛吹く稚児の
春歌をしるさる風止む間なく

3月20日 台高山白根岳
芽吹きをむ木々あれど花の精は
雪に眠りぬ春浅き季節を

3月23日 吹田万福寺念公閣
卒業せし我が子へ頭振り生まると
一億年のかなたから太閤

3月25日 紀原大鳴山、高城山
尾懸着したどれば雲津島が見ゆ
別あたえよ遠路なきものへ

4月3日 丹波篠十郎ヶ岳
樹木をよぎて列島を春かけぬけ
天の摂理のあるがままに

4月9日 池田五月山
山野はてなく桜の花びらひらげ
妻の好みぬ桜華れこそ舞へ

(木村太郎)

山行短歌
4月2日、杉坂山、アミダ峰にて
冬枯れの足根は一面ミスマシウ
可憐で可愛い春の使者たち

庭先の鐘分草のかたまりに
皆んな驚くカラストの甲
芹川の道の斜面の日溜りに
キバナノアマナ春風に舞う

4月9日、雲仙山西南屋根にて
山頂のルートは一面福寿草
縹紫浄土黄金の花

権現の岩場は白いスハマソウ
ピンク、輪替んな集める

4月16日、金栗岳・白倉岳、花
房屋根にて
金栗と白倉岳の感言が
早く来いよと微笑む林道
金栗のてんこもりもり雑草と
大パノラマと皆んなの笑顔
金栗の雪庇を攻めて急斜面
はやる心は白倉の峰
白倉の雪庇張り出す森々に
まんぞ咲いたよマンサツクの花
延々と白の山渡英山へ
心うきうき花房の屋根

4月23日、高取山・比婆山・イ
ワスにて
高取のヒトリシズカは吹き乱れ
ヤマシナツクタクも皆ふくらむ
比婆山の雪庇の下宿座する
古代のロマンイザナミノミコ
イワ山大パノラマと絶壁と
昔を思ふ緑むら野屋

(菅野 明)

本誌5号(00年3・4月)所載のバス時刻(至生)欄のうち、三重交通バスとある青山町駅、高尾・生土上出行は、4月1日から青山町の町営バス(三交委託運転)となった。これは、同町民の福祉施設の一環として移行されたもので、ダイヤは従前をほぼ踏襲。また、町民外の者でも、そのバスの利用はよろしいそうである。

変わったことは、バス運賃の上限が一乗車二百円となったため、「尼ヶ岳」をめざす場合、交通費は三分の一となり、時節がら耳寄りな話といえよう。これを機会に、伊賀前土「尼ヶ岳」の挨拶をおすすめいたします。(高田繁久)

このたびは日本陸軍ハイターのリーダーを兼ねることになりました。理由は、昨年選任に到達し、判断力等に際り出る年齢になったのではないかと考えるからです。

山行にはいりんな危険が潜んでいて、それ等に遭遇した時は、リーダーは堪忍にもっとも正しいジャッジをして同行者の災難

等を未然に防ぐ能力が不可欠です。数年前からこの考えに変わりなく、親しい友人には自分の考えを話したこともあったのですが、約一年長く続けさせていただいたようでした。

即戦を招いてからリーダーを引き受けておられる方もあり、このような能力については個人差があつてしかるべきものだと思っています。今回の私の判断は、白らのポリシーに従つたままであります。

長いようで短かった六年間でしたが、楽しい思い出ばかりでもっとも幸せでした。

お世話になった幾多の皆さん、本当にありがとうございました。そして、心ならずもご迷惑をおかけしてしまった方々には心版よりおわび申し上げます。

山は大好きですから、これからも新ハイの山行を始め、どこかの山や峠でお会いすることもあろうかと思いますが、その節にはよろしく。

ありがとうございました。

(菅中 彰)

<p>日本唯一の女人禁制の山(大 種山)(白鳥山)の登山口 種村ヶ原女人コースもあり 温泉・名水の里 旅館 紀の国屋 基八 1泊2食付 7,000円から 63810431 奈良県吉野郡大村川町川 074761410309</p>	<p>九折の星雲峰・日本百名山 宮之浦岳に一歩近い宿 屋久島安房登山口 屋久島グリーンホテル 〒891-4311 鹿児島県鹿嶋郡屋久町安房 099741613021</p>	<p>御在所登山に 愛知山溪谷沢歩道に 山好き仲間集まる店 朝明茶屋 山小屋 朝明茶屋 TEL:012261 〒23003 三重郡野町千草 05931931788</p>	<p>サービスマニオンを利用する ときは、電話か往復ヘガキで 必ず予約をして下さい。 ②予約のときに料金を確認して 下さい。</p>
--	--	---	--

山行計画
(7・8月)

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるのは会員以外の方でも参加できます。「一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先にお知らせください。電話・FAXでの申し込み分はお断りします。」「費用」のほかに参加費(後述)その後の資料代金等をいたたくことがあります。山行中止の場合は参加できなかった場合は連絡してください。休日の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例金の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の緊急に保険料は500円と後援対策費日額50円合計1000円(後行日取りの場合300円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(安田火災海上(株)と契約)
死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 50000円
通院保険金 日額 25000円
保険の別名は集合持ちから繰返すまで。事故があった場合は解散までには申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ヒッケル・6本以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを前提とした山行 ②スキー使用の山行 ③火・岩・氷・暴風雨などを目的とした山行 ④河川内での事故 ⑤病死の場合(詳細は保まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正解に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

東濃・立腹山(二股向き)
期日 7月2日(日) 日曜日
集合 JR名古屋駅中央改札口8時10分(京線駅5時29分発)
コース 名古屋(電車)・恵那駅(タクシー)・塩津(山行)・立腹山(山行)・山腹取付(山行)・立腹山(バス)・恵那駅(電車)・名古屋駅(解散)時引分
費用 約3000円(名古屋から)
地区 2万5千1切井・武並
申込み 小出良春 ○朝倉利己
〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
ヒカリゴケで有名な東濃の名山頂上にある立腹神社は雨乞いの神として信仰されている。雨天中止
近畿百名山を登る(第16回) 室生・三郎ヶ岳(二股向き)
期日 7月9日(日) 日曜日
集合 近鉄名古屋駅8時30分
コース 名古屋(バス)・杉原(水谷林道)・後継・室生山(小須磨)・コスモ谷林道・神天(バス)名古屋(解散)時引分

山行明会の実施について
山行明会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んで下さい。人数により前もってバスなどをチャーターする必要があるかもしれません。また山ではいかなる事態が発生するかも緊急連絡先など、記載すべき事項はそれなく記入ください。申し込みの返信案内は組日が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込みました方はそれまでお待ちください。定例のある計画は先着順に受け付けます。
記載のグレードは、常日登山歩みに慣れ込んでおられることを前提にしています。
(初心者) やさしいコース
(初級) どなたでも歩けます
(一般) ハイキングの標準コース
(中級) かなり経験者のコース
(やや健脚) ・(健脚向) は、危険な所があり、キツイ登りやくだりが長く続くコースとして理解ください。

自然観察山行45
地区 冠山(和歌山向き)
期日 7月8日(日) 日曜日
集合 1R大田駅8時40分
コース 大田駅(バス)・冠山峠(山行)・冠山(バス)・大田駅(解散)時引分
費用 約4000円(大田駅から) 徒歩バス代
地図 2万5千1切井
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
高山性の植物を観望し、湖美湖のジャングルとも称される名峰

山頂からの眺望はすばらしい。小須磨峠へ降りてくだります。雨天中止

高尾山(二股向き)
期日 7月9日(日) 日曜日
集合 近畿名古屋駅8時30分
コース 名古屋(バス)・高井(山行)・高井(バス)・高井(解散)時引分
費用 約4000円(名古屋から) 徒歩バス代
地図 2万5千1切井
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
大峰奥越えコースの第2陣です。オオヤマレンゲの時期を逃がさない。雨天中止

大峰奥越えコースの第2陣です。オオヤマレンゲの時期を逃がさない。雨天中止

鈴鹿を歩く(1)
期日 7月9日(日) 日曜日
集合 近畿名古屋駅8時30分
コース 名古屋(バス)・左保(山行)・左保(バス)・左保(解散)時引分
費用 約4000円(名古屋から) 徒歩バス代
地図 2万5千1切井
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
毎年の恒例になった夏の歩みです。白い花畑のすばらしい景色を歩く。雨天中止

室生・三郎ヶ岳(二股向き)
期日 7月9日(日) 日曜日
集合 近畿名古屋駅8時30分
コース 近鉄名古屋駅8時30分
名古屋(バス)・高井(山行)・高井(バス)・高井(解散)時引分
費用 約4000円(名古屋から) 徒歩バス代
地図 2万5千1切井
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
平日水曜ハイイク 比良・サカガから室生山(二股向き)
期日 7月12日(日) 日曜日
集合 JR長岡京駅西口8時10分
コース 室田(バス)・坂下(山行)・小女(バス)・室生山(解散)時引分

一打見山・クロトノハゲ
JR吉野線(新橋)
費用 約2500円(参加費)
地図 昭文社「比良山」
係 ◎海渡次男 ◎青木二雄
申込み 〒569-1133
高槻市川西町1-18の20
海渡次男まで

北山山歩
北アルプス・常念岳から巖ヶ岳
期日 7月14日(日)夜16日(日)
前夜1泊2日
集合 (14日) JR大阪駅17時
00分発の特急「紀伊」行き
「紀伊」行き
「くま」に各駅より乗車
コース (14日) 大阪駅・途中駅
(15日) (16日)
林道1常念小屋(海)
(16日) 小庄1常念小屋
巖ヶ岳1三股1松本駅
(解散)

費用 約39000円(大阪駅
から交通費・宿泊費)

東新ハイ常念クルーズ
完全な山歩きコースは北アル
プスの大展望台です。タクシーを
利用して林道を走ります。
雨天決行

鈴鹿・釈迦ヶ岳(一般向き)
期日 7月16日(日) 日帰り
集合 近鉄名古屋駅北口8時05
分/近鉄西日市駅湯の山
線ホーム8時05分
コース 四日市駅(近鉄) 蓮野駅
(タクシー) 釈迦ヶ岳
申込み 〒470-0121 蓮野駅
から交通費・宿泊費

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス・常念岳から巖ヶ岳
期日 7月14日(日)夜16日(日)
前夜1泊2日
集合 (14日) JR大阪駅17時
00分発の特急「紀伊」行き
「紀伊」行き
「くま」に各駅より乗車
コース (14日) 大阪駅・途中駅
(15日) (16日)
林道1常念小屋(海)
(16日) 小庄1常念小屋
巖ヶ岳1三股1松本駅
(解散)

費用 約39000円(大阪駅
から交通費・宿泊費)

東新ハイ常念クルーズ
完全な山歩きコースは北アル
プスの大展望台です。タクシーを
利用して林道を走ります。
雨天決行

鈴鹿・釈迦ヶ岳(一般向き)
期日 7月16日(日) 日帰り
集合 近鉄名古屋駅北口8時05
分/近鉄西日市駅湯の山
線ホーム8時05分
コース 四日市駅(近鉄) 蓮野駅
(タクシー) 釈迦ヶ岳
申込み 〒470-0121 蓮野駅
から交通費・宿泊費

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス・常念岳から巖ヶ岳
期日 7月14日(日)夜16日(日)
前夜1泊2日
集合 (14日) JR大阪駅17時
00分発の特急「紀伊」行き
「紀伊」行き
「くま」に各駅より乗車
コース (14日) 大阪駅・途中駅
(15日) (16日)
林道1常念小屋(海)
(16日) 小庄1常念小屋
巖ヶ岳1三股1松本駅
(解散)

費用 約39000円(大阪駅
から交通費・宿泊費)

東新ハイ常念クルーズ
完全な山歩きコースは北アル
プスの大展望台です。タクシーを
利用して林道を走ります。
雨天決行

鈴鹿・釈迦ヶ岳(一般向き)
期日 7月16日(日) 日帰り
集合 近鉄名古屋駅北口8時05
分/近鉄西日市駅湯の山
線ホーム8時05分
コース 四日市駅(近鉄) 蓮野駅
(タクシー) 釈迦ヶ岳
申込み 〒470-0121 蓮野駅
から交通費・宿泊費

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス・常念岳から巖ヶ岳
期日 7月14日(日)夜16日(日)
前夜1泊2日
集合 (14日) JR大阪駅17時
00分発の特急「紀伊」行き
「紀伊」行き
「くま」に各駅より乗車
コース (14日) 大阪駅・途中駅
(15日) (16日)
林道1常念小屋(海)
(16日) 小庄1常念小屋
巖ヶ岳1三股1松本駅
(解散)

費用 約39000円(大阪駅
から交通費・宿泊費)

東新ハイ常念クルーズ
完全な山歩きコースは北アル
プスの大展望台です。タクシーを
利用して林道を走ります。
雨天決行

鈴鹿・釈迦ヶ岳(一般向き)
期日 7月16日(日) 日帰り
集合 近鉄名古屋駅北口8時05
分/近鉄西日市駅湯の山
線ホーム8時05分
コース 四日市駅(近鉄) 蓮野駅
(タクシー) 釈迦ヶ岳
申込み 〒470-0121 蓮野駅
から交通費・宿泊費

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

早稲田山

鈴鹿山(一般向き)
期日 7月20日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅8時20分/
三張峠(伊勢田)駅8時40分
コース 各集合(車) 青川一雄
下合一雄 野々岳 トラウ 竹
川(車) 集合(解散) 17
時頃
費用 交通費各1000円(車代500
円・1000円)
地図 2万5千1号 野々岳
係 ◎山田明男 ◎高橋孝彦
申込み 〒503-0533
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

山口・釈迦ヶ岳・遊歩
羽鳥峰・朝明ヒュッテ
(2) 朝明ヒュッテ(電車)
四日市駅(徒歩) 湯の山
費用 約3000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

北山山歩
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行
北アルプス
費用 約2000円(参加費)
地図 昭文社「御在所・霧ヶ
岳」
係 ◎小山良春 ◎藤原 邦
申込み 〒501-0121
岐阜市寺田大津10の10
新ハイキング関西まで

長いコースだが全道元気に下山した。

- (参加者) 中村和江 松上美代子 堀尾正徳 保田 正 木村千代子 坂尾一正 飯田愛子 木崎彌子 岡松義雄 島田寛子 藤田健一 辻 亨子 東山徳夫 奈良邦子 東中次夫 石原君子 片 すみ子 大島茂雄 山岸隆雄 中上紀代子 山元 武 小松敏子 井林寿彦子 眞田久子 小谷和子 榎 美栄子 木村 豊 大橋完造 中嶋日出男 谷 守 中園昌子 寺本幸男 下西 和 今甲哲也 川崎吉士江 大津勇子 松田輝子 久世美紗子 藤部 純 若木修二 野里マツロ 藤原純男 花橋桂子 野里マツロ 定本由紀 渡辺達郎 山本千鶴子 恒佐正昭 高木 晋 砂原美幸子 岩城勝子 川原勝恵 高原百合子 土井徳夫 榎木金三 和田貞雄 野間和夫 中山光雄 ○奥山繁二 ○市村英雄 ○川上久翠 (計6名)

ネパール・マカール・カンチエ
3月19日(祝) 雲り
近鉄湯の山温泉駅集合8・45―所
不動り・20―きくら林道終点10・
25―大黒峰口・00―湯田峰第1峰
口・10(昼食)11・45―宮妻領キ
トラ湯田登山口12・50―由不動
13・20―近鉄湯の山温泉駅14・00
(解散)

鈴鹿・雲巻峰(三重の山50)
3月19日(祝) 曇り
近鉄湯の山温泉駅集合8・45―所
不動り・20―きくら林道終点10・
25―大黒峰口・00―湯田峰第1峰
口・10(昼食)11・45―宮妻領キ
トラ湯田登山口12・50―由不動
13・20―近鉄湯の山温泉駅14・00
(解散)

森谷の経路が多いので急ぎ。
「運河コース」に変更。それでも
上部には適當な積雪があった登山
の喜びを培ってくれた。第1峰か
らには雄・朝之などの展望を堪能し、
下山はマンサクの花を愛でること
ができた。

- (参加者) 山口晴明 高津智美 森本 勝 森友茂子 三浦真生子 木村和郎 坂浦潔治 森 美孝子 和田四郎 石田真由美 (計12名)
- ◎湯田登山
- 3月19日(祝) ①小山良春
*雨天のため中止しました。
- 3月20日(祝) 晴れ
近鉄大和上市駅集合8・50―9・

ピラトナゲール空港10・00―40
(バス) バサントアール13・15
(テント泊)

- (16日) 8・00出発―ツータ9・
40―10・00―朝食11・00―12・20
―チョーネ16・10(テント泊)
- (17日) 7・35出発―モンゴルパ
レイ9・00―15―ランボカリーグ
フアボカリ14・45(テント泊)
- (18日) 8・30出発―ランボカリー
バルコフ11・00―12・00―チョー
ネ15・00(テント泊)
- (19日) 7・30出発―32500峰
線9・45―55―バサントアール13・
25―40―モンゴルバレイ14・20
(テント泊)
- (20日) 8・15出発(バス)ピラ
トナゲール空港18・00―17・30―
カトマンズ空港18・15―40―ホテ
ル18・50(中)
- (21日) 午前中ヒマラヤ遊覧飛行
午後市内観光
- (22日) カトマンズ空港0・05―
上海空港―関西空港11・20

引返し地点の最終キャンプ地で
白き峰々は見えず、その翌朝待望
のマカール、カンチエが空を現
わす。真紅のシャクナゲや青生ラ
ンを見られ、遊覧飛行も文句なし。
関西、関東楽しく交流した9日

北九州の山・響山と英彦山
3月17日(祝) 20日(祝)
3月18日(祝) 船中泊
3月19日(祝) 大堰橋集合19・00―20・
00(フェリー泊)

- (18日) 後降 新門同港8・00―
10(バス) 道原8・50―55 普生
の滝9・35―45―尺岳登山口13・
05―尺岳平10・50―尺岳10・55―
11・10―山梨峠11・25―奥前越11・
55―12・05―山落とし12・30(昼
食)13・20―福野山13・40―55―
ホツ谷谷岐れ14・40―登山口15・
05―10―七重の滝15・25―35―登
山口15・50―鏡湖ダム16・05―頂
古山16・15―20(バス) 瀬じいの
森17・10(泊)
- (19日) 雨のち曇り 瀬じいの森
8・10(バス) 瀬の島居8・45―
50 峯尾峠9・10―20 白津尾10・
05―行者堂10・30―中岳10・45―
50―中岳10・55―11・00 中岳11・

急な登り下りを繰り返す山だが、
木だに雪が凍てつく冬の日だった。
下山に時間がかかり、全員が全殿
寺へくたつた時は賞賛を呼んで、ラン
プを打ってバス停へ歩いた。霧氷
に輝いていた山頂付近の光景は夢
を見たようだった。

小秋 稔 中島 隆 川戸まつ
長比裕美 佐藤新一 佐藤妙子
木村太郎 浅田俊男 吉岡 仁
星野正弘 西野幸夫 藤部 純
角田一江 原田修実 原田克子
石田豊実 中谷孝子 江村幸裕
和木直樹 森田初子 藤岡敏子
鈴木吉和 白田忠子 渡谷節枝
乙坪直雄 山田泰治 山田多恵子
近藤 耕 横井 徹 横井裕子
安倉正勝 藤井裕子 蓮井洋子
加藤浩二 區見清子 小谷和子
藤本純子 上田正子 市野博文
○別定徳夫 ○村田智俊(計12名)

3月20日(祝) 晴れ
JR大堰橋集合8・40(バス) 旭
ハイランドホテル10・00―ふれあ
いの彩アート10・30―ふれあいの
森登山口10・00―長門山12・20
(昼食)13・10―登山口14・30―
ホテル14・50―15・00(バス) 大
堰橋16・25(解散)

- 予備外の積雪のためルートを変
更、それでも一日を越える登山ハ
イクで順次先頭を交代してラッセ
ル。北西の強風だったがよく開れ
上がり、山頂からは360度に広

10―北岳11・40―45―飯沼12・00
―高津神社・湯田坊バス停12・50
―13・05(バス) 湯田温泉・しゃ
くなげ13・20(入浴)14・14
20(バス) 門司港レトロ15・40
(昼食)17・15(バス) 新門同港
17・35―20・00(フェリー泊)

- (20日) 大堰橋集合8・00(解散)
- 福智山・湯田の梅の香りのなか
を普生の海まで林道歩き、海の高
澄きの急登を噛んだ後は、暖かい
日差しをながめ尺岳から福智山へ
なだらかな難走を楽しんだ。
- 英彦山にのびのびの小雨で、中
所まで続く石段登りを克服し、ア
イスバーンが渡る急坂を滑りなが
らも無事下山した。
- (参加者) 青木一雄 秋田補郎
岩田賢士 小田潤子 北川史枝
木下聰子 小林 桂 佐田次男
原田久子 田中幸雄 竹内貴子
徳田陽子 高松雅子 中井ひろみ
原 文字 船越利明 船越みよ子
前田幸子 南 利淑 宮本博子
三井 敏 宮本 幸 宮本博子
三宅 明 森 現代 山崎 隆
山崎裕彦 山本京子 山盛加登子
湯浅次男 吉植 清
○加藤元彦 ○松尾東彦(計2名)

ある美顔の雪降の大展望を満喫し
た。

3月22日(祝) 晴れ
阪急湯田温泉集合9・00―JR大和上
9・15―松尾山10・00―松山城跡
10・25―北松尾山12・30(昼食)
12・50―松尾山13・50―六丁峠14・
20―小倉山14・40―串山公園15・
45(解散)

- 横断湯田の山をコの子湖に歩
いた。小倉山ではほぼ湯田市街全
域の展望を堪能した。長湯を泡
山公園まで全員歩き通し、途中で
解散した。
- (参加者) 監野香織 吉藤孝次
原田孝子 芝野繁明 林田一正
大崎美雄 中村英雄 中村重美子
石原君子 藤田隆一 大塚昭雄
山崎裕雄 木崎彌子 今藤孝子
東山徳夫 中井幸子 野崎敏子
吉本貞子 吉野 潤 中村サヨ子

佐藤春彦 内藤雅子 江坂美智子
 辻 行子 小杉 浩 真島貞子
 白根清子 中山光郎 中島日郎男
 加藤謙彦 川原勝彦 久世美穂子
 浦上 明 川上 晃 岩本いすゞ
 岡松義雄 湯浅寿夫 田中真知子
 菅井孝子 細井和子 砂原美智子
 田中博巳 ◎呉山繁一(計43名)

北山・鶴宮(後から天狗杉)
 ◎宇日本崎(ハイク50)
 3月22日(日) ◎前中 観
 *急用のため中止しました。

3月25日(日) 26日(月) 1泊2日
 ◎25日 雪 J.R. 郷舎集山口集合
 9・30(ハス) E.L. レンジ
 10・50(地下発電所見学・昼食)
 12・20(バス) 太田ダム13・40
 登山口13・40(夜嵐山往復)登山
 口14・40(飯峠口15・15)飯峠出
 口15・40(徳知休養センター) ◎26日
 ◎26日 雪 休養センター18・00
 (バス) 上町8・40(9・40) 1
 千町11・20(昼食) 12・00(段
 々) 峠12・45(13・00) 千町峠13・
 35(千町峠) 15(バス) 姫路駅

◎解散
 春の日に冬装で2日間其の大雪の
 なかの山行であった。散々峠から
 の下山後の「だんご汁」のうまか
 たこと、地元の人たちに感謝。次
 回は快晴の段々峠へ登って360
 度の展望を楽しみたい。
 (参加者) 野口 泰 山本西臣
 秋田謙三 沖 伸 岩田孝士
 三津敏一 馬場重男 三宅 明
 美村孝治 美村三枝 岩城豊子
 木村裕恵 平取英子 庁 すみ子
 栗岡克子 金田康広 倉田千恵子
 岸上大輔 岡田 昇 岡田恵子
 小林 桂 基間幸子 松本忠雄
 藤岡勝彦 今村 真 今村トリア
 東 美智子 ◎26日 井上 保
 ◎須藤尚 編 (計29名)

3月26日(日) 曇り時々雪
 *峡谷の先が全面通行止で日本コ
 バに変更した。
 如米堂8・50(約の穴9・45) 岩
 尾10・35(衣笠の泉11・00) 日本
 コバ12・10(昼食) 13・10(政所
 15・40) 如米堂16・00(解散)
 約の穴を過ぎると補った感で
 変わり、藤川谷源流の湿地帯に60

特以上の雪崩が大きく広がって
 た。冠雪衣掛の泉から西尾根に取
 りつき、大きな日本コバの雪山を
 十二分に堪能した。
 (参加者) 山田豊三 後藤廣幸
 池田賢美 水戸鉄治 谷 守
 高津智美 森本 勝 森本孝子
 奥村繁樹 大石啓美 武村千鶴
 小谷和子 樺田勝利 河邊牧男
 小林 稔 神野孝光 池田隆一
 梅原香織 信田信臣 三浦真左子
 加藤園子 香具恒夫 石田真由美
 小林 実 ◎岩野 明(計25名)

丹波・虚空蔵山
 3月26日(日) 曇り
 J.R. 郷舎集山口10・25(30) 登山
 口11・00(虚空蔵寺) 11・20(虚空
 蔵) 11・55(昼食) 12・30(第一
 鉄塔) 12・50(第二鉄塔) 13・05(第
 二鉄塔) 13・20(草野鉄) 14・10(解
 散)
 虚空蔵寺はこままりしたお寺で
 木立に囲まれていた。少しばかり
 の急登を登ると山頂。展望はよく
 周囲の山々は春山になっていて雪
 はなかった。
 (参加者) 向田 豊 中屋美智子
 飯田孝子 榎本芳雄 小林ハナエ
 辻 行子 森 明代 草野智雄子

芝野春彦 江口和子 野田マツコ
 朝倉利己 青柳 清 本藤美生夫
 白根清子 白根忠子 森美智子
 近岡孝子 柳野敬也
 ◎高岡健男 ◎小由良春(計27名)
 鈴ヶ岳と美野(鈴鹿山) ◎
 3月25日(日) 26日(月) 雪時々曇り
 *予定は25日だったが、申込者
 が多数で、26日も歩いた。
 J.R. 米原集山口8・30(車) 飯峠
 峠9・30(ヒルコバ) 11・15(鈴ヶ
 岳) 11・45(昼食) 12・20(橋) 13・
 15(草野) 13・25(尾根の鉄塔) 三木
 目14・10(大岩ヶ淵) 14・50(車)
 飯峠16・00(解散) タイムは26
 日)

親雲がまだ1・5分程度もあり、
 福寿草は雪の下で凍めていたが、
 26日に大岩ヶ淵に近い場所でも然
 然咲いている所に出た。雪のなかに
 五株を撮影した。
 (参加者) ◎25日 山本京子
 左海淑子 山縣勝美 朝木美恵子
 上田正子 沢田妙子 佐古田文子
 島田信吾 小松志信 木村カツミ
 鈴木敏彦 中村孝子 加納山紀子
 黒川内重洋明 松上菜代子
 岡 時子 瀬下 雄二 大須賀 寅
 西村文男 山村恭男 荻野美紀恵

細野敬也 中尾和子 堀田由紀子
 山田妙子 伊藤美智子
 ◎26日 大 山田明男(計27名)
 ◎26日 宮田伸子 中川ひろみ
 大村慶子 湯浅徳夫 中川敬子
 余美穂子 北川由美子 中村洋子
 北川直惟 比呂明子 川盛智十五
 六村 豊 木下則子 砂原美智子
 柳原市郎 武部 剛 武部美智子
 中村和江 藤本紀子 宮村孝次郎
 寺田久広 山下由子 野々山 寛
 関口恵子 原 光一 原 孝子
 宮本良幸 宮本悦子 武藤由美子
 ◎水谷俊之 ◎山田明男(計27名)

金巻アルプス
 鈴鹿山から飯峠
 ◎地図読み山行(28)
 4月2日(日) 曇り
 J.R. 米原集山口8・20(30(バス)
 上町生) 9・53(9・15) 落ヶ瀬 9・
 44(10・00) 飯峠山10・52(11・
 06) 天狗尾12・10(昼食) 13・06
 上町生13・17(上町生) 50(14・
 00) 飯峠峠頂14・55(15・00) 1
 オランダ坂15・55(上町生) 15・
 05(26(バス) 津津駅16・50(解
 散)
 上町生は八段で行く光景のレン
 スン(後述)も始まる。予定のコース

をは長時間通りに進んで行く。奇
 岩怪石のオベリスクが連続して現
 れた。二度目二度目の参加者がよ
 うやくコンパスの使い方を心得し
 て地図の声を挙げるなか、39回目
 の地図読み山行を無事終了した。
 (参加者) 本藤美夫 高山久美子
 原 幸子 服部厚子 船本裕巳子
 田中洋子 秋山 純 岩本いすゞ
 大野宏造 柳 礼子 石井加穂子
 松井和子 中西玉枝 徳末加代子
 北川恵子 高月ミロロ
 ◎中村 登 ◎塚元一彦(計19名)

近江カルスト花の口
 杉坂山・アミタ峠
 (鈴鹿を歩く(28))
 4月2日(日) 晴れ
 粟藪8・30(車) 箱ヶ原広場8・
 45(ミツマタの群落) 9・00(西平
 林) 10・45(杉坂山) 11・00(多田大
 村) 11・10(スハマンの群落) 11・
 30(アミタ峠) 11・45(鏡池) 11・
 55(昼食) 12・45(城原) 14・00
 (車) アスマイナゲ群落14・30
 (車) キバナノアマナ群落15・00
 (車) 箱ヶ原広場15・30(解散)
 ミツマタの花は三分咲き、雑木
 の冠帯ではミスマシンの可憐な花
 さを散りながら登る。その中にピン

クのも見られた。そしてスハマン
 ウの花の大群落。桃原ではセツフ
 ンソウの花が出迎えてくれた。車
 で移動しカルストの山地に咲く貴
 重な花々、フクジュソウ・キバナ
 ノアマナ・アスマイナゲなどの群
 落をゆっくり楽しむことができ
 た。
 (参加者) 藤田勝利 石田眞山美
 南井克治 山田豊三 武藤山美子
 宮本真美 宮本悦子 網本美智子
 池田悠遠 池田賢美 柳原市郎
 多賀野一 多賀久子 小林 稔
 永口鉄治 谷 守 今月武司
 後藤廣幸 神野孝光 水谷俊之
 榎部 純 山田明男 小田妙子
 鈴木 実 森本 勝 森本浩子
 ◎小林 実 ◎岩野 明(計27名)

鈴鹿・宮尾峠
 4月2日(日) 晴れ
 J.R. 飯峠集山口8・20(タクシー)
 小枝須山の家 9・40(30) 大石岩
 10・10(20) カワラコバ谷10・30
 11(其のり) 12・10(昼食) 13・50
 1(宮尾峠) 12・55(東海屋) 13・
 1(宮尾峠) 14・30(山の家) 柱
 車15・00(解散)
 小道の連続するカラコバ谷の
 美しい風景を登る。谷筋の雑木林

のなかに残雪があったが、山頂付
 近では70(80)も積もっている。
 馬のり岩で目印になる前の石を見
 つれば、仙ヶ岳から仙尾峠をたど
 る野登山への山道確定して、なか
 なか登山にかかれなかった。東海
 屋からの眺望などを楽しんで下
 山した。(記録・原文子)
 (参加者) 東中次夫 松上美佐子
 高野芳彦 島田信吾 宮村孝次郎
 松井和子 上田正子 庁 すみ子
 中村美雄 城月徳幸 伊藤美久男
 佐々木美千代 竹田美英
 岡松義雄 岡田直規 小崎ゆり子
 吉原孝次 岩城豊子 中尾美智子
 長沢祐美 宮田明子 岡本美智子
 原 文子 美村孝治 石井和子
 ◎朝倉利己 ◎小山良春(計27名)

電ヶ坂から飯峠(鈴鹿山) 電
 4月2日 晴れ
 京橋駅八条口集合8・00(10(バス)
 山) 9・30(30) 湯浅10・35
 1(5) 本太峠11・05(15) 天草山
 12・00(昼食) 12・50(飯峠山) 13・
 20(ナベタコ峠) 14・50(上町生) 谷
 林峠峠頂15・50(大森町) 16・50
 1(40(バス) 京橋駅八条口) 17・40
 (解散)

早春の城戸園遊覧を気分よく歩いた。ササやぶがかなり薄くなり、たよった。庭園上部は現況があり、池をめぐり庭園のくたは遊覧させられたが、全長は地蔵までキマとした。

- (参加者) 藤本純子、山村佳津子、菊池貴織、岩田智士、高橋野池、三津敏一、瀧田、森、東、美智子、小坂博子、馬淵忠男、重野妙子、本間隆、本間繁子、東山雄夫、田中茂、木村光江、谷口文子、大島光雄、佐藤新一、藤田健一、長山繁三、五代、藤、中西啓子、天淵、茂、地田國宏、岸本雄英、入江武史、青木一雄、坂、良男、駒、敏子、木下照子、中村和江、金森節子、下村新一、井藤正樹、渡谷細枝、森田和子、今里由也、若木隆一、辻川延夫、血原高男、山内隆雄、藤澤健二、横井敏子、境方由子、山崎多志子、小谷和子、長尾節子、中嶋日出男、亀本廣治、亀本秀子、中津幸五郎、和田山樹、武田正司、松本忠雄、安谷正勝、小由潤子、○中西啓行、○長尾裕美、○村田智俊(計19名)

館前・紫金山 (自然観察山行39)

白谷林道14・15上り貸着15・50、橋頭合15・45、寺院法場16・30(解散)
西南尾根の急登ではスハマソウの白い花が迎えてくれた。種海草の花園で眺望を楽しみながらの昇り、麓尾根谷ではキンキマノザクラ・フクシニソウ・タンコウバイ・アブラチャン・キアシ・スハマソウなどの花が一斉に咲き出していた。今回はスハマソウのピンクの花を小田さんが発見し、大きむぎの美しい山行になった。

- (参加者) 湯浅康夫、山田隆一、後藤謙三、高津賢次、細木文彦、森本勝、森本孝子、小林、除、武村千鶴、木村正弘、木村千代子、池田茂雄、池田繁美、中川博史、小島昭光、小田妙子、尾野正弘、永口泰治、瀧田、純、伊藤久夫、高原芳彦、河野敦男、馬淵忠男、尾田正子、石原孝子、久保俊和、野田勝利、◎野野明 (計29名)

湖北・菅原ヶ丘

シテクレ林12・60、百三ヶ岳12・40(昼食)、13・30、極楽坂14・10、20、地蔵加減15・15、小入谷15・30、50(バス)安野園行、05(解散)
昨秋に続いて今回は春の自原ヶ丘を歩いた。球果が多く、自ら新道のシテクレ時あたりの足尾道は草原を歩いた。山頂は大草原になっていて大パノラマが展開した。岩場ではイワカガミが花を開いていた。

- (参加者) 木路幸夫、上田久子、塩原香織、三井敏一、砂原忠孝子、青木一雄、味原正一、宮村孝次郎、妹尾公代、田中真雄、田中真知子、入江武史、上山敏子、美村孝治、美村三枝、清川英三、清川昭子、重富妙子、藤田新一、大島光雄、吉澤清、吉村孝次、瀧田純、吉澤孝子、高橋忠男、藤田和洋、中谷善子、古川政司、中西啓子、島田豆子、森本寛孝子、森久夫、林、雄、柳原英代子、東山雄夫、中村英雄、柳原司子、川上晃、橋本和代、川上一江、小谷和子、西野孝夫、西野加代子、田中志子、西村善治、松、良、小畑、孝、稲田勝子、久保田英次

北山・香盤坂から比叡山 (週末ハイイク22)

4月8日(日) 晴れ
*4月1日出の予定だったが、都合で1日に出た。
J長尾園行集合8・10、30(テック)、上野井水場8・50、谷山谷登山口9・05、一の谷10・00、津ヶ池10・50、池原分岐12・10、上野井山13・35、北野前13・20、上野井山13・35、北野前13・30、池原分岐13・35(解散)
残雪が多く谷間は薄雪、中腹以上はまだ多柱氷の状態で、フサザクラ・タンコウバイ・キアシ・アオイスミレ・フクシニソウ・セリバオウレンなど早春の草木の花を愛で、サルや多くの哺乳動物たちのフィールドサインを観察できた。計程を厳しく、申し込みされた方々には、迷惑をおかけしました。

- (参加者) 小澤明美、川崎聖三、金森節子、小林、佳、坂井川信男、佐藤節司、妹尾正一、武部美香子、妹尾公代、田中、明、中村和江、中村善喜、訓井洋子、松田美智子、松田和志、西道里美、山本孝子、若松和子、◎三井敏一 (計20名)

4月9日(日) 晴れ
J長尾園行集合8・20、25、上野井山7・45、45(雨)、新橋登山口9・15、20、香盤坂9・40、50、水鏡対陣跡10・20、上野井山10・55、1ヶケル比叡山11・05、10、上野井山11・35(昼食)、12・50、橋本中道13・30、坂本ヶケル13・30、35、無堂寺登山口15・50、香盤坂14・35、40、石の鳥居15・10、上野井山16・00、散花二乗寺16・30(解散)
うさぎかな春の朝のなかをゆくりペースで歩いた。春霞のため遠望はなかったが、宝ヶ池から静原の京都北部や琵琶湖湖部を眺め、遠眺きの橋を愛でながら花が咲き始めた野原へ行った。

- (参加者) 山内隆雄、岩田智士、本間隆、亀本廣治、亀本孝子、青木一雄、奈良孫子、島田真平、清水昭三、船越利明、船越多子、丹井、武、上山真子、中田茂子、北川史枝、阪口昌司、中尾美智子、川上友隆、宮本英子、竹田英英、高松敏子、長山繁三、森澤昭子、南、寛子、◎野野明(計25名)

北山・小野村集

比良・栗原から権現山 (平日水曜ハイイク27)
4月19日(水) 曇り一時雨
J長尾園行集合7・32(雨)、和道登山口9・15(バス)、栗原8・35、登山口9・30、霧前山分岐10・10、現山10・50、ホッケ山11・20、小女部山11・40(昼食)、12・35、栗原13・50、湯上駅14・45(解散)
小女部谷は上り歩行となった。尾根道では花は見られなかったが、谷をおりて行く可愛らしい花が咲いていた。里の桜は満開だった。

- (参加者) 志原孝雄、妹尾正一、木村、典、吉原孝次、千葉千枝子、本間隆、本間繁子、室田美香子、山内啓子、辻、寛子、久保美穂子、川原隆雄、佐田次男、南、ミチ子、近藤、恭、◎青木一雄 (計17名)

11・00—大杉新地池12・00(集合) 12・50—小野村別荘14・20—30—ワタギ林道15・00—トノ町16・00—20(バス) 出町別荘17・30(解散)

オパナ食道は狭苦があったが、安否里味からは大杉新地池になった。途中、大杉を見て歩いた。小野村別荘からの風景は遠がかり何とも見えなかった。

*係の前中さんは体調が悪く、村田が交替した。

- (参加者) 保田 正 野田 弘 吉塚孝次 飯島 啓 市橋三代子 小林 隆 榎 剛 榎 美菜子 廣代 猛 野間達夫 吉原清夫 川上久雄 東山澄夫 大須賀 實 安原陽子 藤井裕子 中上紀代子 陸 嘉子 木村太郎 水見良子 渡尾健治 上坂延枝 砂原直美子 松村雅子 越川幸子 山本千鶴子 今西光男 竹田美英 山下知余子 山崎加奈子 伊藤みほ

○藤田光彦 ○水見真一 ○村田智成 (計31名) 美濃・伊吹北国道と舟伏山 4月22日(日) 泊2日

40・9・10(バス) 四日原15・10—20—銀新車1・10—四日原11・30—大赤山12・15(集合) 13・00—加藤13・25—基平15・00—駒馬ヶ原15・10—さざれ石公園16・50—17・10(バス) 岐阜市内勢芳稲穂センター18・30(計)

(参加者) 近江秀子 熊田千登子 小山桐子 金藤節子 武部美英子 木村春江 岡止直哉 森本真智子 鈴木信忠 中村静香 宮本真幸 若松寛 ○吉塚孝次 ○藤原孝康(計56名)

や八重のイチリンソウの花のかたまりもあり、美しい山行となった。(参加者) 山口昌三 武藤由美子 小林 隆 池田隆彦 池田英典 森本 勝 森本波子 榎剛計四 小田妙子 野田勝利 伊藤孝次男 鏡部 純 川崎雪天 嶋たか子 河辺敬男 津野秀允 養ひひ子 谷 守 西村正春 高橋真実 小林 実 ○野野 明(計22名)

湖北・横山と全霊寺 (近畿宮内山を登る13回) 4月23日(日) 泊2日

4月23日(日) 晴れ 鹿野池別荘集合8・30(車) あげん 原8・40—カワケニ8・40—高取山10・40—比叡山11・25—比叡神社11・40(集合) 12・20—イワス12・50—後谷14・20—鹿野池別荘15・10(解散)

山もできなかった。山奥横みやブナも観察会から近道でカモシカを見た。永平寺で遊んで帰った(コースタイムなし)。(参加者) 占部信隆 波多野恵子 吉植 浩 船越利明 船越みよ子 木下勝子 野口 隆 砂原直美子 梅原春雄 前田一江 森美高孝子 山藤勝美 山藤 隆 入江武史 山口敏明 熊木秀雄 沢田妙子 林山典彦 墨河内東洋明 美村孝治 美村三枝 米田登喜子 恒任正明 小林 桂 山崎日由男 古田俊治 ○岡田 昇 (計31名) ○岩瀬弘子 西岳・回見岳・ハライド (琵琶山4) 4月23日(日) 晴れ 近鉄湯の山温泉別荘集合9・30(車) 朝明駐車場10・00—根ノ平峠11・00—アノ清水11・30—吉岳11・50—泉見池12・00(集合) 12・35—一面見池12・50—水島池13・15—キノコ池13・30—横尾池14・00—ハライド14・25—横尾池14・35—朝明駐車場15・35(車) 湯の山温泉別荘16・00(解散) ほぼ予定のコースを歩き、お日

出でのアカヤシオはまだ咲き始めて、ハライドの山一面が真っ赤になる所は見られなかった。他はミツバツツシの共、タムシバの白さが際立った山歩きだった。(参加者) 船本誠治 佐古田文子 上田孝子 石渡隆子 前川和子 後藤隆幸 丹下由子 坂井田彦男 大村孝子 和田四郎 桐木英子 山本京子 小松志信 伊藤恵美子 島原信吾 藤室国男 加納山紀子 上田政子 後田陽子 山野志保江 真山明子 山村恭男 森 美智子 狩野英彦 池田隆一 大西シマ子 鈴木敏彦 細野敏也 中塚和子 ○高原光彦 ○山田明男(計31名)

湖北・七七頭ヶ岳 4月23日(日) 晴れ JR木ノ本別荘集合9・35(タクシー) 上丹生9・50—10・05—七七頭ヶ岳11・30(集合) あり池12・12・30—宮前13・30—38(バス) 木ノ本駅14・03(解散) 上丹生から登頂された道を登った。タムシバ、スミレ、シロウジョウバカマの花を見た。山頂はブナ林のなかで積雪はまかないが、木立ちの間から赤杉林、その奥の琵琶湖が一望できた。琵琶へのくだ

口15・20—30—高山16・40(バス) 長浜別荘17・05(解散) 花と森と大パノラマに恵まれた一山をゆっくり歩いた。さすがに名山らしく色合いのある山だ。須賀宮温泉は褐色の湯で手湯に変わった。(参加者) 小林 隆 武部美英子 岡山春英 鈴木吉和 森美高孝子 山藤 隆 船越 敏子 波多野恵子 岡 久子 米田次男 多野明一 多野久子 岩田哲士 寺岡公広 吉木一雄 中村静香 小谷節子 熊木秀雄 入江武史 山上紀代子 田中義雄 中島 隆 高岡信男 渡辺隆彦 渡田陽子 中谷孝子 小山 輝 渡田俊男 木村朝原 中村静香 中村春江 小田桐子 中村桂子 ○長山繁三 ○岡田智成(計26名)

4月30日(日) 晴れのち曇り JR関ヶ原駅8・25—三岐内野尻駅9・00(集合) (車) コケルミ谷 登山口9・25—後谷10・00—カクタリ峠10・25—泉見池10・30—カタクリ峠10・45—11の谷—丸山分岐11・15—釜助の池11・45(集合) 12・25—ボクランブテ12・

好評九刷
発売中

日本二百名山ガイド

第15巻

東日本編

好評八刷
発売中

日本二百名山ガイド

第16巻

西日本編

新ハイキング選書 日本山岳会選定

この本によつて
三百名山の
時代が来る。

市川啓子・岡田敏夫・岡部紀正・川越はじめ・廣澤和嘉 共著
新ハイキングの精鋭の五氏が、最新の実地踏査による地区、
写真、コースタイム入りの内容豊富なガイドブック。
●各A5判 320頁 定価1980円(税込)

●送料の都合でのご注文は送料別当り
発行所 新ハイキング社
東京都北区滝野川7-6-13
TEL/FAX (03) 3915-8110

発(フレイバー)

- △1日 明也 東子巻 10・10・20
- △2日 愛蔵山トネル登山口7・
- 25・55 湯野山 40・55 妙子
- 高子9・50・10・10 桑園山11・
- 05 (原登) 11・50 志願山12・45
- ・13・05 柳ヶ峰14・45・15・20
- ・丸山15・55 (原)
- △2日 折れ 丸山15・55 11時
- ・7時 20・35 西山遊覧7・
- 55 ちち山15・25 11の谷17・
- れ8・45 11の谷19・00 11の谷
- 9・25 40 半平10・10 35 11
- 中七巻11・00 11巻10 第一鉄
- 馬中間点1・20 (原登) 12・00 1

- 中七番・グリーンピア住友の森
- 13・15 30 別子ダム・自衛登山
- 14・15 20 タイキヤンク水15・
- 00 10 10 山登15・55 16・05
- △3日 晴れ 御山山頂ヒュッテ6・
- 30 10 25 登山15・15 西赤石山
- 8・10 25 10 10 10 10 10 10
- 10 10 25 10 10 10 10 10
- 55 10 10 10 10 10 10 10
- 10 10 10 10 10 10 10 10
- 55 10 10 10 10 10 10 10
- 05 10 10 10 10 10 10 10
- 25 35 (バス) マンントピア別子

16・20 入浴・夕食 19・00 (パ
ス) 新居山13・50 40 40 (ラ
リー) 池

△1日 大塚清彦 5・60 (原登)
天候に恵まれたのでピクニックに
時間をとり、登山の1・2日目は
縦走路や田山の山々を眺め、3日
目は新居山の海沿いの風景も楽し
むことができました。赤石山系縦路
のツツジは咲きながらまだ開花前
だったが、山頂の山花や数種類の
ツツジは見事だった。

◎寄附者 石田哲一 石坂倫子
富岡啓子 富岡啓子 金巻節子
中本麻治 青柳 村 奈良孝子

近江秀子 山藤豊英 高野裕雄子
山本京子 小林 桂 安田文子江
真田久子 北川史枝 山本千鶴子
湯浅次男 南 寛子 前田利雄子
三井城一 船越利明 船越孝子
宮本真幸 上田久子 関口孝子
◎寄附先 池

9月22日(金)28日(月)7日間
に、アルパインツアーサービス
社主催で「アラスカ紅葉ハイキ
ング」を企画しました。次号で
計画を発表します。乞い期待。

新ハイキングクラブ関西 入会のご案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(毎月刊・年6号発行)の
定通読者を中心としたハイキン
グの集いです。

この雑誌に紀行やコースガイ
ドなど、関西のハイキングコー
スや山の情報を掲載しています。
山の知識を深め、情報誌がでれば
な身体をつくり、自然のなかを歩
く喜びをともに広げましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
55年発足以来、東京を中心に30年
間も好評のうちに活動してまいり
ました。関西は30年を節目として年日
に入ります。すでにたくさんの方
が参加を希望しています。

会費は関西の山行例金に優先し
て参ります。この山行例金を
納めてほしい山歩きを、楽しい山
仲間たちと味わいませんか。

リーダー(原)はすべて無償の
奉仕で、名古屋で初歩を教いた代を
払い、宿泊料もすべてワリカンで
す。

会費には必ず「新ハイキング関
西の山」をお送りします。
四季の自然に触れながら歩まへ

若々しい心と健康をいつまでも持
続するのはすばらしいことです。
これから始めてみたい人も、すで
にベテランの人も含めたくさん入会
いただければ幸いです。

入会費 5000円(パソコン代
年会費 3000円(送料共)

年会費の申し込み(原)は、この
雑誌に挿入の返書用紙をご利用く
ださい。返書(原)がな、及び第
何号からの返本かを忘れずに記
入ください。

なお、定額郵便で送られる
方もお受けなっています。詳しくは、
返書用紙に必ず元に通じますので
見てください。

切手5000円分をお送りになれ
ば、「新ハイキング関西の山」見
本等をお送りします。

○山行リーダー募集

無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方や、やってみたいと思われる
方は、新ハイキング関西までご連絡
ください。マニュアル(リーダー
必携)を送ります。

○新入会員紹介

- 新しい仲間のみなさんです。
会費を2225番から42222
番まで
- 【埼玉】 中根隆夫
 - 【神奈川】 氏原崇夫
 - 【群馬】 三村 昭 竹岡佳代子
 - 【茨城】 川越文雄
 - 【栃木】 堀田敏子
 - 【三重】 辻やす香 倉本勇夫
 - 【滋賀】 近藤清司 中藤ひろ子
 - 【京都】 津波孝之 細原雅子
 - 【奈良】 定本出紀 北川ひとあ
 - 【和歌山】 高岡 仁 若藤千恵子
 - 【山形】 山田孝雄 若藤千恵子
 - 【山梨】 上田正一 大塚利雄 谷岡 武
 - 【長野】 松本和子 佐野徹子
 - 【大分】 坪口和子 山崎正博
 - 【福岡】 山崎和子 中村友昭
 - 【熊本】 川西敬泰 湯田和夫
 - 【鹿児島】 渡辺信広 坂口美穂子
 - 【沖縄】 高橋昌子 坂井克久
 - 【東京】 前田新一 中川孝子
 - 【奈良】 下北健代 若林文夫
 - 【和歌山】 山崎和子
 - 【三重】 中根隆夫
 - 【滋賀】 辻やす香
 - 【京都】 定本出紀
 - 【和歌山】 高岡 仁
 - 【山形】 山田孝雄
 - 【山梨】 上田正一
 - 【長野】 松本和子
 - 【大分】 坪口和子
 - 【福岡】 山崎和子
 - 【熊本】 川西敬泰
 - 【鹿児島】 渡辺信広
 - 【沖縄】 高橋昌子
 - 【東京】 前田新一
 - 【奈良】 下北健代
 - 【和歌山】 山崎和子
 - 【三重】 中根隆夫
 - 【滋賀】 辻やす香
 - 【京都】 定本出紀
 - 【和歌山】 高岡 仁
 - 【山形】 山田孝雄
 - 【山梨】 上田正一
 - 【長野】 松本和子
 - 【大分】 坪口和子
 - 【福岡】 山崎和子
 - 【熊本】 川西敬泰
 - 【鹿児島】 渡辺信広
 - 【沖縄】 高橋昌子
 - 【東京】 前田新一
 - 【奈良】 下北健代

訂正とお詫び

52号(初夏)17ページ下段「行
日」項より「は」が「は」が
正しい。

52号(初夏)22ページ下段(連
形)は「方」を「又」又「又」
に加え「本」が必須です。

52号(初夏)72ページ上段の題
名「相模山(相模山)」は「相
模山(相模山)」が正しい。

52号(初夏)78ページ下段の行
日「奥谷林道」は「奥谷林道」
が正しい。

【編集】

「必ずお求めになりたい方へ」
而もって書店に届かない
と「送料」をきかれますと、
どこの書店でもお買い求め
いただけます。御教書の28日(日)
前までにお知らせください。